

多賀城市市民活動サポートセンター
平成 30 年度運営業務成果報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

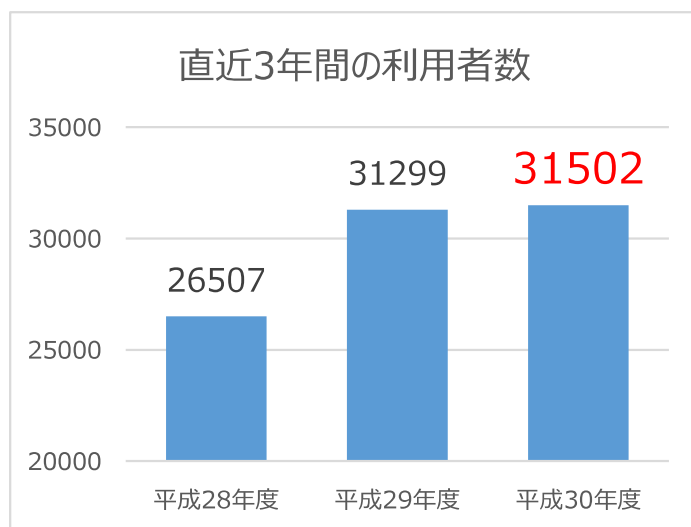
平成 31 年 3 月 31 日

平成30年度運営業務成果報告書 目次

数字で見た平成30年度	1
平成30年度の主なトピック／出来事	2
I 平成30年度運営業務報告	
1 方針	
(1)3ヵ年(平成29～31年度)の施設運営方針	8
(2)平成29～31年度ロードマップ	10
2 平成30年度成果・課題	
(1)平成30年度成果・課題	12
(2)平成30年度実施事業一覧	16
3 運営状況	
(1)利用状況集計	
①総利用数・貸室利用率	18
②利用団体の活動分野	19
③利用団体の属性	20
(2)相談対応実績	23
(3)情報提供	
①団体情報ファイル	31
②ウェブサイト・ブログ・ツイッター	34
③たがさぼ文庫	36
(4)場の提供	
①共同事務室入居団体インキュベート相談/ワークスペース運用	37
②フリースペース利用状況	39
(5)他団体・他機関との連携	
①各会議・実行委員会への参加	42
②他部署・他機関との連携事例	47
4 事業実施状況	
(1)開館10周年記念事業	52
(2)課題解決のための連携モデルづくり	
①多様な主体で課題に向かう場づくり.....	58
②自治会・町内会運営支援	65
(3)人材育成	
①雑貨市	66
②NPOきっかけ塾	73
③TAGAJO Future Labo	80
(4)情報発信強化	
①月刊フリーペーパー「tag」発行	87
②市民の発信力強化	93
(5)市職員研修	94
(6)その他事業	
①NPOの絵本展	98
②たがさぼカフェ	102
II 平成31年度事業計画	
1 平成29～31年度ロードマップ修正版	106
2 平成31年度事業計画	107
III 添付資料	

数字で見た平成 30 年度

1. のべ **31,502 人** が訪れました。



→詳細は 18 ページ「(1) 利用状況集計」を参照

2. のべ **465 件** の相談が寄せられました。

→詳細は 23 ページ「(2) 相談対応実績」を参照

3. **2,070 種類** の情報を収集・館内に配架しました。

→詳細は 22 ページ「参考：情報関連業務利用状況推移 情報揭示」を参照

4. のべ **1,913 人** が事業に参加しました。

→詳細は 51 ページ「I-4 事業実施状況」を参照

5. T S C の支援で **7 団体** が立ち上げ・法人化に至りました。

→詳細は 28 ページ「ステップ」を参照

平成 30 年度の主なトピック

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）は、平成 20 年 6 月の開館以来、地域づくりの拠点として、N P O や自治会・町内会、生涯学習団体等市民活動の力づけを行うとともに、市民・企業・行政等による協働の地域づくりをサポートし、開館 10 周年を迎えた。

平成 29～31 年度 3 ヶ年の業務委託の 2 年目となる平成 30 年度を、主なトピックと出来事でふりかえる。

1. 開館 10 周年記念イベント実施・記念誌発行

平成 30 年 6 月に開館 10 周年を迎えるにあたり、平成 29 年度よりプレイベント 3 回を経て、記念イベントを実施した。のべ 89 名が参加し、トークを通じてこれからの地域づくりに必要な視点を共有し、参加者同士の新たなつながりも生まれた。

上記のプレイベント・記念イベントの記録や市内で活動する団体のインタビューを集め『ここから～もうひとつの多賀城ガイドブック～』を発行し、身近にある活動を知り、アイデアが得られるきっかけを提供した。

2. 多様な主体と協力して取り組む

市民・企業・行政の連携を生むとともに、T S C 自らの連携の姿を示すことができた。

- ・平成 29 年度に実施した地元企業の地域貢献活動調査を受け、地元企業から地域貢献活動に関する相談を受け、N P O とつながる事例が生まれた。
- ・同じく平成 29 年度に町内会を対象に行った取り組み調査結果は、「広報多賀城」と情報紙「tag」とで連携し、これからの地域を考えていくために必要な情報を伝えることができた。
- ・地域福祉とコミュニティの担当が連携してまとめた市内の介護予防の取り組みは、県内の支援者等が集まる場で発表の機会を得て、各機関との連携のモデルとして発信することができた。
- ・市内公共施設との情報交換を重ね、団体、施設と連携した企画を実現した。

3. 事業間で連携し、アクションにつなぐ

N P O いちから塾を受講し N P O の基礎知識を学んだ参加者 7 名のうち 4 名が TAGAJ0 Future Laboへ参加、学生向けの N P O きっかけ塾受講者のうち 5 名が雑貨市ボランティアとして参加につながった。事業間で連携し、活動に踏み出すステップを提供し、活動実践者の創出につながった。

平成 30 年度の主な出来事

平成 30 年

4 月

- 6 日 視察 多賀城市新規採用職員見学受入
- 6 日 掲載 オルタナ・オンライン T S R 会議 Vol.1 開催報告
- 14 日 施設管理 事務用ロッカー・レターケース更新（～5 月 13 日）
- 16 日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集（～5 月 6 日）
- 26 日 施設管理 事務用ブースインキュベート相談会

5 月

- 19 日 出展 鶴ヶ谷児童館こどもまつり N P O 絵本展出展
- 26 日 視察 宮城の地域福祉を考える会「ゆいっこ」ヒアリング受入
- 28 日 視察 国家公務員初任行政研修地方自治実地体験受入

6 月

- 10 日 事業 N P O いちから塾
- 19 日 視察 仙台市社会福祉協議会宮城野区事務所実習生見学受入
- 23 日 事業 開館 10 周年プレ企画 Vol.3
- 24 日 出展 多賀城跡あやめまつり N P O 絵本展出展

7 月

- 1 日 事業 第 1 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 10 日 出演 ベイウエーブ「ラジカルト」 10 周年記念事業告知
- 12 日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集（～5 月 6 日）
- 22 日 事業 開館 10 周年記念イベント
- 22 日 事業 たがさぼの七夕雑貨市
- ～25 日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集

8 月

- 5 日 出展 シオーモ絵本まつり出前絵本展
- 5 日 事業 第 2 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 22 日 施設管理 消防訓練
- 27 日 掲載 河北新報朝刊 スペシャルトーク告知
- 31 日 施設管理 事務用ブースインキュベート相談会

9 月

- 2 日 事業 「TAGAJ0 Future Labo」 スペシャルトーク
- 2 日 事業 第 3 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 30 日 出展 山王地区公民館まつり出前N P O絵本展

10 月

- 8 日 事業 第 4 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 15 日 出展 しおがま絵本村あきまつり出前絵本展
- 20 日 出演 東北学院大学「震災と復興」
- 25 日 視察 高崎中学校職場体験受入

11 月

- 4 日 事業 第 5 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 5 日 視察 仙台市市民協働推進課受入
- 8 日 施設管理 利用者アンケート実施（～27 日）
- 11 日 事業 N P Oきっかけ塾（学生向け）
- 20 日 事業 出前きっかけ塾（多賀城高校キャリアセミナー）
- 22 日 出演 多賀城工場地帯連絡協議会市政懇談会にてT S C紹介
- 22 日 掲載 河北ウイークリーせんだい 雑貨市告知
- 22 日 事業 雑貨市P R展示@多賀城市役所 1 階ロビー（～12 月 7 日）
- 25 日 事業 雑貨市ボランティア事前説明会
- 25 日 事業 雑貨市出展団体決起集会

12 月

- 1 日 展示 出張N P Oの絵本展@市立図書館（～31 日）
- 1 日 事業 音と絵本のおはなし会@市立図書館
- 2 日 事業 第 6 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 3 日 掲載 河北新報朝刊 N P O法施行 20 年記事
- 4 日 出演 ベイウエーブ「ラジカルト」 雑貨市告知
- 5 日 掲載 朝日新聞朝刊 雑貨市告知
- 7 日 放送 NHK仙台「てれまさむね」 雑貨市告知
- 7 日 放送 仙台放送「プライムニュース」 雑貨市告知
- 9 日 事業 「たがさぼのクリスマス雑貨市」
- 16 日 施設管理 事務用ブースインキュベート相談会
- 19 日 事業 出前きっかけ塾（第二中学校 1 学年）
- 20 日 掲載 河北新報朝刊 雑貨市開催報告
- 22 日 施設管理 事務用ブースインキュベート相談会

平成 31 年

1 月

- 10 日 事業 市職員研修第 1 回
- 12 日 施設管理 事務用ブース更新審査会
- 14 日 事業 たがさぼカフェ Vol.1
- 18 日 掲載 河北新報朝刊 T S R Vol.2 告知
- 22 日 事業 T S R Vol.2
- 23 日 施設管理 消防訓練
- 27 日 掲載 河北新報朝刊 T S R Vol.2 開催報告
- 28 日 事業 市職員研修第 2 回

2 月

- 14 日 事業 たがさぼカフェ Vol.2

3 月

- 3 日 掲載 河北まごころねっと T S R Vol.2 開催報告
- 10 日 施設管理 事務用ブースインキュベート相談会
- 16 日 事業 たがさぼカフェ Vol.3

I

平成 30 年度運営業務報告

I -1 方針

(1) 3 カ年（平成29～31年度）の施設運営方針（再掲）

平成 29～31 年度の 3 カ年の業務委託に際し、3 カ年（平成 29～31 年度）の施設運営方針を以下のように定めた。この方針に基づいて事業立案や運営を行っている。

T S C が目指す多賀城のまちの姿

市民・企業・学校・行政など地域のさまざまな主体が協力し合うことで、それぞれの暮らしの課題が解決されたり、暮らしがより充実したりし、笑顔があふれるまちになります。

T S C の役割

- まちの魅力や暮らしの課題に気づき、主体的に行動する市民が育まれる場。
- 想いをかたちにしてできる場。想いをかたちにする伴走型サポーター。
- 地域づくりに取り組むさまざまな主体のコーディネーター。

平成 29～31 年度で T S C 運営において特に力を入れること

- 1) 地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのさまざまな主体による連携の仕組みづくり
地域の課題を解決し、地域の価値を創造するためには、市民だけでなく地域のさまざまな主体が力を発揮し連携しながら取り組んでいく必要があります。
これまでの地域づくりに取り組む人・団体に加え、地元企業や高校・大学との関係づくりに重点的に取り組みます。
また、具体的な課題（例えば、高齢者の生活支援、空き地・空き家問題など）を設定し、さまざまな主体が参加して考え、実際に取り組む場をつくり、課題解決の取り組みモデルとして発信します。T S C に課題が持ち込まれ、T S C がコーディネート役となり、さまざまな主体が連携して解決する道筋をつくります。
- 2) 地域づくりに関わる人材育成
少子高齢化が進む中で、地域づくりの新たな担い手を育成し、次世代につないでいくことが重要です。
例えば、以下のような視点で人材育成に取り組めます。
○想いをかたちに行っている人たちの姿をみせ、「何かやりたい」という方へのアプローチを行う
相談や事業に参加する層をみると、20～40 代の現役層、60 代の退職後の方が多く、相談や事業

をきっかけに実際に活動を立ち上げています。「何かやりたい」という想いを持っている層にしばらくした事業を行うことで、他の層への波及効果が期待できます。例えば、20～40代であれば子育て世代でもあるので子ども世代に、60代であればその下の年代である50代への波及効果をねらうことができます。

○文化交流拠点でTSCは市民の稽古場・実験の場として

図書館や文化センターで行われるさまざまなイベント等を体験し、「何かやってみたい」という気持ちになった市民が、想いをかたちにしチャレンジできる場がTSCです。TSCでの取り組みをきっかけに図書館・文化センターや地域で活躍するという循環をつくっていきます。

3) 市民活動やTSCを知る市民の増加

市民活動に関心のない方、「何かやりたい」と思っている方へさらなるアプローチを行うために、情報発信の強化に取り組む必要があります。

ウェブ・情報紙・館内展示などのTSCの情報発信媒体の工夫、地域づくりを行う活動者の発信力の強化によって、市民がより地域づくりに関する情報にアクセスしやすい環境をつくれます。

市民が地域づくりに関する情報にふれることによって、その中から市民活動に関心を持つ市民、実際に活動をはじめる市民を生み出していきます。

運営する上で大切にすること

- 市民の力を信じ、市民とともに多賀城に新しい価値を創造します。
- 多賀城の地域づくりが活発になるサポートをするという視点から行動します。
- 多賀城の地域づくりを一緒に進めていく同志であるという視点から行動します。
- 窓口対応は、相談につながる、ニーズを把握する大切なコミュニケーションです。
- 正確な窓口対応を行います。

(2) 平成 29～31 年度多賀城市民活動サポートセンターロードマップ修正版 (平成 30 年 4 月更新)

平成 28 年度の取り組みを踏まえ、平成 31 年度末にめざす姿へのステップを、平成 30・31 年度の具体的な取り組みとして加えた。また、市職員研修事業を平成 30・31 年度に追加した。

	現状と課題	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018)	平成 31 年度 (2019)	3 年後の姿
重点的な取り組み①	・下記事業を実施していくにあたり、企業、高校・大学と連携できる下地づくりが必要。	●企業との関係構築 ○地元企業の CSR 調査 ●高校・大学との関係構築 ○学生向けNPOきっかけ塾の実施 ○相談対応	○多様な主体で課題に向かう場づくり ○出前いちから塾 ○相談対応 ○学生向けNPOきっかけ塾の実施 ○相談対応	→	・企業、高校・大学が地域づくりの主体として活躍している。
重点的な取り組み② 開館 10 周年記念事業	・多賀城のまちについて集まって話したり考えたりする場が少ない。	○プレイベントの実施 ・Vol.1「世代を超えて集う場」 Vol.2 「まちをもっとおもしろくするカギ」 → キーワードの収集	・Vol.3 「だれもが暮らしやすい社会を考える」 ○記念イベントの実施 ○イベントの内容を元に 10 周年記念誌を発行 →この 10 年をふりかえるとともに、これからの地域づくりのヒントになるものを発信する。	→	・多賀城のまちについてさまざまな主体による対話の機会が増えている。
課題解決に向けた取り組み	・課題解決のためにはさまざまな主体が力を発揮する必要がある。(協働から総動へ)	●課題の把握 ○地元企業のCSR調査 ○自治会・町内会の課題・取り組み事例調査	●多様な主体で課題に向かう場づくり ○NPOや企業の取り組み発表会 ○特定のテーマに関心のある方の集まり ○設定した課題を深く考える会 ※自治会・町内会運営支援 解決に向けたアプローチと今後の支援の方向性の検討	●小さなチャレンジを生み出す。 ●課題解決のモデルとして発信。 ○フォーラム ○冊子化	・TSC に課題が持ち込まれ、TSC がコーディネート役となり、さまざまな主体が連携して解決していく道筋ができる。
地域づくりに関わる人材の育成	・少子高齢化が進む中で、地域づくりの担い手育成が必要である。 ・既活動者が活動を継続していくために段階に応じた支援が必要である。	●地域づくりの新たな担い手育成 ○稚賀市 ○NPOきっかけ塾 ・NPOいちから塾 ・対象者別(学生、シニア、現役層) ・出前いちから塾 ○TAGAJO Future Labo ●既活動者の育成 ○作進型相談対応をベースとする。	○稚賀市 ○NPOきっかけ塾 ・NPOいちから塾 ・対象者別(学生等) ・出前いちから塾(企業向け) ○TAGAJO Future Labo ○相談対応	→	・市民活動・地域活動への多様な関わり方をしている人が増えている。 ・市民による課題解決の取り組みが増えている。
情報発信強化	・上記の事業の成果を地域に広めていくためには情報発信強化は欠かせない。	●地域づくり活動の発信強化 ○「tag」の発行 ○ウェブサイトリニューアル ●市民の発信力強化 ○広わる広報講座(文章術、チラシデザイン、SNS) →既存団体がノウハウを得て発信力強化	○「tag」の発行 誌面のリニューアル ※SNS上で市民の地域情報発信を促進 →発信する市民を増やす、情報を拡散する	→	・地域づくりに関する情報によりアクセスしやすくなっている。 ・市民による情報発信がより活発になっている。
市職員研修事業			○市職員研修	○市職員研修	

I -2 平成 30 年度成果・課題

（１）平成 30 年度成果・課題

＜施設運営方針に沿った成果・課題＞

3 ヶ年（平成 29～31 年度）の施設運営方針に沿って、事業実施（16 ページの「（２）多賀城市市民活動サポートセンター平成 30 年度実施事業一覧」参照）も含めた平成 30 年度の T S C 運営全体の成果・課題は以下のとおりである。

1）地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのさまざまな主体による連携の仕組みづくり

【成果】

- 平成 29 年度実施の地元企業の C S R 調査・T S R 会議に協力・参加いただいた企業等との情報交換の機会や相談が寄せられたことから、企業と T S C との関係性を深めることができた。また相談対応を通して、企業と N P O との連携事例を生み出すことができた。
- T S R 会議は企業・N P O ・行政等が参加し、一つのテーマについて一緒に考える場としての認知が広がりつつあるとともに、他セクターが集う場を形成することで、地域や社会の課題解決に向けた基盤をつくることができた。
- 平成 29 年度実施した自治会・町内会の課題・取り組み事例調査の結果をもとに、広報多賀城と情報紙「tag」と連携して取り組み事例を発信し、これからの自治について考えるきっかけを提供することができた。
- 自治会・町内会の運営基盤を整えるため、区長会、行政、大学と協力して区長制度について考える場を開催した。
- 災害公営住宅関係課ミーティングなど、他機関が実施するネットワーク型の会議に引き続き参加し、市内活動者・企業・行政との関係づくりを進めた。地域福祉とコミュニティの担当が連携して準備を進めた介護予防展の成果物は、東北学院大学地域共生推進機構コミュニティソーシャルワーカー公開研究会で発表の機会を得て、各機関との連携のモデルとして発信することができた。

【課題】

- T S C と各セクターの関係づくり、個々の団体同士のコーディネートを引き続き行っていくとともに、セクター同士が互いの理解を深めていくことでより連携しやすい環境を整える。
- 多賀城に事業所をもつ企業の内半数以上が従業員 10 人未満であり、従業員の数や事業形態などから貢献活動が難しいことが考えられる。企業にどのようなメリットがあるかを示せることも必要である。
- 区長制度廃止に伴う自治組織の変化に応じた関わり方を、地域コミュニティ課とともに検討する必要がある。

2) 地域づくりに関わる人材育成

【成果】

- 雑貨市では、2 回の実施でのべ 1, 126 人が来場し、NPO や社会貢献にふれる機会となった。
- NPO きっかけ塾では、「市民活動入門」「学生ボランティア」「ゴミ拾い」というテーマで講座を実施。計 29 人の参加者の内、11 人が受講後に、次のアクション（TAGAJ0 Future Labo 受講、雑貨市ボランティアへの参加、他団体の活動に参加）を起こした。事業間で連携し、活動に踏み出すステップを提供し、活動実践者の創出につながった。
- TAGAJ0 Future Labo は、8 人の受講生の内、受講者 7 人がマイアプローチ発表会で自分の想いを発表し、実現に向けた第一歩を踏み出すことができた。
- 雑貨市では、前日 7 名、当日 34 名がボランティアとして運営に関わり、活動の実践の場を提供することができた。
- 相談対応によって、市民が、自身の想いの整理、情報収集、団体運営強化、他の活動者との接点づくり等を行うことができた。
- 開館 10 周年記念事業では、計 57 人の参加者が暮らしやすい地域の実現のために、自分の想いを整理し、共有することができた。

【課題】

- 市民活動に興味・関心はあるが行動に移していない人の参加を促すため、対象やテーマ設定、プログラム、情報を届ける等で工夫し、新規層の開拓と育成を目指す。
- 企業への調査や相談対応から見えたニーズに応じて出前講座を実施し、企業の NPO への理解や社会貢献の促進を図る。

3) 市民活動やTSCを知る市民の増加

【成果】

- 情報紙「tag」では、NPO、自治会、企業の取り組み、団体間の連携といった幅広い地域づくり情報を発信した。情報を受け取った多くの市民が地域づくりについて知る機会となった。
- 昨年度事業「伝わる広報」講座をもとに、情報発信に役立つ想いや考えをまとめるシートを作成、研修や相談対応等の計 5 件で活用し、市民活動団体の情報発信力の強化につながった。
- 市内で行われるイベントに「NPO の絵本展」で出展し、普段TSCを利用していない来場者に対し、身近な市民活動や社会課題を知るきっかけを提供した。また市立図書館と共催した「NPO の絵本展」では、会期中に読み聞かせ団体、ライブ企画団体と読み聞かせイベントを実施し、普段TSCを利用していない来場者に対し、TSCや身近な市民活動・社会課題を知るきっかけを提供した。また、複数の団体と連携することで協働の姿を示すことができた。
- 雑貨市では、告知の段階でたがじょう秋まつりやこどもまつりなどの市内のイベント会場でチラシを配布し、イベントのみならずTSCの認知向上に努めた。当日は、新規来場者がアンケートでは 39 名、エントランスシール集計では 105 名を数えた。買い物やトークイベントを通して、新たに市民活動やTSCを知る人を増やすことができた。

- 初の試みとして「たがさぽカフェ」を企画し、新たな来館者獲得や、既来館者のT S C機能活用につなぐしかけづくりに取り組み、新たな相談や図書貸出利用につながった。

【課題】

- 多様な媒体（ウェブ、SNS等）との連動や配架先の開拓等の工夫によって、情報紙「tag」を手にする、目にする機会を増やし、地域づくりの取り組みをさらに発信する必要がある。
- 市民が活動や地域づくりのことを発信する力を高めることで、より多くの市民がN P Oを知る機会とする。

＜各属性への支援＞

T S C と各属性への支援は以下のとおりである。

【市民活動団体】

- ・各事業において、市民活動団体が講師となる、出展する、tag やたがさぽ press に情報を掲載する等によって、活動や取り組んでいる地域課題の普及啓発につながった。
- ・市民の発信力強化において作成したツールを活用し、団体の広報力強化につながった。
- ・団体立ち上げに関して、相談対応を通して立ち上げ支援に取り組んだ。

平成 30 年度立ち上げ支援による活動開始団体

宮城青少年悩み相談

憩い・くれよん

山王・南宮地区「となりぐみ」

ゆるっとまものわ

卓球を通しての場づくり

子育て支援講座の開催

N P O 法人仙台スラックライン（法人化の相談対応）

【自治会・町内会】

- ・情報紙「tag」では、自治会運営やコミュニティ形成に役立つ事例を発信した。
- ・印刷機利用等で来館した区長・役員とのコミュニケーションや区長会への出席を通して、地域や自治会に関する情報収集を行い、支援情報として活用した。
- ・区長制度改正に伴う説明会・アイデア出しのサポートを行った。

【企業】

- ・社会貢献に関する相談対応を行い、他セクターとつないだ。
- ・「障がい者雇用」をテーマとしたセクターを超えて課題について考える場を設けた。

【学校・学生】

- ・学生を対象とした講座や雑貨市ボランティア等、学生が地域やN P Oに関わる機会を設けた。
- ・第二中学校 1 学年の総合的な学習の時間のサポートを行い、地域の活動を紹介した。

【行政】

- ・行政各課が実施するネットワーク型会議や実行委員会に参加し、各課、市内活動者、企業といった各主体と連携して地域課題について考えることができた。
- ・介護予防展等、課を超えて連携する企画に協力した。
- ・市職員を対象とした研修を実施し、社会の変化、公務員の仕事の変化、連携先としてのN P Oについて学び、考える機会を提供した。

【生涯学習団体】

- ・運営に関する相談、地域貢献に組みたいという相談に応じた。

(2)多賀城市民活動サポートセンター—平成30年度実施事業—覧

[illegible]

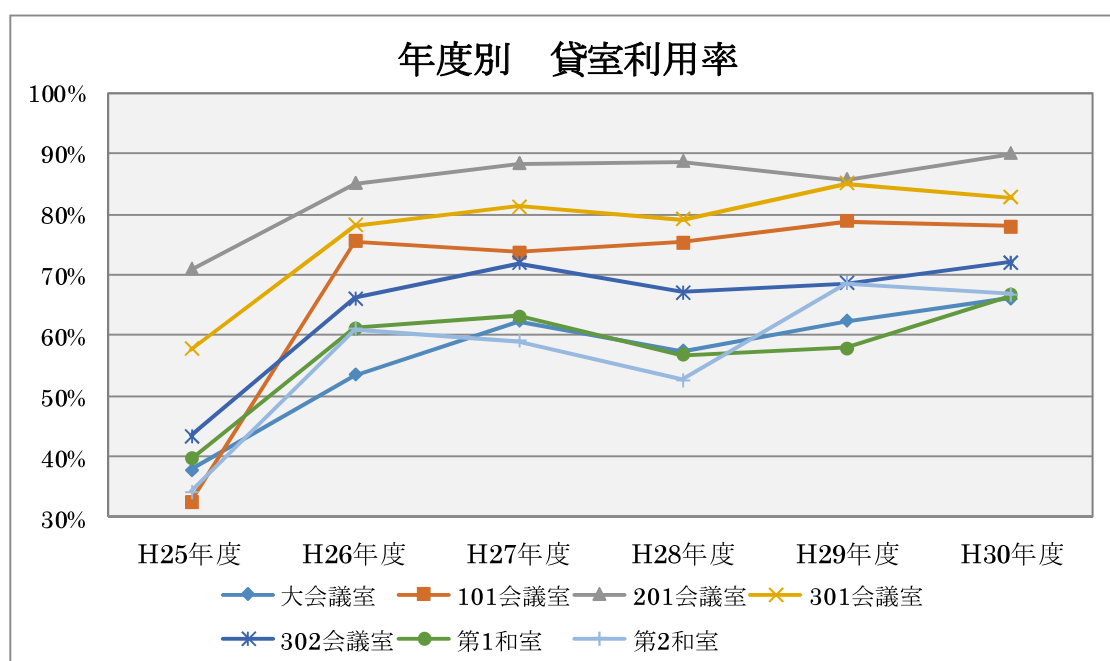
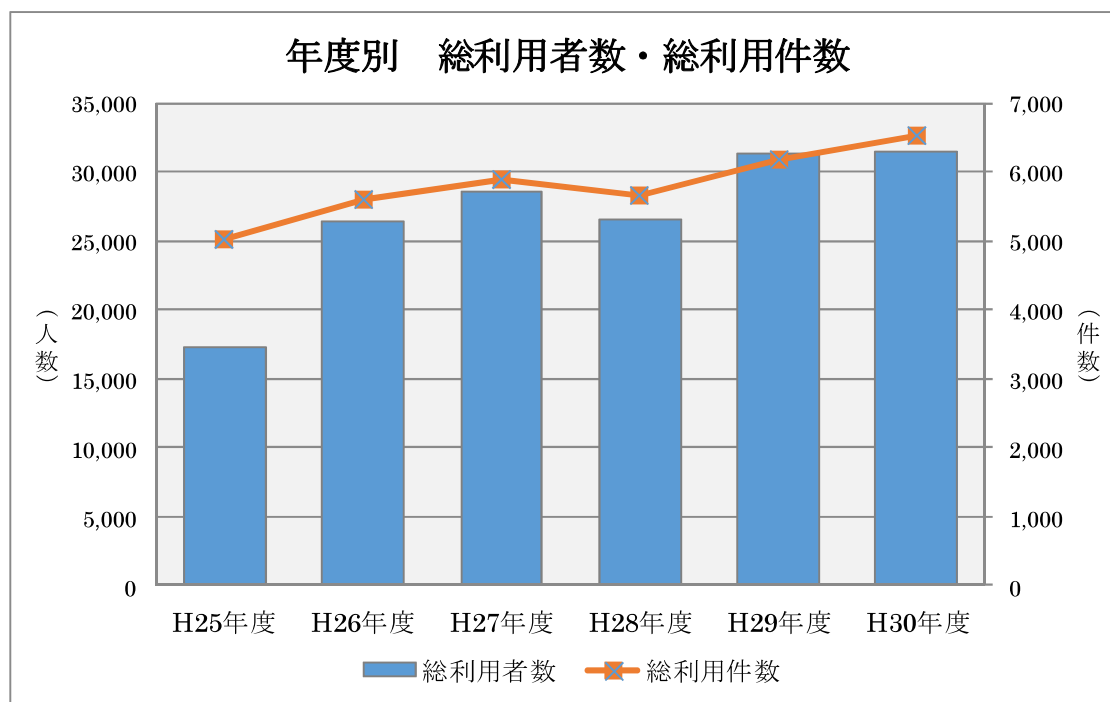
I -3 運営状況

(1) 利用状況集計

①総利用件数・貸室利用率

平成 30 年度は総利用者数・総利用件数ともに過去最高を記録している。記録更新の傾向は平成 29 年度からの継続であり、当センター主催事業、リニューアル工事後の利便性向上など、T S C の知名度浸透効果が継続しているためと考えられる。

貸室の利用率では大きな変化は見受けられず、安定的な利活用をいただいている。若干の変化を挙げるとすれば、201 会議室の利用率増加が挙げられる。201 会議室は部屋があまり広くなく 10 人前後での利用に適しており、会議やサークル活動のほか小規模講座での利用もあり利用率微増の要因と考えられる。



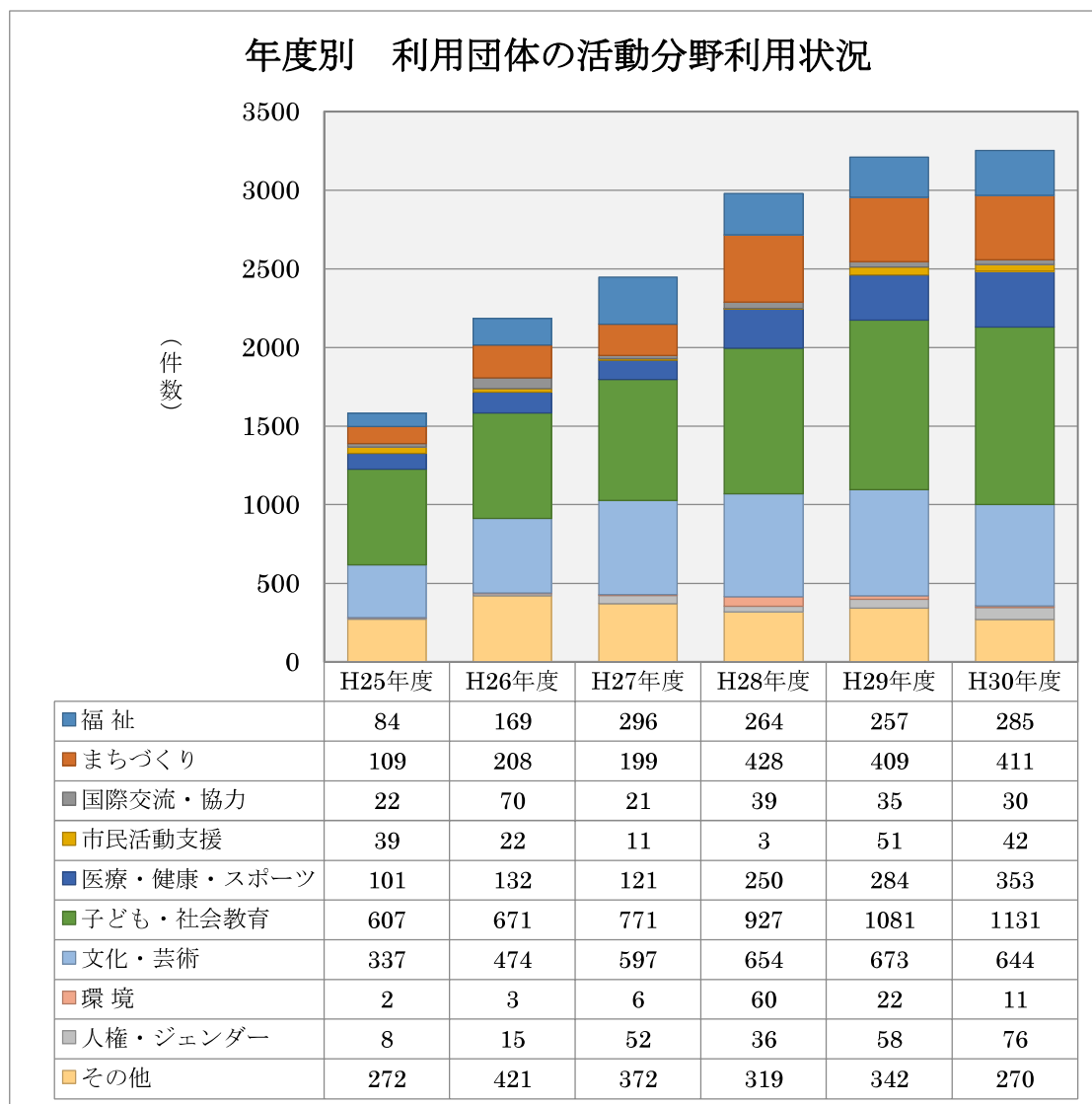
※午前・午後・夜間の貸出区分のうち、1日1区分以上利用がある場合を利用率 100%としています。

②利用団体の活動分野

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、事務用ブース利用者の利用票提出および印刷機利用に基づく利用団体の活動分野

平成 30 年度は全体件数が 3,253 件と過去最高を記録した（前年比 +41 件）。利用が多い分野は順に『子ども・社会教育』、『文化・芸術』、『まちづくり』、『医療・健康・スポーツ』となっている。『社会教育』には生涯学習やサークル活動の多くが含まれるため、当センターの分野利用の中で多くなる傾向があり、『文化・芸術』についても同様の状況が認められる。

利用が少ない分野としては『環境』が挙げられ、前年（平成 29 年）度に落ち込んだ 22 件から更に減少し 11 件となっている。環境の分野に挙げられる活動としては、環境保護のほかにも動物愛護や清掃なども含まれる。こうした活動は自治会や学校、企業などでも活発に行われていることから、当センターを活用する団体の分野としては多くないものの、多賀城市内での実際の活動を考えれば多く活動が行われていると推察される。



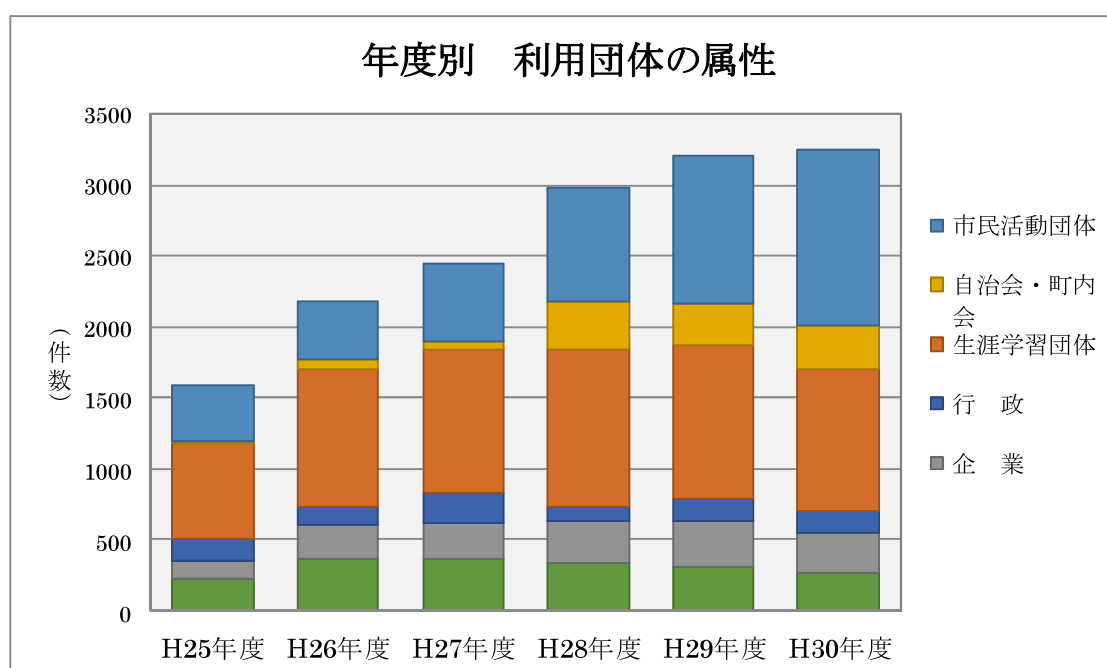
③利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、共同事務室の利用票及び印刷機利用に基づく利用団体属性

市民活動団体 : 1,240 件 生涯学習団体 : 989 件 企 業 : 285 件
 町内会・自治会 : 317 件 行 政 : 157 件 その他（個人など） : 265 件

利用団体の全件数は前年（平成 29 年）度より微増し 3,253 件（前年度比 +41 件）であった。その内訳は変化の傾向を示している。まず最も利用属性が多かったのは『市民活動団体』で 1,240 件、これは前年度比+193 件と大きな増加である。また『市民活動団体』の件数は今回唯一 1,000 件を超えた属性となっている。

今年度変化の兆しが見受けられるのが『生涯学習団体』である。過去の属性件数では毎年最も件数の多い属性であったが前年度比約 100 件の減少となっている。この傾向が今後も継続するものか引き続き注視していきたい。



■年度別利用団体の属性（単位：件）

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	合 計
市民活動団体	394	418	550	802	1,047	1,240	4,451
自治会・町内会	11	70	53	339	292	317	1,082
生涯学習団体	676	961	1,016	1,112	1,091	989	5,845
行 政	148	127	209	99	152	157	892
企 業	130	244	259	295	326	285	1,539
その他	223	365	359	333	304	265	1,849
合 計	1,582	2,185	2,446	2,980	3,212	3,253	

参考：主な項目の利用状況推移（平成20～30年度）

	貸室			フリースペース			印刷機 利用件数	情報揭示 受付件数	パソコン 利用件数	相談対応		レターケース	総利用		
	利用件数	利用人数		利用件数	利用人数	カウント数				件数	人数	取扱数	件数	総数	人
	件	人		件	人	人									
平成20年度	972	13,170		125	404	959	378	878	190	297	346	189	3,065	14,001	
平成21年度	1,366	18,992		90	220	1,337	551	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641	
平成22年度	1,242	16,229		87	251	1,168	619	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951	
平成23年度	1,971	26,769		149	539	1,596	801	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015	
平成24年度	1,889	22,922		229	597	1,646	918	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951	
平成25年度	1,442	16,488		143	410	1,137	807	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236	
平成26年度	2,009	24,170		113	591	1,921	814	1,861	34	340	412	363	5,612	26,420	
平成27年度	2,213	26,178		228	794	2,273	838	1,856	21	315	364	417	5,903	28,524	
平成28年度	2,044	24,209		310	930	2,409	625	1,871	40	320	421	432	5,651	26,507	
平成29年度	2,260	28,674		349	1,278	3,293	603	2,033	89	328	401	511	6,182	31,299	
平成30年度	4月	170	1,933	27	97	296	78	180	12	32	38	20	520	2,237	
	5月	181	2,037	32	117	287	63	171	8	34	42	62	553	2,307	
	6月	195	2,549	23	82	254	55	158	9	28	31	71	540	2,742	
	7月	195	2,168	31	236	377	52	193	11	45	53	9	536	2,528	
	8月	190	2,209	19	57	203	44	173	5	30	35	11	472	2,368	
	9月	206	3,120	34	103	267	52	203	16	61	62	4	576	3,362	
	10月	208	2,713	33	109	229	77	163	9	45	50	111	647	2,989	
	11月	208	2,515	43	186	282	36	193	15	37	41	104	638	2,804	
	12月	172	2,930	37	101	282	34	160	10	27	31	13	453	3,113	
	1月	167	2,153	28	73	207	38	196	5	39	49	60	533	2,327	
	2月	176	2,028	35	111	253	41	122	9	43	51	104	530	2,253	
	3月	188	2,228	29	96	232	56	158	17	44	53	25	517	2,472	
平成30年度計	2,256	28,583		371	1,368	3,169	626	2,070	126	465	536	594	6,515	31,502	
前年度比	100%	100%		106%	107%	96%	104%	102%	142%	142%	134%	116%	105%	101%	
総計	19,724	246,384		2,194	7,382	20,908	7,580	17,025	1,621	3,768	4,579	4,636	56,709	264,047	
平均	1,793	22,399		199	671	1,901	689	1,548	147	343	416	421	5,155	24,004	

※フリースペースの利用件数・人数は利用票提出分

※フリースペースのカウント数はスタッフによる定時見回り時のべ人数

※平成29年度より、TSO事業分も貸室・フリースペースの利用件数・人数として集計

※平成28年度より、印刷機・パソコンの利用人数も集計

平成30年度の総利用件数は6,515件、総利用人数は31,502件となり、過去最高を記録した前年度の件数・人数を更新した。各項目ではフリースペースのカウントを除き前年度より増加している。

参考：情報関連業務利用状況推移（平成20～30年度）

	印刷機			コピー機		パソコン		情報揭示					貸出図書		
	利用件数	枚数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニュースレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数		
	件	枚	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊		
平成20年度	378	218,318	4,767		190	496		105	277	878					
平成21年度	551	342,248	5,708	356		544		103	384	1,031	37	100	132		
平成22年度	619	361,553	4,689	168		649		140	478	1,267	19	132	109		
平成23年度	801	479,306	5,355	195		572		118	496	1,186	24	76	116		
平成24年度	918	603,693	7,677	288		549	106	167	563	1,385	29	122	158		
平成25年度	807	576,452	4,830	114		697	109	136	645	1,587	18	98	137		
平成26年度	814	566,837	5,331	34		843	112	214	692	1,861	20	89	127		
平成27年度	838	722,674	7,813	21		857	142	222	635	1,856	13	151	215		
平成28年度	625	509,592	7,538	40		869	131	215	656	1,871	7	138	209		
平成29年度	602	435,167	9,520	89		953	147	286	647	2,033	11	60	87		
平成30年度	4月	78	85,221	603	12	79	19	24	58	180	2	0	0		
	5月	63	32,930	1,607	8	89	7	26	49	171	0	5	5		
	6月	55	39,998	571	9	79	9	20	50	158	0	11	12		
	7月	52	19,384	634	11	85	4	33	71	193	1	6	7		
	8月	44	29,381	664	5	91	8	26	48	173	0	8	10		
	9月	52	33,829	855	16	113	9	33	48	203	0	6	10		
	10月	77	54,271	853	9	81	7	22	53	163	1	3	5		
	11月	36	17,852	786	15	103	6	27	57	193	0	3	4		
	12月	34	23,904	363	10	77	23	15	45	160	2	9	14		
	1月	38	19,163	605	5	99	6	21	70	196	1	10	15		
	2月	41	33,812	1,011	9	59	10	20	33	122	2	8	12		
	3月	56	62,783	1,082	17	69	6	14	69	158	1	6	8		
平成30年度計	626	452,528	9,634	126	126	1,024	114	281	651	2,070	10	75	102		
前年度比	104%	104%	101%	142%	142%	107%	78%	98%	101%	102%	91%	125%	117%		
総計	7,579	5,268,368	72,862	1,621	1,621	8,053	861	1,987	6,124	17,025	188	1,041	1,392		
平均	689	478,943	6,624	147	147	732	123	181	557	1,548	19	104	139		

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けずに集計する。
※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体」「ハンドブック」を加える。

※平成21年6月開設

・パソコン利用件数の増加は、事務用ブース入居団体や新規で会議室を利用するようになった団体の定期利用が多くなったため。

（２）相談対応実績

＜相談対応の流れ＞

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

- ・ 相談対応票に記録
- ・ 相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市民活動相談：ホップ…ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：NPO等のサービスを求めている方からの相談

その他の：TSCの運営についての問い合わせなど

↓

●共有

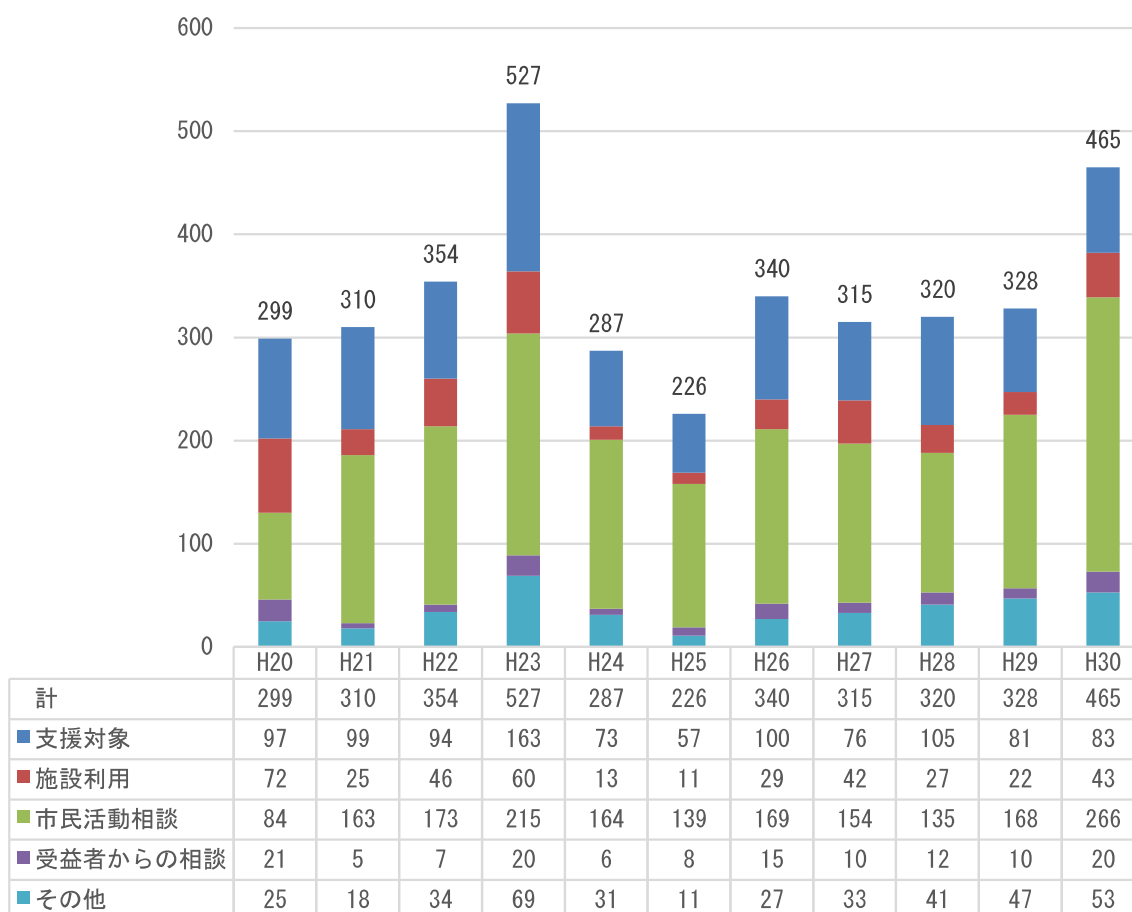
- ・ 継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
- ・ 月2回（1回あたり1時間程度）ケースミーティングの開催
すべての相談対応をスタッフで共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあつては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善等につなげている。
- ・ 相談対応記録を担当理事および地域コミュニティ課に報告し、適宜情報提供・助言等をもらっている。

＜相談件数 年度比較＞

総 件 数 465 件（月平均 38.8 件）

対応時間 11,110 分（月平均 926 分＝15 時間 26 分、1 件平均 24 分）

相談件数 平成20～30年度比較（件）



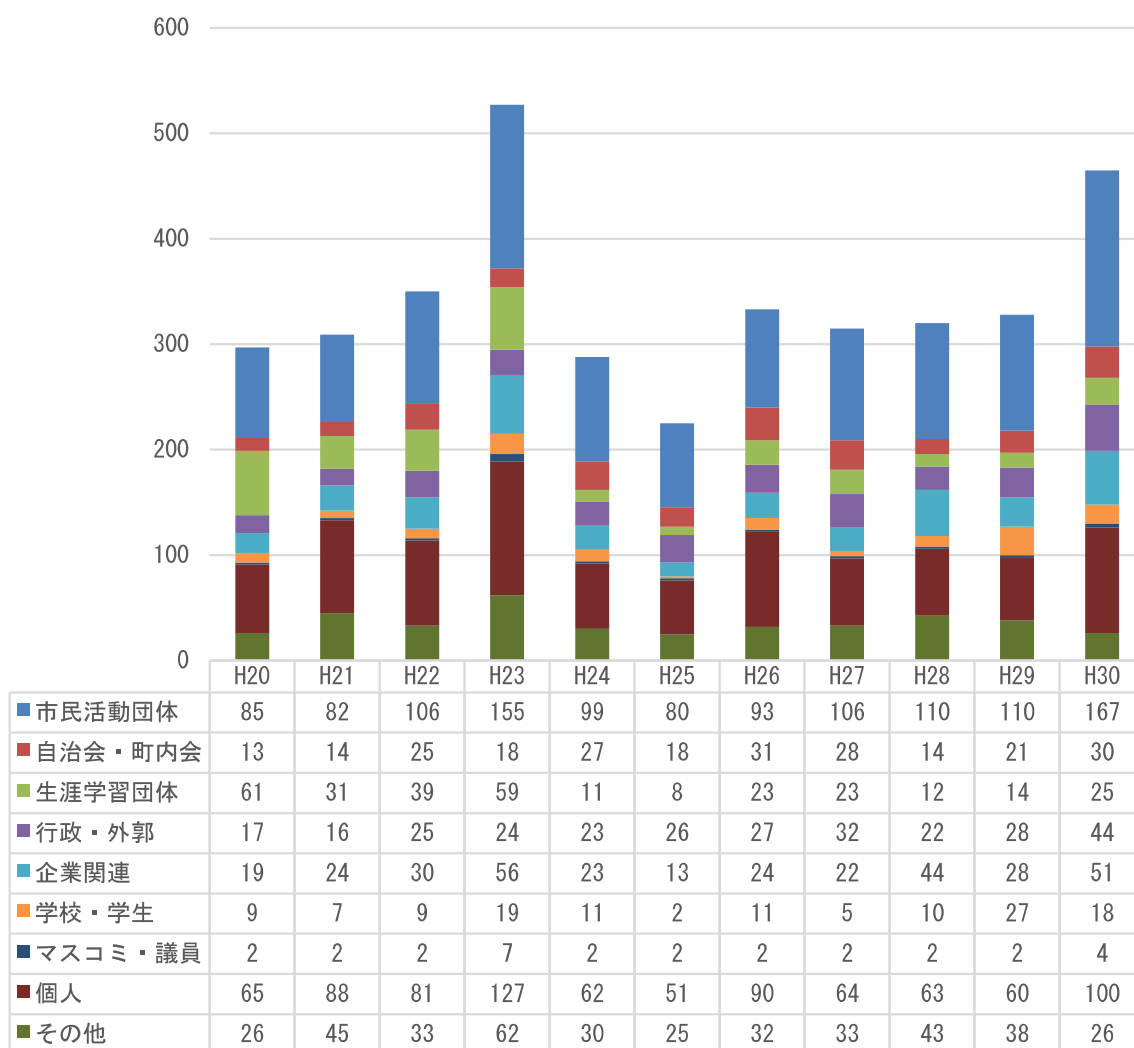
今年度は、東日本大震災後の活動に関する相談が多く寄せられた平成 23 年度に次いで相談件数が多く、また対応時間はこれまでで最も長かった。その理由として、同一団体の継続相談が多かったことや企業からの地域貢献に関する相談が増加したことなどが挙げられる。

市民活動相談は全体の 57.2% で、その内容は、団体運営やイベント実施に関するものが約 65% を占め、また約 30% が団体の活動についての問い合わせやこれから何か活動したいといった相談となっている。

その他の相談としては、中学校の「総合的な学習」の授業のサポートや、企業からの CSR や地域貢献活動についての相談が多く、学校や企業と連携しての取り組みや団体同士をつなぐことを通して T S C が認知されてきていると言える。

次年度以降も各事業のアフターフォローや情報発信媒体での T S C および相談事業の認知向上を図り、まだ活動に至っていない市民から、活動中の市民・団体まで、広く相談による支援を行っていく。

相談者属性 平成20～30年度比較（件）



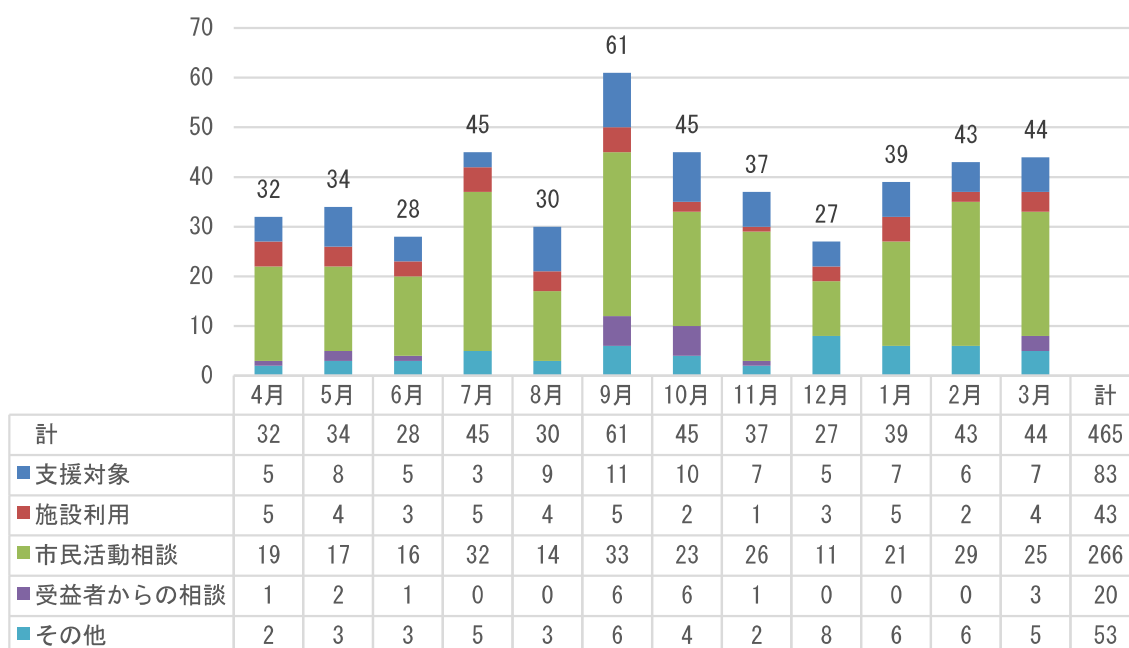
相談者属性は、市民活動団体が最も多く、ついで個人が多い。個人からの相談としては、サークル活動やボランティアに取り組みたいと考えての団体に関する問い合わせや、何か活動をはじめたいといった内容が多い。

今年度の特徴としては、前年度減少していた企業関連の相談が再び平成 28 年度並みに戻ったことが挙げられる。前年度に開催した「T S R 会議」に参加した企業や、T S C の会議室を利用している企業からの地域貢献活動に関する相談が継続的にあったためと考えられる。また、新規で T S C の会議室を利用する企業が増えていることも一因である。これらの傾向は、次年度以降も続くと考えられる。

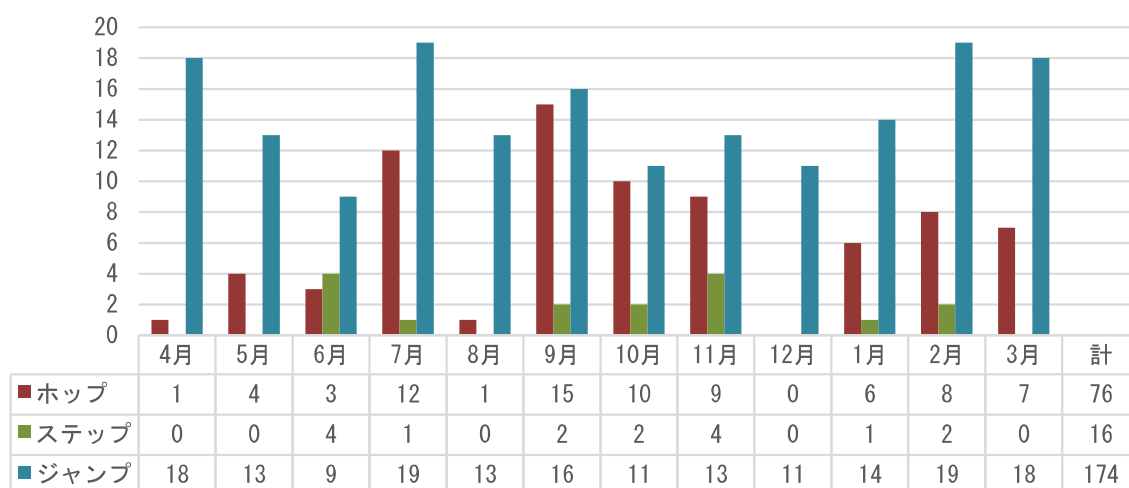
逆に、学校・学生からの相談は減少しているものの、地域学習に関する学校からの相談や、高校生から留学プログラム参加にあたっての相談や地域で活動したいという相談も一定数あった。

<相談件数 月別比較>

相談件数 平成30年度4月～3月比較（件）



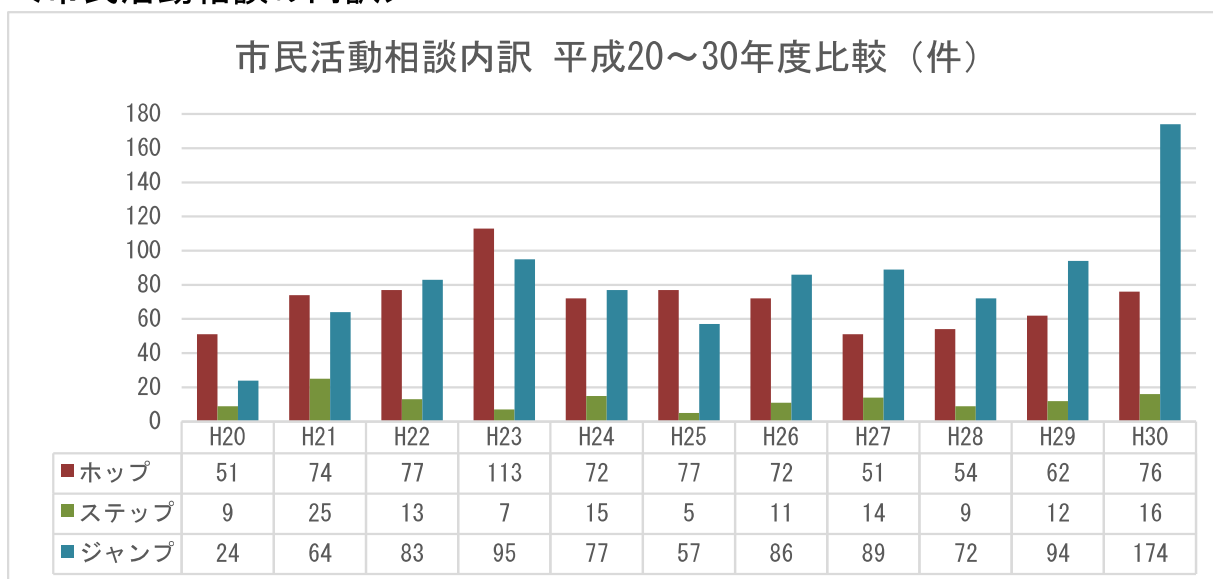
市民活動相談内訳 平成30年度4月～3月比較（件）



月ごとに見ると、全体的には9月の相談件数が飛びぬけて多く、次いで7月・10月・2月・3月が多い。9月は、団体からの継続相談が多かったことに加え、受益者からの相談が他の月に比べると集中していることからこの件数になったと考えられる。

市民活動相談に関しては、4～6月にかけてはイベント運営や団体PRの相談だけではなく、町内会からの会計や夏まつりの企画に関する相談が多かった。7～11月にかけては、団体運営に関するものに加えて団体情報の問い合わせが多くなっている。12～3月には、イベント運営やボランティア募集など団体運営の相談が多かったが、特に2月は「たがさぼカフェ」で相談会を開催したため、件数が多くなっている。また、団体立ち上げの相談は年間通して一定数あり、立ち上げ後に団体運営の相談に移行するケースも多かった。

＜市民活動相談の内訳＞



今年度の市民活動相談の中で一番件数が多かったのはジャンプ段階の相談で、平成 26 年度以来ホップ段階の相談の件数を上回っているが、今年度はホップ段階の件数の 2 倍以上になった。団体の組織運営やイベント実施に関する相談が日常的に多い表れともいえる。また前年度同様、事務用ブース入居団体から運営相談が寄せられることも多く、インキュベート施設としての事務用ブースが上手く機能している。

以下、市民活動相談のホップ・ステップ・ジャンプの各々の相談内容について記載する。

●ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など

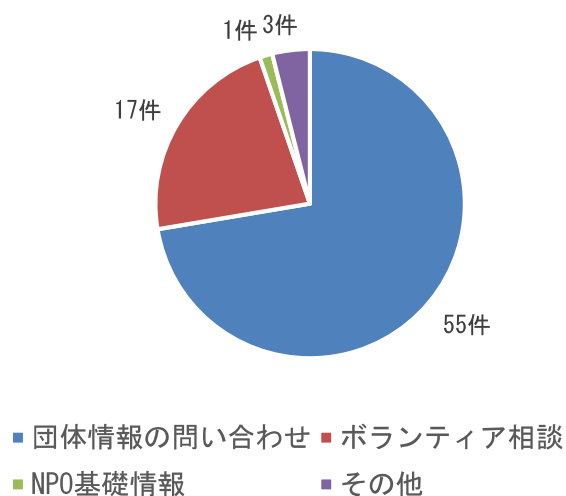
市民活動相談 266 件の内、ホップ 76 件（28. 6%）

団体情報の問い合わせが 55 件と最も多く、活動先や連携先となる団体情報を求めて来館される方が多い。具体的には、団体のメンバーとして活動したい、町内会等の行事に呼ぶ団体を探している、逆に行事で特技を披露したいなどの相談が寄せられた。

団体情報の問い合わせに関しては、団体情報ファイルや団体紹介シートを活用しながら情報を提供している。今後も町内会からの出演団体の問い合わせや行政からの連携先の問い合わせが寄せられる可能性が高い。相談に適切に対応できるよう、情報収集と整理は継続して進めていく必要がある。

その他に該当するものとしては、個人で何か活動をはじめたいという相談が数件あった。

市民活動相談【ホップ】内容内訳



●ステップ

…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談

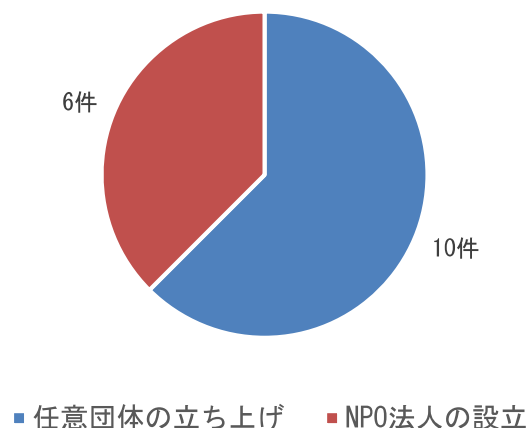
市民活動相談 266 件の内、ステップ 16 件（6.0%）

地域や社会の課題のへ気づきから、相談窓口やサロン活動を立ち上げたいという相談があった。また、自分の特技や経験を活かしたいという相談も多く、下記に記したもののほかに計画中・準備中のものも数件ある。

今年度もTSC事業に参加し、思いやできることを整理した上で活動が立ち上がった事例もあった。

こうした立ち上げ相談に対しては、すぐに立ち上げのためのノウハウを提供するわけではなく、立ち上げたいと思った理由や想いを聞いたり、同種の活動をしている団体につないで話をしたりと、相談者の想いに寄り添った支援をした上で、立ち上げの支援に移行する。

市民活動相談【ステップ】内容内訳



平成 30 年度 立ち上げ団体・活動（6 団体／活動）

団体・活動名	活動内容	立ち上げのきっかけ
宮城青少年悩み相談	青少年のさまざまな悩みに乗る相談窓口の設置	来館しての相談
憩い・くれよん	高次脳機能障害の当事者サロン	来館しての相談
山王・南宮地区「となりぐみ」	地域の見守りなどについて考える会。このたび、サロン活動を立ち上げることになった。	介護福祉課からのサポート依頼
ゆるっとままのわ	ママたちがホッとできる場づくり	TAGAJO Future Labo
卓球を通しての場づくり	卓球の普及	NPOいちから塾
子育て支援講座の開催	子どもへの虐待防止するための「ポジティブディシプリン」プログラムの実施	来館しての相談

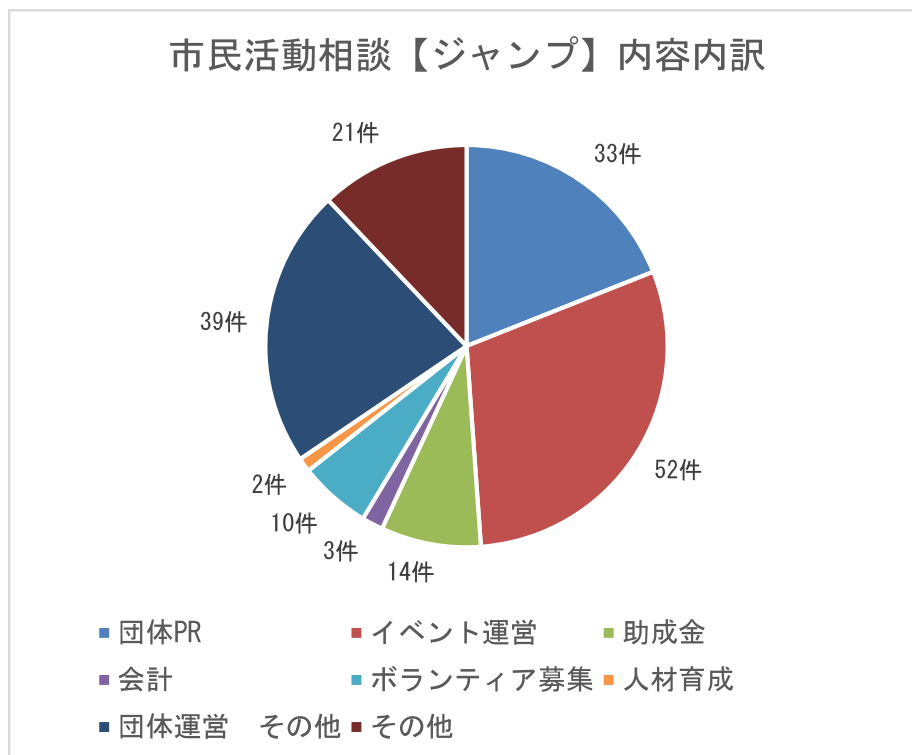
平成 30 年度 団体の法人化のサポート（1 団体）

団体・活動名	活動内容	備考
NPO法人 仙台スラックライン	スラックラインの普及・体験会の開催及び地域住民の健康づくりへの寄与	NPO法人化の支援 平成 30 年 11 月法人化

●ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談

市民活動相談 266 件の内、ジャンプ 174 件（65.4%）



今年度は、団体PRに関する相談が最も多かった。特に、新たに立ち上がった団体による団体のパンフレットやウェブページの作成に関して継続的な相談があった。また、例年一定数あるチラシづくりに関する相談に加えて、インターネットによる発信に関する相談も増えており、中にはSNSの活用に関するものもあった。

イベント運営に関する相談も多く、企画・計画から、準備・当日実施などさまざまな段階での相談があった。資金調達、広報、ボランティア募集など多くの工程が絡むものもあり、その時々で適切な情報提供や必要事項の整理を行ってきた。また、TSCのフリースペースを活用してのイベント開催や、実施には至っていないが計画中の団体・個人の相談もあった。

また助成金相談では、資金調達も含めた相談だけでなく、申請書類の推薦文の記載依頼も多くあった。これは、TSCと団体との普段からの関わりが活かされてのものであると考える。また、助成金のみに頼らない持続可能な運営に向けたサポートも行う必要のある団体も出てきている。

「団体運営その他」に該当する相談としては、広報・資金・人材等の複数の内容が含まれた運営に関する相談等があった。運営全般に関する相談では、根本的な課題の発見や整理も行っていく必要がある。その上で適した支援を行っていく。

その他に該当する相談としては、自治会で感じている地域課題について相談、現在の活動状況についての団体からの報告、連携先や連携の仕方の相談等があった。

参考:相談対応推移

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30												計	総計
1. 件数、人数、属性など		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計
相談件数 (件)		299	310	354	527	287	226	340	315	320	328	32	34	28	45	30	61	45	37	27	39	43	44	465	3,771
開設日 (日/月)		253	305	289	306	304	306	306	307	305		26	26	26	27	26	26	26	26	23	23	24	27	306	3,293
件数平均 (件/日)		1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.7	1.1	1.0	1.0	1.1	1.2	1.3	1.1	1.7	1.2	2.3	1.7	1.4	1.2	1.7	1.8	1.6	1.5	1.1
人数 (人)		348	374	386	645	375	307	377	357	421	401	38	42	31	53	35	62	50	41	31	49	51	53	536	4,527
対応時間月計 (分)		5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	7,593	7,182	8,209	8,499	710	925	684	1,121	645	1,520	965	1,055	395	940	1,050	1,100	11,110	85,482
対応時間平均 (分/日)		22.0	20.8	25.7	34.2	25.0	17.8	24.8	23.5	26.7	27.9	27.3	35.6	26.3	41.5	24.8	58.5	37.1	40.6	17.2	40.9	43.8	40.7	36.3	26.0
対応時間平均 (分/件)		18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	22.1	23.1	25.5	25.9	22.2	27.2	24.4	24.9	21.5	24.9	21.4	28.5	14.6	24.1	24.4	25.0	23.9	22.7
対面	件数 (件)	235	235	267	322	187	152	213	224	224	211	21	25	17	30	17	30	27	23	17	28	37	31	303	2,573
	対応時間月計 (分)	4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	6,295	6,165	5,984	7,279	580	825	555	880	510	1,150	650	880	290	770	1,010	955	9,055	71,526
	対応時間平均 (分/件)	20.7	24.6	24.6	26.3	34.7	30.2	29.6	27.5	26.7	34.5	27.6	33.0	32.6	29.3	30.0	38.3	24.1	38.3	17.1	27.5	27.3	30.8	29.9	27.8
電話	件数 (件)	58	67	81	195	87	72	119	99	88	105	10	8	7	11	12	28	17	10	9	11	3	11	137	1,108
	対応時間月計 (分)	605	501	656	1,944	1,008	812	1,262	1,007	2,050	1,078	120	90	90	215	130	355	310	140	100	170	25	130	1,875	12,796
	対応時間平均 (分/件)	10.4	7.5	8.1	10.0	11.6	11.3	10.6	10.2	23.3	10.2	12.0	11.3	12.9	19.5	10.8	12.7	18.2	14.0	11.1	15.5	8.3	11.8	13.7	11.5
その他	件数 (件)	4	7	6	9	13	2	8	2	8	12	1	1	4	4	1	3	1	4	1	0	3	2	25	96
	対応時間月計 (分)	95	55	206	39	175	15	36	10	175	133	10	10	39	26	5	15	5	35	5	0	15	15	180	1,119
	対応時間平均 (分/件)	23.8	7.9	34.3	4.3	13.5	7.5	18.0	7.5	21.9	11.1	10.0	10.0	25.4	6.5	3.0	3.0	7.0	7.0	7.0	0.0	3.0	3.0	12.0	7.2
相談者属性	市民活動団体 (件)	85	82	106	155	99	80	93	106	110	110	10	14	10	17	17	22	9	14	8	12	17	17	167	1,193
	自治会・町内会 (件)	13	14	25	18	27	18	31	28	14	21	5	1	2	4	0	4	3	4	1	0	2	4	30	239
	生涯学習団体 (件)	61	31	39	59	11	8	23	23	12	14	3	4	2	0	2	0	1	1	2	4	5	1	25	306
	行政・外郭 (件)	17	16	25	24	23	26	27	32	22	28	5	4	4	4	1	2	4	3	1	8	3	5	44	284
	企業関連 (件)	19	24	30	56	23	13	24	22	44	28	3	3	4	5	2	6	7	3	7	4	3	4	51	334
	学校・学生 (件)	9	7	9	19	11	2	11	5	10	27	0	0	0	4	3	0	1	1	4	0	2	3	18	128
	マスコミ・議員 (件)	2	2	2	7	2	2	2	2	2	2	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	4	29
	個人 (件)	65	88	81	127	62	51	90	64	63	60	5	7	3	5	2	22	16	7	2	11	10	10	100	851
	その他 (件)	26	45	33	62	30	25	32	33	43	38	1	1	2	6	3	3	3	4	2	0	1	0	26	393
	初来館者 (人)	126	97	99	165	88	79	96	64	88	70	3	11	2	9	5	12	9	6	1	5	7	6	76	1,048
初来館	公共施設 (人)	37	23	34	46	16	23	24	16	12	17	2	2	0	3	0	4	1	1	0	0	0	2	15	263
	ロコミ (人)	14	15	8	24	18	14	25	9	18	27	0	3	1	4	0	0	6	1	0	2	3	2	22	194
	ロコミ・メンバー (人)	11	15	24	29	21	19	25	16	24	6	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	2	1	9	199
	その他 (人)	64	44	33	66	33	23	22	23	34	20	1	5	1	1	4	7	1	3	1	3	2	1	30	392

2. 相談内容の内訳

(1) 支援対象について

相談件数 (件)	97	99	94	163	73	57	100	76	105	81	5	8	5	3	9	11	10	7	5	7	6	7	83	1,028	
対応時間 (分)	1,217	1,185	1,003	1,857	855	727	1,221	860	1,354	1,113	45	115	55	30	145	125	105	110	75	75	100	85	1,065	12,457	
対応時間平均 (分/件)	12.5	12.0	10.7	11.4	11.7	12.8	12.2	11.3	12.9	13.7	9.0	14.4	11.0	10.0	16.1	11.4	10.5	15.7	15.0	10.7	16.7	12.1	12.8	12.1	
利用目的	貸室 (件)	77	69	62	116	59	37	71	56	81	62	3	5	3	0	5	8	7	5	4	5	4	53	743	
	印刷室 (件)	9	16	27	19	5	10	15	6	9	6	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	5	127
	チラシ (件)	6	10	4	9	6	6	10	11	14	5	0	3	1	2	2	2	3	1	1	2	2	2	21	102
	ポスター (件)	2	0	1	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10
	その他 (件)	3	4	0	5	3	4	2	3	2	8	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	37
	その他 (件)	3	4	0	5	3	4	2	3	2	8	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	37

(2) 施設利用相談

施設利用相談 (件)	72	25	46	60	13	11	29	42	27	22	5	4	3	5	4	5	2	1	3	5	2	4	43	390	
対応時間 (分)	866	270	599	643	136	170	296	655	415	270	95	50	15	60	25	120	25	15	20	70	20	30	545	4,865	
対応時間平均 (分/件)	12.0	10.8	13.0	10.7	10.5	15.5	10.2	15.6	15.4	12.3	19.0	12.5	5.0	12.0	6.3	24.0	12.5	15	6.7	14	10.0	7.5	12.7	12.5	
場の提供	貸室 (件)	46	11	19	34	2	3	10	19	16	7	1	2	0	0	3	2	0	1	2	2	0	2	15	182
	フリースペース (件)	2	1	1	1	2	1	5	7	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	25	
	ロッカー (件)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	11	
	レターケース (件)	3	1	2	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13	
	共同事務室 (件)	2	4	1	6	2	0	1	4	5	3	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	31	
	展示スペース (件)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	3	
	駐車場 (件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	備品 (件)	2	0	2	3	1	0	3	0	0	2	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	5	18	
	その他 (件)	3	2	6	9	2	1	2	4	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	4	34
	情報関係	PC (件)	2	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
インターネット (件)		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
コピー機・印刷機 (件)		6	2	7	2	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	
チラシ・ポスター (件)		13	2	4	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	24	
サポートセンターHP (件)		0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
サポートセンター情報誌 (件)		0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
その他 (件)		2	3	1	1	1	0	1	3	1	3	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	6	22

(3) 市民活動相談

「市民活動相談」(件)		84	163	173	215	164	139	169	154	135	168	19	17	16	32	14	33	23	26	11	21	29	25	266	1,830	
対応時間(分)		2,500	4,083	5,267	5,527	5,708	3,835	4,676	4,790	5,360	4,670	495	490	574	906	370	760	615	845	170	710	685	755	7,375	53,791	
対応時間平均(分)		29.8	25.0	30.4	25.7	34.8	27.6	27.7	31.1	39.7	27.8	26.1	28.8	35.9	28.3	26.4	23.0	26.7	32.5	15.5	33.8	23.6	30.2	27.7	29.4	
ホップ	団体情報の問い合わせ(件)	21	47	41	56	46	53	40	44	33	47	1	4	3	10	1	8	6	5	0	3	6	6	55	483	
	ボランティア情報(件)	6	16	24	35	10	13	15	4	7	7	0	0	0	2	0	6	2	3	0	2	1	1	17	154	
	NPO基礎情報(件)	10	3	3	2	1	1	6	0	4	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	33	
	その他(件)	14	8	9	20	13	10	11	3	11	7	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3	109	
	ホップ計	51	74	77	113	72	77	72	51	54	62	1	4	3	12	1	15	10	9	0	6	8	7	76	779	
ステップ	任意団体の立ち上げ(件)	7	23	12	5	7	1	7	12	8	10	0	0	0	4	0	0	2	1	0	1	2	0	10	102	
	NPO法人の設立(件)	2	2	1	2	8	4	4	2	1	2	0	0	0	1	0	2	0	3	0	0	0	0	6	34	
ステップ計		9	25	13	7	15	5	11	14	9	12	0	0	4	1	0	2	4	0	1	2	0	6	16	136	
ジャンプ	団体PR(件)	4	10	31	12	3	9	15	9	10	11	5	2	2	2	1	5	5	3	2	3	2	1	33	147	
	イベント運営(件)	9	25	18	38	17	18	43	19	20	28	7	4	2	8	2	1	2	3	5	4	10	4	52	287	
	助成金(件)	0	2	2	9	14	7	5	10	7	9	1	2	1	0	1	3	1	0	1	0	0	0	4	14	79
	会計(件)	0	3	2	0	1	2	2	3	0	4	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	20	
	ボランティア募集(件)	0	2	1	1	0	3	2	3	0	7	1	0	1	1	0	0	0	2	1	1	1	2	10	29	
	人材育成(件)	1	3	0	0	0	0	1	1	1	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	13
	その他(件)	7	16	27	18	32	13	13	13	21	19	2	1	2	4	6	4	3	3	1	3	5	5	39	237	
	その他(件)	3	3	3	2	17	10	5	12	13	12	0	4	1	4	1	3	0	0	1	1	3	1	2	21	103
	ジャンプ計	24	64	83	95	77	57	86	89	72	94	18	13	9	19	13	16	11	13	11	14	19	18	174	915	

(3) 情報提供

①団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート（※）、パンフレット、チラシ、定款・会則、予算書、決算書、事業計画書・報告書などをファイリングしている。

このファイルは、団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合や、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用することができる。

今年度、ファイル数は 2,120 団体（前年度比＋7％）に増加した。T S C スタッフが会議や研修会、各種イベントに参加した際に積極的に団体の情報を入手したり、各種団体との情報交換の機会を多く持つことができたため、増加率は前年度に続いて高くなっている。

二市三町の団体情報ファイル数は、287 団体（前年度比＋11％）に増加した。相談対応を経て新たに取り組みを始めた、拠点を T S C や多賀城に移した団体、以前より活動していたものの情報のストックがなかった団体が新たに加わったため、情報の増加につながった。

分野別の増加の特徴としては、従来から多かった子育て支援の団体に加え、T S C のターゲットの一つでもある青少年（おおそ中学～大学世代）の活動への支援を行う団体の情報を積極的に収集したことから、「子どもの育成・支援」分野が 242 団体（前年度比＋15％）となった。また前年度同様、新たにチラシ類の配架依頼が多くあった「文化・芸術」分野の団体が 251 団体（前年度比＋11％）となった。

次年度以降も、より多賀城の課題に合わせた団体の情報収集に力を入れるとともに、収集した情報を市民が活用しやすいよう編集・発信し、情報の価値を高めていく。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援する T S C 独自のツール。団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、T S C のウェブサイト上で公開している。平成 30 年度末現在、112 団体の団体紹介シートを公開している。

平成 30 年度多賀城市市民活動サポートセンター年間事業報告書

■団体情報ファイル数（単位：団体） ※二市三町：多賀城市・塩釜市・松島町・七ヶ浜町・利府町

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
福祉	19	140	62	221	障がい者支援、高齢者支援、移送サービス、配食サービス、地域福祉
医療・保健・健康	13	57	91	161	健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防、保健、依存症
スポーツ	24	21	4	49	スポーツ振興
人権・ジェンダー	7	50	51	108	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、人権、男女共同参画、DV、マイノリティ、ジェンダー、ひきこもり
子どもの育成・支援	43	112	87	242	子育て、青少年健全育成、障がい児支援、学習支援、児童虐待、不登校、母子・父子家庭支援
社会教育	15	17	22	54	生涯学習
環境	10	101	92	203	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	48	164	119	331	まちづくり、地域づくり、コミュニティ形成、地域おこし、観光
災害救援・地域安全	4	23	28	55	災害救援、被災者支援、地域防災・安全
国際交流・協力	8	35	62	105	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	70	129	52	251	文化振興、文学、音楽、映画、演劇、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版、芸術、工芸
シニア	2	13	5	20	団塊世代、セカンドライフ
市民活動支援	2	27	193	222	市民活動団体支援、助成活動
その他	2	30	36	68	オンブズマン（行政監視）、政策提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
地域組織	20	7	3	30	自治会、町内会、地域自主組織、まちづくり協議会、老人クラブ、子ども会
合 計	287	926	907	2,120	

■分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

分野 \ 年度	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
福祉	52	172	180	192	199	214	221	※平成 29 年度より分離
医療・保健・健康	34	137	160	168	171	160	161	
スポーツ						49	49	
人権・ジェンダー	20	80	85	87	88	106	108	※平成 29 年度より分離
子どもの育成・支援	57	212	232	245	257	211	242	
社会教育						49	54	
環境	32	150	168	178	183	193	203	※平成 29 年度より分離
まちづくり	47	285	312	338	354	309	331	
災害救援・地域安全						54	55	
国際交流・協力	19	85	101	102	104	103	105	
文化・芸術	22	164	164	179	190	226	251	
シニア	8	19	21	21	21	20	20	
市民活動支援	47	154	185	206	209	210	222	
その他	19	57	59	60	60	58	68	
地域組織		8	9	11	11	25	30	

※平成 22 年度より集計開始

■二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

分野 \ 年度	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
福祉	4	12	15	17	16	18	19	
医療・保健・健康	3	15	17	21	22	14	13	※平成 29 年度より分離
スポーツ						25	24	
人権・ジェンダー	0	1	2	3	4	6	7	
子どもの育成・支援	6	31	37	43	46	38	43	※平成 29 年度より分離
社会教育						13	15	
環境	6	11	10	11	12	10	10	
まちづくり	8	43	34	39	43	44	48	※平成 29 年度より分離
災害救援・地域安全						4	4	
国際交流・協力	5	9	8	8	8	7	8	
文化・芸術	1	38	37	44	50	59	70	
シニア	0	1	1	1	1	2	2	
市民活動支援	1	1	2	2	2	2	2	
その他	0	0	0	0	0	1	2	
地域組織		8	9	11	11	16	20	※平成 22 年度より集計開始

■エリア別団体情報ファイル経年変化（前年度比）（単位：団体）

エリア \ 年度	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30
二市三町	34	170	172	200	215	259	287(11% ↑)
県内	177	691	752	794	826	879	926(5% ↑)
県外	127	662	752	793	806	849	907(7% ↑)
合 計	338	1,523	1,676	1,787	1,847	1,987	2,120(7% ↑)

②ウェブサイト・ブログ・ツイッター

■ウェブサイト・ブログについて

※ウェブサイト：平成 21 年 12 月 25 日開設 ブログ：平成 20 年 7 月 19 日開設

※平成 28 年 5 月にセキュリティ対策としてウェブサイトの訪問者数測定ソフトを変更。同一人が重複してカウントされない方法となった。

※平成 30 年 4 月、ウェブサイトリニューアルに伴い訪問者測定ソフト・方法を変更。これまでは同一人が 1 ヶ月に何度訪問しても 1 件とカウントされていたが、同一人が訪問した回数だけカウントされるようになった。

※平成 22、23 年度は東日本大震災関連の情報を発信したため、ウェブサイト・ブログともに訪問者数が急増した。

		ウェブサイト	ブログ	
		訪問者数	訪問者数	記事数
平成 20 年度			7,389	14
平成 21 年度		9,777	15,889	74
平成 22 年度		98,038	42,105	147
平成 23 年度		196,154	76,607	279
平成 24 年度		58,685	20,056	314
平成 25 年度		64,654	24,957	302
平成 26 年度		73,837	24,749	254
平成 27 年度		70,953	25,150	261
平成 28 年度		14,328	23,906	236
平成 29 年度		8,758	28,869	225
平成 30 年度	4 月	900	2,097	17
	5 月	1,050	2,161	19
	6 月	1,135	2,700	20
	7 月	1,322	3,426	38
	8 月	1,152	2,431	21
	9 月	1,140	2,450	18
	10 月	1,285	2,596	22
	11 月	1,381	2,842	26
	12 月	1,293	3,843	27
	1 月	1,159	3,768	17
	2 月	1,010	3,539	18
	3 月	1,093	3,559	18
平成 30 年度計		13,920	35,412	261

ウェブサイトは主に T S C の機能や事業を、ブログは主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域イベント等を発信している。

ブログ 1 記事あたりの平均訪問者数は以下の通り。

- ・平成 28 年度 平均訪問者数 101 件
- ・平成 29 年度 平均訪問者数 128 件
- ・平成 30 年度 平均訪問者数 136 件

記事・平均訪問者数ともに増加している。ブログ訪問者の 8～9 割であるブックマークをする人が年々増え、T S C 事業に対して関心を持つ市民、ブログを通じて市民活動や地域の情報を得ようとしている市民が増えたと考えられる。

7 月は「多賀城ビアサミット」と「開館 10 周年記念イベント」、12 月は「雑貨市」に関する記事の閲覧が特に多かった。さらに、平成 28 年 7 月 19 日更新の「N P O 法人を英語で言うと？」が毎月群を抜いて閲覧数が多かった。

■ ツイッターについて 平成 23 年 9 月 1 日開設

ブログの更新と事業のお知らせをしている。

今年度もブログ更新や T S C 事業の告知を行い、フォロワーに対して広く、T S C の情報を発信することができた。今後も継続して各事業とも連携し、講座やイベントの様子を発信したり、多様な地域の情報の発信に努める。

③たがさぽ文庫

たがさぽ文庫は、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成 21 年 6 月 1 日より開始した。

広報、会計、労務など団体マネジメントに関する書籍、市民活動の入門となる書籍、各分野（福祉・まちづくり・子ども等）の専門書、活動の参考になるハウツー書籍をそろえている。また、震災関連の資料やNPOに関する絵本なども収集している。

<蔵書数>

- ・ 1,173 冊（平成 31 年 3 月現在） 登録者数計 188 人

<概要>

- ・ 事前登録により、貸出カードを発行
- ・ 1 人 2 冊まで、貸出期間は 2 週間

平成 30 年度書籍貸出件数（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成 20 年度				
平成 21 年度		37	100	132
平成 22 年度		19	132	109
平成 23 年度		24	76	116
平成 24 年度		29	122	158
平成 25 年度		18	98	137
平成 26 年度		20	89	127
平成 27 年度		13	151	215
平成 28 年度		7	138	209
平成 29 年度		11	60	87
平成 30 年度	4 月	2	0	0
	5 月	0	5	5
	6 月	0	11	12
	7 月	1	6	7
	8 月	0	8	10
	9 月	0	6	10
	10 月	1	3	5
	11 月	0	3	4
	12 月	2	9	14
	1 月	1	10	15
平成 30 年度	2 月	2	8	12
	3 月	1	6	8
平成 30 年度計		10	75	102



平成 30 年度は前年度と比較し、登録者数はほぼ横ばいだが、貸出件数・冊数は増加した。

新規登録者数は平成 24 年度をピークに減少傾向にあるが、イベントや講座で来館した際に活動に関連した図書を借りるために登録する利用者の姿が見られた。さらに講座後も継続して TSC を利用し図書を借りる傾向にあったため、貸出件数・冊数は増加した。

さらに今年度は、フリースペースなどを利用した「たがさぽカフェ」を実施し、TSC の機能をより発信していくことに努めた。

図書をもとにした展示や、活動の相談を受ける際に積極的に図書の活用や本の紹介を行ったため、特に下半期の図書の貸出しや新規登録者が増加した。

今年度は、場づくりや地域コミュニティ関連の本や、環境、町内会、LGBT の本などの分野の貸出しが多かった。

また、企業との協働に関する書籍やSDGs 関連、町内会など、事業と連携し市や世の中の動きに合わせて本を主に増やした。

ほかにも、遊びながら手話を覚えることができたり、障害を感じることができるゲームやNPOがつくるカルタなども入荷した。

次年度も地域・社会課題の解決のヒントとなる資料を揃え、より市民に活用を促したい。

(4) 場の提供 ①共同事務室入居団体インキュベート相談／ワークスペース運用

目 的	・事務用ブースの入居を通し、「自立・自律」に向けた団体運営を後押しする。
背 景	インキュベートとは設立間もない団体への支援・育成のこと。T S C の設備機能の 1 つである事務用ブースに入居している団体に対して、入居半年経過後に個別相談の機会を設けている。団体が入居している期間、活動状況や運営課題をヒアリングし、継続的かつ安定した団体運営ができるよう情報提供を行い、団体の「自立・自律」を後押ししている。
対 象	・ T S C 事務用ブース入居団体（インキュベート相談） ・ 市民活動、ボランティア活動をする団体・個人など（ワークスペース運用）
成果目標	・ 事務用ブース入居団体の活動を後押しする。 ・ 団体の課題を顕在化させ、気づきを促し、課題解決に向けた行動を起こす。 ・ 団体とスタッフとの信頼関係を構築し、相談会以外でも互いが気軽に声がけでき、いつでも相談できる状態をつくる。
成 果	●T S C の機能の活用と伴走型支援により団体運営力が向上した ・ インキュベート相談や団体との日常のコミュニケーションの中で団体運営の力づけを行うことができた。特に今年度は、事務用ブースに入居していることで実施しているインキュベート相談以外に、日々の業務の中で運営課題の整理、人材育成、広報、資金調達といった相談に応じることができた。 ・ また、入居団体が貸室や印刷作業室を定期的にご利用したり、掲示板やチラシラックをイベントや講座の広報に活用しており、T S C が総合的な活動拠点となっている。事務用ブース以外の T S C の機能を広く活用してもらうことができた。 ●事務用ブースの入居団体の増加 ・ 新たに活動を始めた団体や 3 年の入居期間経過後に再入居を希望していた団体など、現在 8 ブース中 7 団体が入居している。 ・ 会議室の利用や T S C の講座への参加をきっかけに事務用ブースを知ったり、他の利用者からの口コミにより、新たに 3 団体が入居した。
次年度に向けた課題	●再入居について ・ 事務用ブースに空きが生じていたことと、入居期間が 3 年（満期）を迎えた団体も自立・自律に向けた支援を継続する必要があったことから、市と協議の上、平成 30 年 6 月から再入居を可とした。現在 2 団体が再入居している。再入居も含めて、入居を希望する団体が増えてきている状況を踏まえ、入居基準を再確認し適正に運用する必要がある。 ●事務用ブース入居団体同士の交流 ・ 現在、事務用ブースの入居団体は子どもや障がい者などを支援対象にしている団体が多い。活動内容が近い分野の団体同士の交流の機会を設けることで、ブース入居団体の横のつながりが出来て、連携した活動が生まれることも見込まれる。

①共同事務室入居団体インキュベート相談／ワークスペース運用状況

●インキュベート相談会について 事務用ブース入居 6 ヶ月後に、団体の代表者や事務局を担うスタッフと T S C スタッフで個別相談会を実施している。相談は 1 団体あたり約 1 時間程度で、団体の活動の現状把握、団体の運営課題の整理、課題解決に向けた情報提供やアドバイスを行う。 相談内容は、事業展開の方法や広報の仕方、組織の人材育成や合意形成、運営資金の調達、会員・メンバーの増やし方、活動に必要な備品の保管場所やワークスペースの確保についてなど、今後の団体運営の方向に関する内容が多かった。	 事務用ブース
日 時：平成 30 年 8 月 31 日（金）14:00～14:30 会 場：302 会議室 団体名：ファイテス 21（P C N 多賀城に名称変更）（平成 30 年 2 月入居／1 年目）	
日 時：平成 30 年 12 月 16 日（日）14:00～14:40 会 場：301 会議室 団体名：多賀城イングリッシュサポーターズ （平成 29 年 6 月入居／2 年目）	
日 時：平成 30 年 12 月 16 日（日）15:13～16:30 会 場：301 会議室 団体名：H C P （平成 29 年 6 月入居／2 年目）	
日 時：平成 30 年 12 月 22 日（土）13:30～14:00 会 場：301 会議室 団体名：てんでん宮城 （平成 30 年 6 月入居／1 年目）	
日 時：平成 30 年 12 月 22 日（土）14:30～15:30 会 場：301 会議室 団体名：ハッピーピース （再入居） （平成 30 年 6 月入居／1 年目）	
日 時：平成 31 年 3 月 10 日（日）10:00～11:10 会 場：302 会議室 団体名：生涯学習 100 年構想実践委員会（再入居）（平成 30 年 9 月入居／3 年目）	
日 時：平成 31 年 3 月 10 日（日）11:30～12:40 会 場：302 会議室 団体名：宮城県学童保育ネットワーク （平成 30 年 9 月入居／1 年目）	
日 時：平成 31 年 3 月 10 日（日）12:55～13:45 会 場：302 会議室 団体名：ミタケオアシン （平成 30 年 9 月入居／1 年目）	
●ワークスペースについて 使用していない事務用ブースを、一時的にワークスペースとして利用することができるように無料開放しており、空きスペースの有効活用を進めている。今年度については、全部で 8 ブースある事務用ブースがほぼ満室の状態だったため、ワークスペースとしての利用実績はなかった。	

②フリースペース利用状況

●フリースペース概要

○通常の利用

地域づくりに関わる方の交流を深めるための場として、予約不要・無料で利用できる。平成 27 年 5 月から、2 階ギャラリーに Wi-Fi が設置され、利用者が自身のスマートフォンやノートパソコンなどでインターネットをすることができ、情報収集・発信が可能となった。

(利用人数などは「運営状況-利用状況集計」を参照)

○企画の利用

NPO、自治会・町内会、子ども会、生涯学習団体、個人、企業（社会貢献活動での利用）を対象に、展示、ワークショップ、交流会など、下記の目的のもと利用できる。

【利用目的】

- ・団体の活動を多くの人に知ってもらう
- ・企画づくりを通して団体運営のパワーアップを図る
- ・市民が集い新たなつながりを生む
- ・市民が自分たちの住む社会・地域について知り、考える
- ・市民が地域・社会のためにアクションを起こす

○TSC事業での利用

来館者に TSC の取り組みや NPO のことを知ってもらう場合やオープンな空間づくりを行う場合は、TSC 事業の会場としてフリースペースを活用している。



2 階 ギャラリー



3 階 交流サロン

●企画利用内容

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
1	さをり体験 & 作品展	さをりひろば 余暇よか	5/12 ～ 5/14	さをり織り活動の普及	・さをり織り教室の 会員による作品展 ・さをり織り体験 ・さをり小物の一部 販売	3 階 交流サロン	のべ 45 名 程度
2	たがじょう IDAHO 2018 IDAHO メッセージ展	たがじょう IDAHO 実行委員会	5/7～ 5/20	5/17 は「多様な性に YES の日」である。誰も が多様な性の当事者 であることの理解促進 を図る。	・「やっぱ愛ダホ！ idaho-net.」によせ られたメッセージを 展示している青森 県のスクランブル・ エッグの出張展 示。	2 階 ギャラリー	—
3	第 2 回西から魔女が やってきた Peace をつ くろう～平和を語るも のがたり～ 「折鶴プロジェクト お 茶っこ大作戦」	長崎の語り部 から学ぶ会	6/7	「第 2 回西から魔女が やってきた Peace をつ くろう～平和を語るも のがたり～」のための千 羽鶴作成作業	・お茶を飲みながら 鶴をつなげる	2 階 ギャラリー	4 名
4	さをり織り体験会	さをりひろば 余暇よか	7/5	経糸をセットした織り機 で体験することで、さを り織りのよさを体感す る。	・さをり織りの説明 ・さをり織り体験	3 階 交流サロン	3 名

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
5	多賀城中学校 美術部作品展	多賀城市立多 賀城中学校美術部	7/23 ～ 7/31	地域の方々に美術部の作品を鑑賞していただく。	・美術部の作品展示	2 階 ギャラリー 3 階 交流サロン	100 名程度
6	会員写真展	写真クラブ 集団多賀城	10/2 ～ 10/26	写真を通じ、地域文化の交流をはかる。	・団体メンバー(14名)が撮影した写真の展示	3 階 交流サロン	—
7	歯と健康のつどい	多賀城市保健 福祉部健康課	11/11	健康増進	・口腔用品などの展示	3 階 交流サロン	—
8	マルシェ Crystal of snow ～同じ空の下～	大山佳子	12/14	・ハンディキャップのある方・保護者の交流 ・社会と広くつながる	・マルシェ ・出展者同士、来場者との交流	2 階 ギャラリー 3 階 交流サロン	100 名程度
9	さをり体験 & 作品展	さをりひろば 余暇よか	3/29 ～ 4/2	・さをり織り活動の普及 ・織り体験の提供	・さをり織り教室の会員による作品展 ・さをり織り体験 ・さをり小物の一部販売 ・織りつなぎ	3 階 交流サロン	のべ 26 名

●企画利用の様子



2. たがじょう IDAHO2018 IDAHO メッセージ展
(たがじょう IDAHO 実行委員会)



5. 多賀城中学校 美術部作品展
(多賀城市立多賀城中学校美術部)

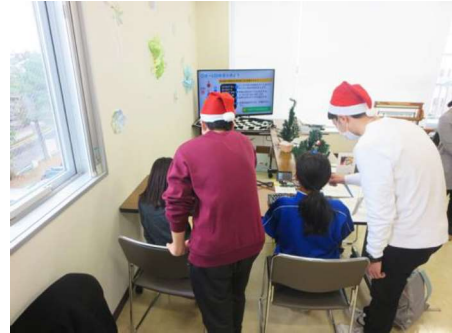


8. マルシェ Crystal of snow～同じ空の下～
(大山 佳子)

●T S C事業での利用の様子



開館 10 周年記念イベント (3 階)



たがさぼのクリスマス雑貨市 (3 階)

（５）他団体・他機関との連携

①各会議・実行委員会への参加

地域課題を解決していくためには多様な主体で連携して取り組んでいく必要がある。今年度、ＴＳＣでは多賀城市の課を横断した情報交換や取り組みの場に参加した。

１）平成 30 年度災害公営住宅関係課ミーティング

災害公営住宅に現状について、多賀城市各課・各関連機関の垣根を超えて共有し、連携して課題解決を図ることを目的に実施された。

【参加団体・機関】

地域コミュニティ課（主管）、都市計画課、介護福祉課、生活支援課
 社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会復興支えあいセンター、一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム、一般社団法人パーソナルサポートセンター、社会福祉法人宮城県社会福祉協議会震災復興支援室、宮城県サポートセンター支援事務所、一般社団法人みやぎ連携復興センター

【ＴＳＣの役割】

- ・市民によるコミュニティ形成や課題解決に関する取り組み事例の提供
- ・自治会運営に関する相談対応

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	4 月 26 日(木)	多賀城市災害公営住宅の支援のあり方検討会
第 2 回	5 月 18 日(金)	各住宅の情報共有、見守りに関しての事例紹介
第 3 回	6 月 15 日(金)	同上、自治会役員選出方法の事例紹介
第 4 回	7 月 20 日(金)	同上
第 5 回	9 月 21 日(金)	各住宅の情報共有
第 6 回	10 月 26 日(金)	同上
第 7 回	11 月 16 日(金)	同上
第 8 回	12 月 21 日(金)	同上
第 9 回	1 月 18 日(金)	同上、小松島地域包括支援センター「ハッピーカフェ」共有
第 10 回	3 月 15 日(金)	各住宅の情報共有、コミュニティ形成支援シート作成

【成果】

- ・災害公営住宅の支援者へ、災害公営住宅以外の自治会の課題や取り組み事例の情報を提供することができた。
- ・NPO法人格取得を検討している自治会の相談対応につながった。

【課題】

- ・支援者へ、昨年度実施した「多賀城市自治会課題・取り組み事例調査」の結果を活用して、地域課題等に関する情報を次年度も提供していく。
- ・コミュニティ形成に向けて、災害時公営住宅へ必要な情報を届ける、適切な団体とつなぐ仕組みづくりを支援者と連携して行っていく。

2) 住民主体の地域づくりを広げる事業実行委員会

地域の自然な支えあいの取り組みに価値を見出し、事例として地域に発信していくことを目的に実施された。

【参加団体・機関】

介護福祉課（主管）、社会福祉課、生活支援課、子育て支援課、保育課、健康課、生涯学習課、地域コミュニティ課

社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、復興支えあいセンター、多賀城市地域包括支援センター（中央・西部・東部）、市民有志（行政区長、児童民生委員等）、NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター

【TSCの役割】

- ・自治会・町内会をはじめとした住民同士の支えあい事例の情報を提供する。
- ・各分野で活動する市民活動の情報を提供する。
- ・自治会・町内会の会長や役員、若い世代の活動者が実行委員の企画する講座に参加するよう促し、すでに地域づくりに関わっている人に対して地域で支えあう意義を知ってもらう。

【実施状況】

	実施日	内容
第1回	7月19日(木)	趣旨説明、実行委員自己紹介
第2回	8月22日(水)	「支え合い」についての講義
第3回	9月11日(月)	地域支え合い講座の内容・対象・周知方法の検討
第4回	10月12日(金)	地域支え合い講座の周知状況・当日の流れの確認

第 1 回 企画	10 月 24 日 (水)	企画名：プロに教わる！地域の支え合いとは？？ 第 1 回 「支えあい」とは 内 容：広く市民を対象に、支えあいについての講義と身近な取り組みを出し合うワークショップを実施。
第 5 回	11 月 5 日 (月)	第 1 回企画のふりかえり、第 2・3 回の企画内容の検討 ※T S C スタッフは参加せず
第 2 回 企画	12 月 18 日 (月)	企画名：プロに教わる！地域の支え合いとは？？ 第 2 回 身近な事例発掘 内 容：身近な支えあいの取り組みに価値付けを行い、参加者で共有する。
第 6 回	12 月 7 日 (金)	第 2 回企画のふりかえり、第 3 回発表事例検討 パンフレット掲載事例選出
第 7 回	2 月 26 日 (月)	第 3 回発表事例の取材状況確認・流れの確認・役割分担
第 3 回 企画	2 月 1 日 (金)	企画名：地域のお宝事例発表会 内 容：地域での支えあいにつながる事例の発表会。広く市民に身近な事例を共有。
第 8 回	2 月 26 日 (火)	第 3 回企画のふりかえり、次年度について

【成果】

- ・市民活動団体の参加を促したことで、事例発表やパンフレットに高齢者の支え合いや地域コミュニティだけでなく、子育て支援、性的マイノリティといった多様な視点を取り入れることができた。
 - ・実行委員会での学びやネットワークを活かし、東北学院大学の企画に多賀城での支え合いの事例を発表する機会を設けることができた。
- ※詳細は 47 ページ「②他部署・他機関との連携事例」を参照。

【課題】

- ・前年度までは高齢者の支え合いが主であったが、今年度は子どもや子育て層、性的マイノリティ等へ視野を広げることができた。今年度もさまざまな団体を実行委員会へつなぎ、多様な視点での支え合いを考える。

3) 多賀城盛り上げ会議

多賀城市の賑わい創出を目的とした会議。主に観光に関わるキーパーソンが集まり、企画を検討する。前年度は観光振興事業に係るキーパーソン会議として実施。

【参加団体・機関】

商工観光課（主管）、地域コミュニティ課、市民文化創造局、管財課
 多賀城市観光協会、多賀城・七ヶ浜商工会、万葉まつり実行委員会、多賀城フェスティバル実行委員会、タガの柵、くいしん坊、一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ、理研食品株式会社、株式会社松島蒲鉾本舗、ホテルキャッスルプラザ多賀城、株式会社すずこ、岩手県北バス

【T S C の役割】

- ・会議や企画に、観光に関わるさまざまな地域資源をつなぐ。
- ・メンバーとともにプログラムを立案する。

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	5 月 10 日 (木)	趣旨説明、自己紹介、賑わいを生むためのアイデア出し
第 2 回	8 月 22 日 (水)	情報提供、意見交換、事業検討 ※T S C スタッフは参加せず
交流会	12 月 11 日 (火)	企画名：塩竈・多賀城交流会 内 容：多賀城市、塩竈市における観光に関するキーパーソンの交流会。各市の取り組み紹介を行った。

【成果】

- ・T S C として持つ視点や団体の情報を会議メンバーに共有することができた。
- ・T S C として観光に関わる企業や団体とつながる機会となった。

【課題】

- ・今年度で築いたつながりを、交流で終わらずT S C 事業等へも活かしていく。

4) その他

その他、文化交流拠点間、公民館間の情報交換の場に参加した。出席した回のみ記載。

【参加団体・機関】

●文化交流拠点@多賀城ネットワーク会議

市民文化創造局（主管）、生涯学習課、市長公室、地域コミュニティ課、子育て支援課、商工観光課、文化財課、多賀城市文化センター、多賀城市立図書館、多賀城市埋蔵文化財調査センター、多賀城市子育てサポートセンター

●3 公民館合同会議

生涯学習課（主管）、中央公民館、大代地区公民館、山王地区公民館、多賀城市文化センター

●施設情報交換会

多賀城市文化センター、中央公民館、山王地区公民館、多賀城市立図書館、蔦屋書店

【T S C の役割】

- ・ T S C の取り組みを他施設へ共有する。
- ・ 他部署とともに連携の仕方を考える。

【実施状況】

	実施日	内容
文化交流拠点@多賀城ネットワーク会議 第 2 回勉強会	11 月 15 日（木）	多賀城市文化創造推進アドバイザー 志賀野桂一氏による、多賀城市の文化資源活用やシビックプライド情勢、シティブランディング等に関しての勉強会
第 3 回 3 公民館 合同会議	12 月 14 日（金）	各公民館・施設の事業共有 運営に関する情報交換
施設情報交換会	11 月 16 日（金）	事業共有、中高生の来館について
施設情報交換会	3 月 17 日（金）	事業共有、マイノリティについて 各施設の事業の連動について

【成果】

- ・ 各会議で各課・各施設の役割や事業を共有することができた。
- ・ 施設情報交換会での話し合いを元に、実際に来年度事業を連携して実施することとなった。

【課題】

- ・ 来年度以降も情報交換にとどまらず、互いに連携して事業を進められるような場として各会議を活用していく。

②他部署・他機関との連携事例

1) 「trip to zine ～zine への旅～」展

○企画について

期 間：6 月 14 日（木）～7 月 16 日（月）

会 場：多賀城市立図書館

来場者：926 人

主 催：多賀城市立図書館

内 容：個人や有志によってつくられた小部
数の出版物を指す「zine」の展示。
世界、東北、多賀城の zine が揃った。



○連携について

概 要：多賀城の zine については T S C の資料を提供した他、団体を図書館へつないだ。
一部、紹介文も T S C と図書館で作成した。

連 携：多賀城市立図書館

成 果：図書館来場者が、zine という切り口で取り組みを知る機会となった。

T S C が収集した市民による情報発信資料を図書館で活用することができた。

2) 東大寺展 & あやめまつり 10 倍満喫日帰りツアー

○企画について

日 時：6 月 24 日（日）9:50～15:00

会 場：多賀城跡あやめ園

参加者：4 人

主 催：株式会社立志社

企 画：一般社団法人復興応援団

内 容：多賀城政庁跡、東北歴史博物館、あ
やめまつりを巡る日帰りツアー。



○連携について

概 要：ツアーの一部として、あやめまつりに出展している団体（T・A・P 多賀城、生涯学習 100 年構想実践委員会、多賀城史遊館ボランティアの会、レインボー多賀城）に話を聞くプログラムを設定。T S C はプログラムの立案、団体とのコーディネートを行った。

連 携：一般社団法人復興応援団

成 果：ツアー参加者が多賀城市内で活動する団体を知る機会となった。

復興応援団の持つツアープログラムと学生や若い世代への集客力、T S C の持つ多賀城市内の団体とのつながりを活かす企画をつくることができた。

3) 地域づくりと介護予防展

○企画について

期 間：11 月 5 日（月）～11 月 9 日（金）

会 場：多賀城市役所ロビー

参加者：集計なし

主 催：介護福祉課

内 容：介護予防全般、多賀城市の人口構成、
地域のサークルに関する展示。



○連携について

概 要：各課で持っている地域のサークル事例を持ち寄って企画を検討した。サークルの協力も得て、普段の活動の成果物も展示した。

連 携：介護福祉課、地域コミュニティ課、地域のサークル

成 果：来庁者が医療の観点のみならず、地域活動に参加することの効果や具体の活動事例を知る機会となった。

各課が地域情報を持ち寄り、多様な視点・テーマでの展示をすることができた。

4) C S W公開研究会「地域コーディネーターが走る！」

○企画について

日 時：11 月 30 日（金）10:50～15:15

会 場：東北学院大学ホーイ記念館

参加者：集計なし

主 催：東北学院大学地域共生推進機構

内 容：住民による地域課題解決事例の発表。



○連携について

概 要：多賀城市内における課題解決につながるサークル活動（志引 P C 同好会、鉄道サークル E P K、なかっざいカフェ、文化刺繍花みずき）についてポスターセッションを行った。T S C は発表の統括と連携団体への参加呼びかけを行った。

連 携：介護福祉課、地域コミュニティ課、山王地区公民館

社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、多賀城市東部地域包括支援センター

成 果：多賀城市内の取り組みを市外へ発信するとともに、市外の事例を多賀城市に取り入れる機会となった。

市内の部署・団体が連携して発表することで、サークル活動に対して多様な視点を持つことができた。

5) 音と絵本のおはなし会

○企画について

日 時：12月1日（土）14:00～14:40

会 場：多賀城市立図書館

参加者：57人

主 催：多賀城市立図書館

内 容：図書館の定例おはなし会の特別版として、生演奏付のおはなし会を実施。



○連携について

概要：生演奏をBGMに読み聞かせを行った。NPOが発行に携わる絵本の読み聞かせ、紹介も行った。

連携：多賀城市立図書館、読み聞かせボランティアよつばのクローバー
ライブを聴こう in 多賀城実行委員会

成果：子どもや子育て層が、絵本という切り口でNPOを知る機会となった。

ライブを聴こう in 多賀城実行委員会が演奏、よつばのクローバーが読み聞かせ、多賀城市立図書館が場のセッティングと企画進行、TSCが団体のコーディネートをを行い、各々の強みを活かして企画を作り上げることができた。

6) 多賀城市立第二中学校 総合的な学習の時間

○企画について

日 時：12月19日（水）11:30～12:15

会 場：多賀城市立第二中学校

参加者：131人

内 容：1年生の総合的な学習の一環として、
多賀城の地域資源を調べて発表。



○連携について

概 要：授業づくりにあたって、担当の先生、タガの柵とで意見交換を行った。また、授業の中でT S Cから市民活動団体を紹介した。

連 携：多賀城市立第二中学校、タガの柵

成 果：中学生が学習の中で市民活動団体に触れることができた。

T S Cとしては市民活動の視点、タガの柵としては観光の視点で中学生に地域資源を伝えることができた。

I -4 事業実施状況

(1) 開館 10 周年記念事業

目 的	●開館 10 周年記念事業全体の目的 この 10 年の市民活動をふりかえるとともに、さまざまな主体による対話の場をつくることを通して、これからの多賀城の地域づくりにつなぐ。 ●プレイベントの目的 対話を通してこれからの地域づくりにつながるキーワード、ヒントを見出す。挙げた現状・課題は自分自身にも関係していることであると気付くと同時に、地域をよりよくしていける一人であると気付くきっかけとする。 ●フォーラムの目的 地域のことは、市民一人ひとりが関わり築きあげていくものだという気付きを得るきっかけとする。新たな人材の発掘、多賀城の課題を解決することにつながる対話を生むことを目指す。 ●10 周年記念誌発行の目的 開館から 10 年の多賀城の市民活動の状況や T S C の取り組みを活動者の声を通してふりかえるとともに、これからの地域づくりのヒントが得られたり、新たな取り組みを始めるきっかけを生む。
背 景	平成 29 年度に実施したプレイベントでは、参加者・ゲスト間で自発的な対話が生まれ、新たな取り組みの創出につながった。今年度は、参加者からも話したいテーマとして挙げられていた「多様な人にやさしいまちにするには？」をテーマに、未来に向けて必要や視点やカギを見出していく。 フォーラムでは、プレイベント参加者が考える「未来に向けたカギ」として多く挙げた「人とのつながり」をテーマに実施。地域におけるつながりは「支援する側・される側」という関係性を超えたところに生まれること、自発的な活動は、「楽しそう」「関わってみたい」など、前向きな感情を通したつながりから生まれていくことを学び、対話を通して体感する機会とする。 記念冊子では、イベントの報告と「カギ」をもとに、読者が自分ごととして「未来へのカギ」を考えられるよう投げかけながら、これからの地域づくりにつながるヒントやきっかけを得られる内容とする。
対 象	・無関心層（市民活動に関心を持っていない人） ・潜在的活動者（市民活動に関心を持っているが、行動を起こしていない人） ・既活動者（市民活動に関心があり、すでに活動を行っている人）
成果目標	・地域づくりにつながる自発的な対話の機会が生まれる（指標 10 件）
成 果	・事業参加をきっかけに、自発的な対話の場が 1 件生まれた。 ・参加者が他の参加者の活動でボランティアをはじめ、講師を務める、情報交換を行うなど、新たなつながりができた。 ・参加した人たちが自分の思い・考えを整理し、共有することができた。
次年度に向けた課題	・市民主体の対話の場を増やしていくためのアプローチが必要。 ・参加者は既利用者が多かった。新規参加者を増やすためのアプローチが必要。

実施概況 (1) 開館 10 周年記念事業

タイトル：開館 10 周年プレ企画「たがじょうのミライのことをはなそう」

Vol.3 みんなにやさしいまちにするカギ

日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土）18:00～20:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター

2F フリースペース

内 容：

① ゲストトーク

活動紹介、一人ひとりを認めあうために必要なこと、活動をする上で大切にしていることなどを伺った。

② フロアトーク

テーマに関することで、普段、気になっていることや考えていることを全体で話し合った。

→どんな人も同じ空間の中にいることに意味があるのではない
か、子どもに大人たちの頑張っている姿に触れてもらうことも大切ではないか、多様な人を受け入れるには、もっと学びや日常生活の中で関わり方を知る機会が必要といった声が挙がった。

③ みんなにやさしいまちにする「カギ」だと思ったことの発表

イベントを通して感じた、世代を超えて集う「カギ(キーワード)」を一人一言で共有した。

→「みんな違ってみんな良い。みんなにわかりやすいことが大切」
「ひとりの人の思いを大切に。その子のやさしさを見つめる」「やさしい距離感をつくろう」といったカギが挙がった。

<ゲスト>

本郷佳江さん ハッピーピース 代表

内浦恵美子さん 多賀城市国際交流協会ジュニア部 部長

<コーディネーター>

土佐昭一郎さん NPO法人ミヤギユースセンター 理事長

参加費：一般 500 円、学生 無料

参加人数：17 名



左からコーディネーターの土佐昭一郎さん、ゲストの本郷佳江さん、内浦恵美子さん



フロアトークの様子①



フロアトークの様子②

開館 10 周年記念イベント「うれしい・たのしいから見つける未来のカギ」

日 時：平成 30 年 7 月 22 日（日）10:00～16:30

10:00～14:00 たがさぼの七夕雑貨市

13:00～16:30 トークイベント

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

301・302・大会議室、3F 交流サロン

トークイベント内容：

①ゲストトーク「ゆるーくたのしく「あそび」と「つながり」を生み出す～ヤキイモでできた大人になってからの友達～」
地域の人とつながるうれしさ・取り組みを行う楽しさを育むためのヒント・コツを学んだ。

②ワークショップ「トークフォークダンス」

二重の輪になって 1 分交代でテーマに沿った話をした。まちづくりで大切な「普段接点を持たない人同士が話をすること」「相手の話は否定しないこと」「答えのないテーマの答えをみんなで考えること」を体験した。

③トークセッション「多賀城に広げよう！「うれしい」「たのしい」人とのつながり」

ゲストから、人とのつながりづくりの取り組みについて伺った。

＜ゲスト＞

西川正さん コミュニティワーカー／NPO 法人ハンズオン埼玉 理事

内浦恵美子さん 多賀城市国際交流協会ジュニア部 部長

大友みどりさん 高崎こども食堂らっこ広場 副代表

金子昭夫さん 高橋東一区町内会 会長

参加費：無料

参加人数：40 名

あそびブース：

大きいオセロ・将棋、カルタ、イス型の積み木、

かぶりもの、えんたくん



トークイベントゲストの西川正さん



ワークショップ「トークフォークダンス」の様子



左からトークセッションゲストの内浦恵美子さん、大友みどりさん、金子昭夫さん



あそびブース（カルタ）の様子

【他記述】

・DM

スタッフからの案内により参加した人が最も多かった。なお、初来館者がイベント知ったきっかけは、知人・友人からの紹介であった。

⑤参加動機

【Vol. 3】 回答件数 36 件（複数回答可）

【項目】

1. みんなにやさしいまちにするためのカギを知りたかったから
2. ゲスト・コーディネーターの取り組みに関心があったから
3. 自身の暮らしづらさを軽減するヒントがほしかったから
4. 身近にいる人の暮らしづらさを軽減するヒントがほしかったから
5. 活動をはじめるきっかけ、踏み出すヒントがほしかったから
6. その他

項目 1	項目 2	項目 3	項目 4	項目 5	項目 6
8 人	10 人	2 人	4 人	2 人	2 人

記述

- ・コミュニケーション能力の向上
- ・このコミュニティの体温を感じたかったから
- ・しょうがいがあったから、まちづくりを学びたかったから
- ・いろいろな人・団体とのパートナーシップを考えたかったから

【Vol. 3】 回答件数 36 件（複数回答可）

【項目】

1. 「うれしい」「たのしい」人とのつながりづくりに関心があったから
2. ゲストの活動に興味・関心があったから
3. 地域づくりに興味・関心があったから
4. 市民活動・ボランティア活動に興味・関心があったから
5. 自身の活動の参考にしたいから
6. 活動をはじめるきっかけ、踏み出すヒントがほしかったから
7. その他

項目 1	項目 2	項目 3	項目 4	項目 5	項目 6	他
10 人	13 人	10 人	9 人	9 人	3 人	3 人

記述

- ・10 周年記念イベントだから
- ・スタッフのおすすめで

ゲストの活動に関心があり参加した人が最も多かった。中でも項目 6「活動をはじめるきっかけ、踏み出すヒントがほしかった」を選んだ方が少なく、その他が多いことから、活動に関心のある方・すでに活動に携わっていてヒントがほしい人の参加が多かったことが分かる。

③感想・得たこと、今後取り組みたいことなど（主な回答を抜粋）

【Vol. 3】

- ・いろいろな立場で、同じ願いを持つことの大事さを知りました。
- ・一般の「ふつうの人たち」が参加していると思いましたが、ふつうの人たち一人ひとりが皆「熱い思い」を持っているすごい人たちでした。想いをのみ込まず、声にできる力をどうすれば活かせるか考えさせられました。
- ・初心に戻った気分です。楽しかった、新鮮。
- ・不登校のうちの子は、診断とかはないんですが、とても小さい頃から過敏でした。発達障害についてもっと知りたいと思いました。

【記念イベント】

- ・トークセッションが多く、意見や感想が聞けて楽しかった。前回のトークイベントにいらした方との交流ができた。地域の活性化のヒントが見つかってよかった。
- ・とても楽しく参加した。仕事に関係なく地域に参加できる人になりたい。
- ・人の話は聞く。否定をしない極意、コミュニケーションの取り方を学べた。
- ・人とのつながりをつくるきっかけがいろいろとある事の紹介がよかった。
- ・とても良かった。一人ではできなくとも何人かで組んでやればできると思った。

④今回のテーマにおいて、もっと知りたい、他の人と考えていきたいこと（主な回答を抜粋）

【Vol. 3】

- ・多賀城のミライは…多賀城で長く勤めさせていただき、多賀城の子どもたちは大好きなのですが、「ミライ」はまだまだ課題は多いので継続を。
- ・今、働いていて困っていることがあれば聞いてみたいです。
- ・つながりができたらよいなあと思います。
- ・もっとたくさんの考えを聞きたいです。

【記念イベント】

- ・小中学生と地域の大人のとのしゃべり場
- ・今日体験したワーク、とても楽しかったので私もチャレンジしたい。
- ・住民一人ひとりが活かされる場をつなげたい。
- ・人間社会が平和であるために身の周りの声掛けから取り組みたい。安心して楽しく過ごせる場所が作れるようにしたい。

⑤地域に関することで、他の人と話し合いたいテーマ（主な回答を抜粋）

【Vol. 3】

- ・不登校
- ・まさしく、教育について深い問題提起をしていただきたいかなと思います。
- ・人口流出の防止
- ・少子高齢化
- ・みんな楽しくすごせるためにできること、やるべきこと

* 添付資料

☐ チラシ☐ 当日配布資料☐ 記念誌

(2) 課題解決のための連携モデルづくり ①多様な主体で課題に向かう場づくり

目的	本事業では、主な目的として『多様な主体が多賀城の地域課題について考えるための場を創出する』を掲げていて、その定義として下記の通りに考えた。 ・市民が「課題が解決された状態の地域・社会」を目的に掲げ、それに共感した様々な主体（セクター）が参画する。 ・様々なセクターの参画が、自然かつ自発的に生まれる地域・社会を目指す。 ・T S Cは上記の実現に向けて、自己の資源を活用し支援・調整役となる。
背景	平成 29 年度に実施したC S R調査内容の分析を行ったところ、目的達成に必要な基盤づくりが不足していると判断し、構築する基盤としては以下を掲げた。 ・様々なセクターが課題を抽出し、その課題が解決された地域や社会を描く・伝える力を磨く。 ・市民活動団体が掲げる課題も場づくりのテーマに取り上げる。 ・セクター間をはじめ、T S Cと様々なセクターの関係性をさらに育む。 ・T S Cの資源を改めて見直し、かつT S Cが掲げるコーディネート（調整）の役割を定める。 ・T S Cは目的達成のための様々な方法をトライ＆エラーで実施していく。 こうした基盤強化を進める具体的な方法として、企業とT S Cとの間で生まれたつながりを強化・発展するアクションとして下記の3つを定めた。 ・「雇用」と「多様性」をテーマにした場の設定。 ・企業の貢献活動を“伝える”役割。 ・平成 29 年度事業を通して生まれた関係性から、企業セクターの貢献活動を支援する取り組み。
対象	企業、N P O（市民活動団体）、行政、自治会・町内会
成果目標	多様なセクターが集う場づくりや各々の活動紹介、場合によっては具体的な行動や活動の実践への支援・調整を行う。また、セクター間のつながり形成やT S Cと他セクターの結びつきの強化および新たな関係性構築を目指す。（指標：3 件）
成果	・活動紹介 2 件、地域貢献活動支援 6 件、場づくり 1 件の計 9 件を実施した。 ・企業の社会貢献活動をT S Cの情報媒体（tag、たがさぼ Press）で発信し、市民がN P O以外での地域づくりの活動を知る機会となった。 ・企業の社会貢献に関する相談対応が 6 件あった。そのうち 1 件は企業と市民活動団体をつなぎ、双方の活動の課題解決に向けたきっかけとなった。 ・T S R V o l . 2 を「雇用」と「障がい者」を含めたテーマで開催し、障がい者を支援する市民活動団体と障がい者雇用を積極的に行う企業がつながるきっかけとなったほか、多賀城で『共生社会』を考える環境を構築した。
次年度に向けた課題	・T S R V o l . 2 で取り上げたテーマについて、更なる展開を希望する声にどのように応えるか。 ・企業とのヒアリングや相談対応の中で、各セクターは互いにどのような取り組みを行っているか、お互いに把握できていない現状が見えてきた。

実施概況（２）課題解決のための連携モデルづくり①多様な主体で課題に向かう場づくり

【多賀城市内企業の地域貢献活動取材と発信】（2 件）

- 目的：企業の貢献活動を T S C の情報媒体を活用し伝える。

<事例①>

- ・対 象：多賀城市建设災害防止協議会
- ・題 材：クリーンキャンペーン
- ・取材日：平成 30 年 7 月 27 日（金）…実施日
平成 30 年 9 月 13 日（木）…後日聞き取り
- ・掲 載：tag vol.71



クリーンキャンペーン実施中

<事例②>

- ・対 象：カーブス多賀城（城南・笠神）（(株)井上）
NPO法人いのちのパン
- ・題 材：フードドライブの寄贈式
- ・取材日：平成 31 年 2 月 22 日（金）
- ・掲 載：たがさぼ Press3 月 1 日（金）

※下記メディアでも取り上げられた。

河北新報朝刊 3 月 2 日（土）

河北まごころねっと 2019 年 5 月号（予定）



左）カーブス多賀城（城南・笠神）（(株)井上）

右）NPO法人いのちのパン

【多賀城市内企業の地域・社会貢献活動相談】（6 件）

- 目的：企業セクターの地域・社会貢献活動支援

件数	相談企業（業種など）	相談回数	内容（概略）
1	金融機関の支店	2 回	地域貢献活動のプログラムについて
2	工務店	2 回	所有スペースを地域貢献活動で活かすアイデア等について
3	健康教室を運営する企業	2 回	貢献活動で集めた物資の寄贈先について
4	新聞販売店	複数回	多賀城市内の市民活動情報の提供など
5	縫製メーカー	1 回	外国人研修生と地域との交流について
6	企業の協議会	複数回	企業の貢献活動の啓発に向けた情報交換や、団体が実施している清掃活動の取り組みについて

【全員参加型会議：Tagajo Sustainable Relationship Vol.2】

(以下、T S R Vol.2)

●目 的：様々な主体が集まり関係性を構築する場をつくる

・テーマ：多様性をみとめる地域や社会を目指す

・会 場：PUBLIC HOUSE 多賀城（多賀城市立図書館内 3 階）

・日 時：平成 31 年 1 月 22 日（火）14:00～17:00

・来場者内訳

企業	団体	個人	行政	全体（計）
27 人	13 人	5 人	6 人	51 人

※企業：株式会社、有限会社、個人事業主など

団体：NPO（法人含む）、一般社団、任意団体など

●企画内容

テーマに掲げている“多様性”は社会的な少数者として様々な立場の方々が該当するが、今回のイベントではその中でも障がい者にスポットを当て、さらに社会参加の手段の 1 つである雇用に注目して考える。

●実施項目

・障がい者雇用の基礎知識

アドバイザー：林田元太 氏

（株式会社 LITALICO マネージャー）

・ゲストトーク『多様性をみとめるまちづくり』

ゲスト：田中真宏 氏

（特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所ディレクター）

聞き手：津川登昭 氏

（一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ代表理事）

・シンポジウム『だれも取り残さない社会を目指して』

登壇者…毛利誠 氏

（ユニベール株式会社ソーイング事業部仙台工場）

…吉田芳弘 氏

（株式会社ウジェスパー

株式会社ウジェクリーンサービス常務取締役）

…菅原亜希子 氏

（株式会社ウジェクリーンサービス

経営企画室ディレクター）

…槻田栄治 氏

（株式会社協和エクシオ東北支店通信ビジネス部門）

コメンテーター

田中真宏 氏

林田元太 氏



当日の会場の様子



ゲストトークの様子



シンポジウムの様子その 1

コーディネーター

津川登昭 氏

・テーブルトーク

参加者がテーブル（3～4 人）ごとに集まり、以下の題材についてそれぞれの考えをまとめ、共有する時間

- ①「多様性をみとめること」や「だれも取り残さないこと」について、私はこう考えた
- ②「多様性をみとめること」や「だれも取り残さないこと」について、私が取り組めそうなこと



シンポジウムの様子その 2

アンケート集計結果

●TSRVol.2 アンケート結果（集計数：34 件）

(1) ご所属について

①ご所属

企業	団体（医療法人含む）	個人	ほか（行政）
16 人	11 人	5 人	2 人

②所在地・お住まい

多賀城市	仙台市	塩釜市	七ヶ浜町	利府町	松島町	無記載
15 人	9 人	4 人	3 人	1 人	1 人	1 人

(2) テーブルトークで話した内容について（※企業の参加者のお答えを中心に主なものを抜粋）

①「多様性をみとめること」「誰も取り残さないこと」について、私が考えたことの回答

- ・障がいの内容を「テーマ」にしたこの様な会はとても少ないので良い機会になった。ダイバーシティや多様性が求められる社会、自分が出来ることを考えるきっかけになりました。（個人）
- ・「支援から実践へ」というウジェスパー吉田さんのリアルなコメントに共感した。（団体）
- ・様々な人に支えられている自分をより活かすには、自らの環境を愛し関わる方々を愛することだと感じています。（団体）
- ・障がいのある方をもっと理解すべく、イベント等があれば積極的に参加したい。（企業）
- ・企業は継続するにも収入が大切。それぞれの視野から考えてみるべき。（個人）
- ・健常者、障がい者ではなく、それぞれの“個”オリジナルだと思っています。そのボーダーを越えて、向き合っていきたいと思います。（企業）
- ・ゆっくり生きよう。（企業）
- ・障がい者雇用に関する企業としての考え方の見直し（法定雇用率をクリアすれば良いという風潮）。（企業）
- ・上手に話せなかったのですが、障がい当事者として、社会に自分から進んでいく気持ちが生まれました。（個人）
- ・今日の会議に参加し、周りの方とも情報交換する中で「多様性を認めること」ということが大切だということを改

めて感じ、自分自身の意識の持ち方を変える良い機会となりました。(企業)

- ・一緒に働くことで気づきが生まれ、ソリューションができる。多様な人材が企業に与える影響は大きいと考える。(企業)

②「多様性をみとめること」「誰も取り残さないこと」について、私が取り組みそうなこと

- ・障がい者の雇用について、偏見のようなものをなくす。例えば障がい者用のマニュアルは、新入社員にも役立つとか。(団体)
- ・福祉事業所の方、企業の方とのテーブルトークでした。もう少し、情報を発信していける様、努力したいと考えています。(行政)
- ・今日得た情報や知識を自分の周りに共有していきたいし、このような機会があればぜひ参加してたくさんの知識を得たいと感じました。(企業)
- ・協議会として仕事の委託(就労体験)や販路の提供も視野に入りたい。(企業)
- ・会社社員への新たな理解につながるような企画の検討(目に触れるような)。(企業)
- ・当社の概要説明―障がいをお持ちであったとしても、労働力になり得る訳なので、このような取組みを継続的に続けていかなくてはいけない。(企業)
- ・当社の障がい者の方が3名いること。障がいのお持ちの方が相談しやすい総務を作りたい。(企業)
- ・今後の関わり方へも参考になるお話を聞くことができ、明日から実践していければと思います。(企業)
- ・ウジェスパーさんの取り組み、見学したいと思いました。(企業)
- ・会社に戻り今日の内容を部内で報告し参考にしたいと思います。(企業)
- ・精神障がい者が地域から取り残されないために就労の支援はもとより、地域のイベント(たがさぼ主催のイベントのような)に参加する形で支援していきたい(企業・医療法人)

(3) イベントに参加した理由(複数回答可)

理由	人数
イベントのテーマに興味があった	23 人
ゲスト・パネラーの話が聞きたい	16 人
登壇企業の活動に興味がある	13 人
他の企業の取り組みに興味があった	11 人
T S Rに興味をもった	10 人
ネットワーキング(企業・多セクター)	7 人
自社の取り組みの参考にしたい	7 人
地域や社会に貢献したかった	5 人
その他	5 人

(その他の記載内容)

- ・地域の現状の話を聞くため
- ・昨年も参加したから

(4) イベント内容の満足度

①障がい者雇用の基礎知識

満足度	満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
人数	9 人	19 人	3 人	1 人	0 人

②ゲストトーク 特定非営利活動法人 ピープルデザイン研究所

満足度	満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
人数	13 人	15 人	4 人	0 人	0 人

③参加型会議シンポジウム

満足度	満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
人数	16 人	11 人	4 人	0 人	0 人

④テーブルトーク

満足度	満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
人数	5 人	11 人	8 人	3 人	0 人

(5) 自由記述（感想・要望・取り組み・つながりたい団体・企業など）

（※企業の参加者のお答えを中心に主なものを抜粋）

- ・「超福祉展」のお話が興味深かった。宮城県内でも実施できればと想像できる夢のあるお話だと思った。（団体）
- ・企業の方たちの雇用についての考え方を知り、特にウジェスパーさんの雇用については出口まで準備する等、素晴らしいと思った。（団体）
- ・パネリストの吉田さんの「就労実現」すばらしい言葉です。（行政）
- ・今後も多賀城市の企画にはできるだけ参加させて頂きたいと思います。今回の企画だと支援学校にも参加して頂けたらと思いました。次回あれば、情報提供したいと思います。（企業）
- ・梶田さんの実体験を通じたお話も、吉田さんの情熱ある取り組みもすごく勉強になりましたし、とても良い機会となりました。障がい者雇用の現状を知る上で非常に参考になりましたので、自分の子どもや家族、友人など小さなコミュニティからでも情報を共有していきたいと感じました。（企業）
- ・とても充実した会合でした、ありがとうございました。（企業）
- ・障がいは個性。でも企業での雇用はやはり難しいのではないかと？アルバイトでも一時雇用でも最初から障がい者を差別していないか。障がい者の会社を設立して運営していく方法がベストではないかと思います。賃金が差を作らず、1人でも生活できることが必要だと思います。弊社ではやはり難しいです。PRすることはできるので応援したいと思います。（企業）
- ・地元の企業さん含め、様々な企業の方の取り組み、地域づくりへの考え方を知ることができとても勉強になった。業務では主に介護分野にありますが、近年では障がいサービスなどを利用されている方が介護保険を利用し始める方も増えてきたりしているので、障がい者の方のことをもっと学ばなければいけないと思い参加しました。（団体・医療）
- ・障がい者について気がつかなかったこと、目線の違いなど理解できました。ウジェさんの取り組みのすばらしさはぜひ多くの人に伝えたいと思います。（個人）
- ・企業の取り組みと、地域の「つながり」「目の前のこと」やれることを住民として考える時期に来ていること、助け

合うことを強く感じられる会でした。違いがあることも認めていきたい。(個人)

- ・民間などの企業で雇用をする場合には、当事者をサポートする人材も一緒に育てる、またはつけさせる事が必須ではないかと思います。当事者の方の声を聴くことで、本当に意味のある障がい者雇用になるのではないのでしょうか。

(団体)

- ・現在でも企業側で障がい者雇用を行うとき、身体希望が多くあります。障がい者を取り残さない、生きづらさを少しでも軽減できる世の中になれば良いと思います。障がい者全般での課題や地域でサポートする体制についての話を聞きたかったです。特にウジェスーパの考えに近い(ハンデのある人が当たり前で普通に暮らす)方々が増えたら良いと思っています。障がい者を採用する前に基本的な所を知って欲しいです。(企業)
- ・正直なところ、障がい者雇用納付金のことばかり考え、障がい者の方の採用を考えていたように思う。採用につながれば、環境をどのように整えるべきか?また、採用になった場合、自分は障がい者の方と会社の間に立って、相談員となれるのか?等、心配になった。身体障がい者の方の採用ばかりを考えていたが、精神障がい、知的障がいの採用枠は少ないという話を伺い一人一人に個性があるように、障がいの程度も様々なので一概に「身体障がい者のみ」と決めつけてはいけなと反省した。今後は違う視点で取り組みたいと思う。(企業)
- ・難しい問題(テーマ)を取り上げていただき、ありがとうございました。人口減、高齢化社会に向かう中で、このテーマの重要性は増すと考えています。参考になりました。(企業)
- ・企業さんから直接雇用のお話を聞けて良かったです。障がい者雇用についてあまりお話を聞く機会がないので、本日は大変勉強になりました。(団体)

* 添付資料

☐チラシ

☐当日配布資料

(2) 課題解決のための連携モデルづくり ②自治会・町内会運営支援

目的	町内会の運営課題について、解決に向けたアプローチと、今後の支援の方向性を検討する。
背景	平成 29 年度に T S C では多賀城市の自治会・町内会を対象に「多賀城市自治会課題・取り組み事例調査」を実施し、自治会運営の課題、地域の課題、取り組み事例を調査した。また、その内容を集計・分析し報告書を発行した。平成 29 年度以降は調査結果を誌面・ウェブを問わず公開するとともに、自治会・町内会活動、コミュニティ活動、多様な主体による連携、課題の分析等、さまざまな地域づくりの場で活用していく。 また、平成 32 年度より区長制度が改正され、区長を行政の特別職非常勤職員として委嘱することが困難になり、それに伴い行政と自治会が協定を締結することとなる。 平成 31 年度以降は、行政と自治会の協定締結がスムーズに進むこと、そして自治会運営の課題が解決に向かうようサポートしていく。
対象	・自治会・町内会
成果目標	・設定なし。
成果	●調査に関して ・tag、広報多賀城にて調査結果を用いており、市民が多賀城の現状を知り、地域づくりを考える機会となった。(tag3 回掲載、広報多賀城 3 回掲載) ・区長会の場において、調査結果を用いており、区長が自治会運営や地域の課題を知り、区長制度のあり方や地域づくりを考える機会となった。 ・市内外の団体がコミュニティや課題の分析に関する事業・研修において報告書を活用している。(2 件活用) ●区長制度に関して ・区長会、地域コミュニティ課、東北学院大学地域共生推進機構、T S C が協力して区長制度の改正に関する場を開き、より意見が出やすい場づくりを行うことができた。(1 回参加)
次年度に向けた課題	・平成 30 年度末から平成 31 年度にかけて、行政と自治会による協定締結に関する説明会等が行われていく。まずはその場において、いかに住民が前向きにアイデアを出せるか、これまで課題だったことが解決されていくかという視点でファシリテーション等のサポートを行っていくことが必要となる。 ・調査結果をさらに市内外へ広めていくとともに、現状把握や課題の分析のツールとして地域での講座や T S C 事業等で活用していく。

(3) 人材育成 ①雑貨市

目的	・市民活動団体が販売する雑貨・ワークショップへの参加・展示を通して「市民活動」に触れ、地域の課題に気づき、知ってもらう。 ・団体の販売する商品の購入やワークショップへの参加といった「団体への貢献」という形で市民活動に関わる人材を増やす。 ・新規来館者の増加、T S C の認知度向上。
背景	・市内で徐々に認知度を高めている当事業は、リピーターの来場も多い一方で、T S C への初来館者も多く、無関心層が市民活動に関わる貴重な機会であるため、今年度も開催することとした。 ・団体にとって、商品を購入する支援者ではなくてはならない存在である。この点に着目し、商品の購入やワークショップへの参加を通して「団体への貢献」という形で市民活動に関わる人材を増やす。 ・T S C 開館 10 周年であることを鑑み、他事業との連動企画により夏の開催を試み、さらなる新規来館者増加、T S C の認知度向上を目指す。
対象	雑貨に関心を持つ 20～40 代の女性、子どもと一緒に参加できるイベントに関心がある女性、または家族
成果目標	・団体や活動を初めて知る人を 3 割以上獲得。(来場者アンケートより) ・事業後も支援につながる雑貨購入をしたい人を 7 割以上獲得。(同上) ・新規来館者を夏、冬開催合わせて 200 人以上獲得。(同上。出口調査も参考)
成果	●市民活動を知る機会を提供でき、貢献型の関わりを持つ人材育成に寄与できた ・冬開催のアンケート項目「出展団体について初めて知ったこと」について、団体の支援につながることを初めて知ったのが 110 人中 52 人 (47.2%) だった。各分野についてもそれぞれ一定数獲得し、市民活動を知る機会を提供できた。 ・冬開催のアンケート項目「今後も支援につながる買い物をしたいか」について、110 人中 92 人 (83.6%) が「はい」と回答。団体との会話やステージイベントへの参加を通して、団体への貢献の必要性を示すことができた。 ・来場者は夏のべ 253 人、冬のべ 873 人 (いずれも 30 分おきにカウント) で、新規来館者数は夏冬合わせて 41 人 (アンケートより集計) だった。 ●ボランティア参加者の学びの場となった ・冬開催の当日ボランティア参加者の中には、興味関心のある分野の団体と関わり、学びを深めている人がいた他、その分野に対しての課題意識を感じた人がおり、各自学びを得たことがうかがえた。
次年度に向けた課題	・長年継続して実施している事業であるため、企画のマンネリ化が懸念される。来場者にとって楽しみながら市民活動に気軽に触れる機会とするため、さまざまな切り口での参加方法を模索することが重要になる。 ・数値では測りきれない、コミュニケーションによる成果等の表し方について検討し、市民に示していくことが必要である。

実施概況 (3) 人材育成 ①雑貨市

●たがさぼの七夕雑貨市

日 時：平成 30 年 7 月 22 日（日） 10:00～14:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301・302 会議室、
交流サロン

内 容：市民活動団体の雑貨・食品の販売、ワークショップ、
活動紹介展示、パフォーマンス

参加費：無料、出入自由

定 員：制限なし／参加人数のべ 253 人（30 分おきにカウント）

パフォーマンス：NPO 法人アートワークショップすんぷちよによるダンス
パフォーマンス

コスモスホール職員によるクラウンパフォーマンス

出展団体：10 団体

○障がい者支援・福祉

レインボー多賀城（社会福祉法人臥牛三敬会）／多賀城
特定非営利活動法人アートワークショップすんぷちよ／仙台
工房すぴか（NPO 法人煌の会）／仙台
エフブンノイチ／仙台

→コッペ（認定NPO 法人麦の会）、

アトリエ・ソキウス（NPO 法人ソキウスせんだい）、
みどり工房若林（NPO 法人みどり会）

テラグラッサ（株式会社ゼンシン）／名取

○社会教育

生涯学習 100 年構想実践委員会／多賀城

○国際交流・協力

本格遠赤焙煎珈琲まめ福／多賀城

○子育て・子ども支援

家庭文庫ちいさいおうち／多賀城



オープニングパフォーマンスの
様子



販売の様子



ワークショップの様子

●たがさぼのクリスマス雑貨市／ボランティア事前説明会

日 時：平成 30 年 11 月 25 日（日） 10:00～12:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301・302 会議室

対 象：学生、ボランティアに興味関心がある人

内 容：雑貨市の趣旨説明、当日のスケジュール説明、各活動内容
説明、役割ごとの打ち合わせ

参加人数：16 人（申し込み人数：40 人）

※UD トーク®による情報保障の取り組み実施



事前説明会の様子

●たがさぼのクリスマス雑貨市／出展団体 決起集会・交流会

日 時：平成 30 年 11 月 25 日（日） 13:30～15:30
 会 場：多賀城市民活動サポートセンター 301・302 会議室
 対 象：全出展団体
 内 容：雑貨市の趣旨説明、今後のスケジュール説明、団体同士の交流
 参加団体数：16 団体（出展団体数：31 団体）
 ※UD トーク®による情報保障の取り組み実施



団体紹介の様子

●市役所 1 階ロビー 展示

期 間：平成 30 年 11 月 22 日（木）～12 月 7 日（金）土日祝を除く
 会 場：多賀城市役所 1 階ロビー
 内 容：雑貨市の告知、出展団体・商品の紹介、展示について、市役所を訪れる市民に向けて実施した。



市役所 1 階ロビー展示の様子

●たがさぼのクリスマス雑貨市

日 時：平成 30 年 12 月 9 日（日） 10:30～14:30
 会 場：多賀城市民活動サポートセンター 全館
 内 容：市民活動団体の雑貨・食品の販売、ワークショップ、活動紹介展示、ステージイベント（トーク・体験）
 参加費：無料、出入自由
 定 員：制限なし／参加人数のべ 873 人（30 分おきにカウント）
 ステージ：※UD トーク®による情報保障の取り組み実施
 ○トークイベント
 「ウチの自慢の商品たち」
 登壇団体：マオメオ・キャットクラブ、アトリエ・ソキウス
 （NPO 法人ソキウスせんだい/エフブノイチ）
 ○体験イベント
 「おいしいお茶のいれ方講座」
 登壇団体：株式会社伊藤園
 「絵本と音楽のハーモニー」
 登壇団体：家庭文庫ちいさいうち、ライブを聴こう in 多賀城
 「LGBT 用語手話講座」
 登壇団体：ろう LGBT 東北
 出展団体：31 団体（1 団体辞退）◇：展示のみ…2 階ギャラリーでの展示
 ○障がい者支援・福祉
 コスモスホール（多賀城市地域活動支援センター）／多賀城



体験イベント（お茶）の様子



体験イベント（LGBT 手話）の様子



301・302 会議室の様子

デイケア R e - C U R E (こころのクリニックみどりの風) / 多賀城

非営利団体虹の橋 / 多賀城

◇パープル・アイリス / 多賀城

◇ココロのびのび★プラネット / 多賀城

さをりひろば余暇よか / 利府町

ポッケの森 (社会福祉法人ぼっけコミュニティーネットワーク) / 仙台

NPO 法人アートワークショップすんぷちょ / 仙台

エフブンノイチ / 仙台

→コッペ (認定 NPO 法人麦の会)、

アトリエ・ソキウス (NPO 法人ソキウスせんだい)、

みどり工房若林 (NPO 法人みどり会)、

マルベリー工房 (NPO 法人桑の木)

すまいる作業所 (NPO 法人コスモスクラブ / 仙台

一般社団法人はぴかむ / 仙台

○国際交流・協力

本格遠赤焙煎珈琲まめ福 / 多賀城

多賀城市国際交流協会・宮城県多賀城高等学校語学研究部 / 多賀城

特定非営利活動法人アマニ・ヤ・アフリカ / 仙台

アフリークソレイユ / 仙台

○子育て・子ども支援

家庭文庫ちいさいうち / 多賀城

宮城県学童保育ネットワーク / 県内全域

◇多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」 / 多賀城

○動物愛護

マオメオ・キャットクラブ / 仙台

○社会教育

生涯学習 100 年構想実践委員会 / 多賀城

多賀城イングリッシュ・サポーターズ / 多賀城

P C N 多賀城 / 多賀城

○文化振興

◇多賀城将棋ラボ / 多賀城

ライブを聴こう in 多賀城 / 多賀城 ※ステージ出演

○ジェンダー

ろう L G B T 東北 / 岩手

てんでん宮城 / 多賀城 ※協力団体

○環境

カワラバン / 仙台

○企業

株式会社伊藤園 / 全国 ※ステージ出演



2 階和室でのワークショップの様子



3 階交流サロンでのワークショップの様子



3 階会議室でのワークショップの様子



1 階エントランスでのボランティアの活動の様子

アンケート集計結果

●七夕雑貨市

【来場者】

アンケート回収枚数：19 枚

①新規来館者数：1 人（5.2%） ※来場者はのべ 253 人

②年 代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
2 人	1 人	3 人	12 人	1 人	0 人	0 人	0 人

・ターゲットであった 40 代の来場が多かった。

③社会支援活動する団体を知っていたか。

はい	いいえ	未記入
17 人	0 人	2 人

・雑貨市の主目的である「商品の購入やワークショップへの参加を通じて市民活動を知ってもらうこと」に当てはまる人は少なく、すでに団体を知っていたり、雑貨市の趣旨を理解して来場する人が多かった。

④特に印象に残ったこと ※複数回答可

商品購入 が支援に つながる こと	商品がつ くられた 経緯	国際協 力・フェア トレード	障がい者 支援・福祉	子ども	社会教育	その他
7 人	2 人	2 人	8 人	3 人	3 人	6 人

・その他記述：ダンスを踊ったこと、お茶席、団体と話をしたこと、さまざまな団体との交流を楽しむことができた。

⑤今後も支援につながる買い物をしたいか

はい	いいえ	未記入
18 人	0 人	1 人

・団体の活動に関して理解している来場者が多く、今後の購入意欲も高めであると考えられる。

⑤自由記述より

- ・クリスマス雑貨市と比べると、体験できるブースが多く、子どもと一緒に参加できた。
- ・たがさばダンスを取り入れたのが素晴らしかった。

【出展団体】

アンケート回収枚数：10 枚（全 10 団体）

①売上について

団体によりまちまちだが、数千円～3 万円で売り上げがあった。

②来場者との会話ややりとり

- ・事業所の概要について質問を受けた。活動のチラシを渡すことができた。
- ・利用者の手づくりであることや、売上げが利用者の工賃になることを話した。

③その他気づいたこと、感想

- ・他の団体と繋がる機会となった。情報共有ができ、参考になった。
- ・出展側も来場者も楽しいイベントになっていると思った。

●クリスマス雑貨市

【来場者】

アンケート回収枚数：110 枚（前年度 215 枚）

①新規来館者数：40 人（36%） ※来場者はのべ 873 人

1F ロビーの出口調査による新規来館者数：105／197 人（53.2%）

②年 代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
15 人	12 人	15 人	36 人	16 人	9 人	3 人

- ・ターゲットとした 20 代～40 代の参加が全体の 57.2%と半数を上回った。
- ・10 代以下の来場者も多いことから、ファミリー層が多かったと考えられる。

③出展団体について初めて知ったこと ※複数回答可

商品購入 が支援に つながる こと	商品がつ くられた 経緯	国際協 力・フェア トレード	障がい者 支援・福祉	文化振興	動物愛護	子ども	ジェンダ ー・L G B T	その他
52 人	17 人	22 人	31 人	5 人	9 人	14 人	4 人	1 人

- ・その他記述：母校の高校生がフェアトレード活動に取り組んでいること。
- ・「商品購入が支援につながる」が最も多く（52 件／47.2%）、次いで「障がい者・社会福祉の活動について」（31 件／28.1%）「国際協力・フェアトレードについて」（22 件／20%）となった。

④今後も支援につながる買い物をしたいか

はい	いいえ	未記入
92 人	0 人	18 人

- ・対面販売ということもあり、商品の魅力が来場者に伝わったと考えられる。

⑤自由記述より

- ・「子どもも大人も家族みんなで楽しめた」、「アットホームな感じでよかった。子供も大人も楽しめる感じでこれからも続けて欲しい」という感想が多く、年代問わず楽しめた。
- ・初めて開催したトーク・体験イベントの絵本の読み聞かせの感想も多くあり、課題となりつつあった企画のマンネリ化を防ぎ、楽しみながら団体や活動について知ってもらうことができた。

【出展団体】

アンケート回収枚数：27 枚（全 31 団体：出展 24 団体、展示 4 団体、ステージ 2 団体（内 1 団体は企業）、協力 1 団体）

①売上について

よい	いつもと同じくらい	よくなかった
5 団体	11 団体	6 団体

- ・今年度は来場者数が比較的控えめだったため、例年の雑貨市よりも売り上げが少なかったと答える団体もあった。その分、来場者とコミュニケーションを取る時間は増えたようだった。

②来場者との会話ややりとり

- ・「障がいのある人が手づくりしたものであると丁寧に説明ができ、また工賃につながることも説明ができた」、「来場者から話かけられることが多かったり、立ち止まってじっくり見てくれる人が多かった」、「混雑することもなかった」ので、いろいろお話することができた」との記述から、商品についての説明がじっくりできたと考えられる。

【ボランティア】

アンケート回収枚数：34 枚（参加申し込み 40 人、前日参加：7 人、当日参加：34 人）

①参加年代（属性）

学生（高校生～大学生）	社会人
33 人	1 人

- ・主な対象である学生に届くよう広報したため、参加者のほとんどが学生だった。

②出展団体について初めて知ったこと ※複数回答可

商品購入 が支援に つながる こと	商品がつ くられた 経緯	国際協 力・フェア トレード	障がい者 支援・福祉	文化振興	動物愛護	子ども	ジェンダ ー・L G B T	その他
9 人	4 人	7 人	11 人	4 人	3 人	9 人	6 人	1 人

- ・その他記述：障がい者の子どもを持つ親の社会的不自由さ。当事者の日々の困難・苦悩。活動分野だけでなく、当事者や当事者家族の内面にも目を向けた参加者もいた。
- ・「商品購入が支援につながる」の回答が多かったのは、ボランティア用に会場内で使用可能なチケットを準備し、団体商品の購入を促したためと考えられる。

③感想・気づいたこと

- ・多賀城市内でこのようなイベントが開かれていたことを知らなかった。
- ・「たくさんの人と関わることができ楽しく、よい経験になった」、「色んな人がいて色々な考えがある事を学んだ」など、出展団体、来場者との交流ができていたことがうかがえる。

* 添付資料 □チラシ（七夕、クリスマス） □七夕雑貨市アンケート、□クリスマス雑貨市当日配布資料

(3) 人材育成 ②NPOきっかけ塾

目的	多様な市民にそれぞれに合った形で市民活動にふれる機会をつくることで、市民活動に対する理解を促進させ、活動に関わるきっかけを創出する。
背景	・これまで「NPOいちから塾」の実施や、市民活動に興味・関心が無い方を対象としたテーマ別の講座を開催することで、市民活動に関わる機会を創出してきた。昨年度は参加者の中から、課題解決につながる次のアクションを起こした人材が生まれた。初めて企画したボランティアをテーマとした学生向けの講座では、近隣市町の高校や県内の大学との関係を構築することができた。雑貨市ボランティアへの参加につながり、学生が市民活動に関わるきっかけとなったことから、引き続き今年も学生対象に講座を企画した。 ・昨年度は参加者への個別アプローチが活動に繋がったので引き続き行う。 ・昨年度は出前講座でNPO法人ハーベスト主催のキャリアセミナーのプログラムを活用。多賀城高校で講座を実施した。
対象	・地域のために何か始めたいと思っている方。 ・テーマには関心があるが、市民活動には関わりがない方。 ・すでに活動はしているが、市民活動やボランティアの理解が不足している方やさらに活動を広げていきたいと考えている方。 ・社会貢献の視点を持った人材を育成したいと思っている企業や学校。 ・自分たちのスキルを地域に還元したいと考えている生涯学習団体や町内会などの地縁団体。
成果目標	市民活動の理解を深め自身の関心ごとに気付き課題解決を担う人材が5名以上生まれる。
成果	・3回の講座全体で実際に行動を起こした参加者は10名。(ボランティアへの参加を含む) 関心事に気付き活動のイメージを持った参加者1名。 ・いちから塾の4人の参加者がTFLに参加。既活動者の話を聞くことで自身の活動を始めるきっかけとなったり、活動のイメージを持つことができた。 ・「ひろってハッピー！ごみひろいできれいなまちを」では、参加者同士でごみ拾い活動に参加した方や職場でごみ拾いの企画をした方が1名ずつ。 ・「やってみようボランティア！」では5名の参加者が雑貨市ボランティアに参加した。
次年度に向けた課題	・毎回参加者が集まりにくい傾向があるので、ニーズに合わせた対象設定、テーマ設定を行っていく必要がある。 ・リピーターではなく、初めて来館する人を増やしたい。 ・今後は他セクターに対しても地域づくりへの理解を深めていく必要がある。昨年度実施した地元企業のCSR調査事業でできたつながりを活かしたアプローチを進めていく。企業へのアンケート調査から見えた、企業の関心が高い活動を手助けする講座や企業が求めるテーマに応じた講座を実施する。また、社員のNPOに対する理解と地域とのつながりを深めるような講座を実施する。

実施概況 (3) 人材育成 ②NPOきっかけ塾

●NPOいちから塾

日 時：平成 30 年 6 月 10 日（日） 10:00～12:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

参加人数：7 名

①開始あいさつ

②NPOいちから塾

- ・ NPO の成り立ちやその仕組み
- ・ NPO とボランティアの違い

③たがさぼガイドツアー

- ・ たがさぼの活用方法を紹介

④ワーク

- ・ あなたの興味関心はどこに？チラシを用いたワーク

⑤交流タイム

- ・ 参加者同士の交流を通して想いを共有しよう

⑥質問、まとめ、アンケート

●テーマ別きっかけ塾について

NPO の基礎を学び、対象に合わせたワークを実施。（自分自身を見つめなおし、自分にできること、好きなことをボランティアや地域に活かすポイントを探すワーク）

第 1 回「ひろってハッピー！ごみひろいできれいなまちを」

目 的：・参加者が既活動者の想い、事例や地域との関わり方を
知ること、「ゴミ拾い」を通して地域を愛する気持ち
を持てるようになること。

- ・参加者が「ゴミ拾い」で身近な地域をきれいにすること
で、住みよい多賀城のまちづくりについて積極的に
考え、行動するようになること。

対 象：・仕事以外でボランティアの機会を作りたい方

- ・ゴミ拾い等の清掃活動について日頃気になっている
がなかなか行動に移せない方

日 時：平成 30 年 10 月 11 日（木） 19:00～21:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

参加人数：12 名

ゲスト：SEVEN BEACH PROJECT 実行委員長 久保田靖朗氏

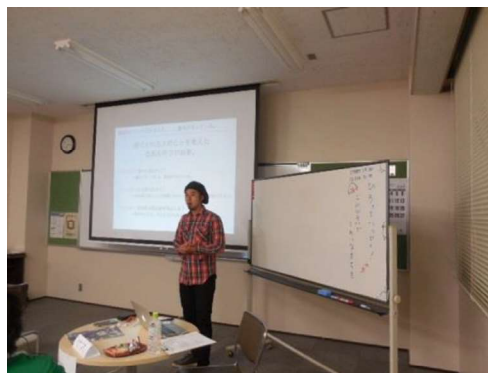
内 容：「ゴミ拾い」に取り組む団体やその活動について知り、
ゲストから活動のきっかけや想いを聞く。住んでいる場
所の近くで気になる場所、好きな場所をあげ、その場所
をきれいにするアイデアや起こすべき行動や取り組
みを考えるワークを実施。



ゲストも一緒に。フリースタイルタイム。



ガイドツアーでチラシチェック



活動の熱い想いを語るゲストの久保田氏



いろいろアイデアが生まれた

第 2 回「やってみようボランティア！」私の身近でできること

目 的：・参加者がボランティアの事例を知ることで、「自分にもできそう」という気持ちを持てるようになり、ボランティアや市民活動を始めるきっかけを生む。

・学生同士がつながりを持ち、今後活動を始めるための関係性を生む。

対 象：ボランティアに興味、関心がある高校生、大学生、専門学校生。将来やってみたい「何か」を探している、やってみたいがきっかけがつかめない学生。

日 時：平成 30 年 11 月 11 日（日） 13:00～15:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター2F フリースペース

参加人数：10 名

ゲスト：東北学院大学災害ボランティアステーション 立花亮人さん（東北学院大学法学部法律学科 4 年生）

多賀城市ジュニアリーダーエステバン OB 佐藤諒さん（専門学校 2 年生）

内 容：ゲストからボランティア体験談を聞く。

自分の好きな事、できる事を探し、どんなことに活かせるか気付くきっかけとなるワークを実施。

●出前いちから塾について

・「社会人講話」

日 時：平成 30 年 11 月 20 日（火）13:30～15:40

会 場：宮城県多賀城高等学校

参加人数：1 年生 37 名（小橋/25 名、渡辺/12 名）

講 師：スタッフ小橋、渡辺

テーマ：小橋「きみの価値観が道しるべになる」

渡辺「NPOで働くということ」

主 催：認定特定非営利活動法人ハーベスト

※地域の大人が若者への自らの生き方・働き方を語るることにより、若者自身が主体的に生き方を考えるきっかけをつくる場として実施しているセミナー



ゲストの立花さんから体験談を聞く



ゲストの佐藤さんを交えてワーク



NPOで働くことの面白さについて語る



たくさんの生徒が興味を持って聞いています

・「総合的な学習の時間」

日 時：平成 30 年 12 月 19 日（水）

11:30～12:15（4 時間目）

会 場：多賀城市立多賀城第二中学校

参加人数：1 年生 131 名

テーマ：「多賀城の魅力を再発見！～ここがおススメ！」

多賀城で活動する団体と、T S C の紹介を行った。



多賀城で活動している団体の紹介

アンケート集計結果

1. NPO いちから塾 参加者 7 名

①年代

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～
0 人	1 人	3 人	2 人	1 人	0 人

・比較的若い世代からの参加があり、これからやりたい事を整理することへの意欲を感じた。

②男女別（アンケートの他申込書から集計）

男性	女性	合計
1 人	6 人	7 人

③住所（アンケートの他申込書から集計）

多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	利府町	仙台市	その他
6 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人

・多賀城市内からの参加者が多く、多賀城で活動を始めることが期待できる。

④この講座をどこで知ったか

個別勧誘	チラシ	HP、SNS	情報誌「tag」	新聞	知人から	その他
3 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人

・団体の立ち上げについて相談に来館した方への声かけが参加につながった。

⑤講座理解度（理解度を計ったのは 1 回目のみ）

理解度 5	理解度 4	理解度 3	理解度 2	理解度 1	未記入	平均
6 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	4.8

・講師の話が分かりやすかったことが高い評価につながった。

⑥感想など

- ・ NPO と NPO 法人で違いがあること。
- ・ 課題と目的を明確にすること。
- ・ 営利・非営利の違いがわかって良かった。
- ・ NPO について改めて知ることができました。実際に活動している団体を例にして説明いただいたので、分かりやすかったです。参加者のみなさんの話も勉強になりました。
- ・ 他の参加者の話を聞いて良かった。
- ・ 多賀城市内の課題とニーズを知る必要を感じた。

2. 「ひろってハッピー！ごみ拾いできれいなまちを」 参加者 12 名

①年代

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～
0 人	1 人	4 人	2 人	2 人	3 人

- ・ 実際に活動している方の参加があったこと、ゲストの話に興味がある方など幅広い年代の参加があった。

②男女別（アンケートの他申込書から集計）

男性	女性
5 人	7 人

- ・ 男女に限定したテーマではなかったため男女比はほぼ同じになった。

③住所（アンケートの他申込書から集計）

多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	利府町	仙台市	その他
6 人	1 人	1 人	1 人	3 人	0 人

- ・ 多賀城市内の方の参加が最も多かったが、ゲストの活動地域である七ヶ浜町からの参加者もあった。

④この講座をどこで知ったか

個別勧誘	チラシ	HP、SNS	情報誌「tag」	新聞	知人から	その他
6 人	2 人	2 人	0 人	0 人	1 人	1 人

- ・ TSR 事業でつながった企業の方、ゲストがアサモンカフェで講話したことがきっかけとなり（TSC スタッフも参加していたので）スタッフの個別勧誘による参加者が多かった。

⑤感想など

- ・ 改めて今やっている活動を続けていこうと思いました。
- ・ ゲストのお話が聞いて良かったです。ゲストの活動に参加してみたいと思いました。
- ・ 地域住民ひとりひとりが、意識的に取り組むことが大切だと思った。
- ・ 地域の草刈りを定期的に“楽しく”やりたいと思いました。

3. 「やってみようボランティア！」わたしの身近でできること 参加者 10 名

①学年

高校 1 年	高校 2 年	高校 3 年	大学 1 年	大学 2 年	大学 3 年	大学 4 年	その他
7 人	0 人	0 人	2 人	0 人	1 人	0 人	0 人

- ・高校生においてはボランティア活動をしている部活の顧問の先生からの声かけによる参加が多かった。

②男女別（アンケートの他申込書から集計）

男性	女性
5 人	5 人

③住所（申込書から集計）

多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	利府町	仙台市	その他
5 人	2 人	1 人	0 人	2 人	0 人

- ・住所は上記の表の通りだが、参加者が所属している学校（高校）は多賀城市内及び塩釜市

④この講座をどこで知ったか

個別勧誘	チラシ	HP、SNS	情報誌「tag」	新聞	知人から	学校の先生から	その他
1 人	1 人	0 人	1 人	0 人	2 人	5 人	0 人

- ・学校の部活の顧問の先生からの声かけによる参加が最も多かった。

⑤感想など

- ・普段聞くことのできないボランティアの話を聞けて、大変勉強になりました。自分もやってみたいと興味をひかれた部分がありました。
- ・ボランティアというものをあまり知らなかったが、今回の講座でよく知れたと思います。機会があれば自ら進んで参加したい。
- ・ボランティアって楽しいんだ、と思いました。
- ・ボランティアを行うことによって仕事などに活かすことができたり、自分の人との関係の輪を広げるのに役立つことが分かった。
- ・ボランティアに対して持っていたイメージが変わりました。

4. 社会人講話

理解度は計っていない。感想のみ。

○感想など

- ・将来の夢に「ボランティア」を入れてもいいと思った。
- ・したいと思った事は行動するべきだと思った。失敗とか考えず行動することが大切だと感じた。
- ・自分の考え方をしっかり持って、相手の意見に流されないことに気がきました。

- ・誰かのための活動ってとっても楽しいんだと伝わってきました。「人生いつでも勉強」という言葉が強く印象に残っています。
- ・NPOといっても様々な事に対応していて身近にあるけどすごい団体だと思った。人生のある経験が未来へとつながっているかもしれないということを実感したので、1日1日のいろいろなことを大切に過ごしていきたいと思った。
- ・自分の限界を勝手に決めないで色々なことにチャレンジしていくことを忘れない。

* 添付資料

☐ チラシ

☐ 当日配布資料

(3) 人材育成 ③TAGAJ0 Future Labo

目的	●「何かしたい！」想いを持つ受講生が、実現までの道筋やプランを考える。 ・何をすればよいか分からないという人に「やれること」を追求してもらう。 ・スキルを持つ人がそれを地域や社会で活かせる方法を探る。 ・受講生相互に刺激し支え合う環境をつくることで、想いの実現性を高める。 ●受講生、OB及び地域の既活動者のネットワーク構築を通して、多賀城やその周辺地域の市民活動の一層の活性化を目指すとともに、その想いや活動を多くの市民に知ってもらい、活動の受け入れやサポートをできる土壌を育む。 ●上記を達成することで自らの想いや考えをかたちにし、市民主体の地域づくりに取り組む人材を育てていく。
背景	●過去3年の実践から、受講生の「何かしたい！」「自分のスキルを地域で活かしたい！」という想いを引き出すことでアクションにつながった事例が複数あり、TF Lのプログラムは総じて効果的であったと考える。それとともに、受講生同士、あるいはOB・ゲストとのつながりを活用して合同の企画を開催するケースも出てきている。 ●これらから、今年度も基本的にはこれまでのプログラムを継承する。その上で受講生の想いや考えに対して他の受講生やゲスト・アドバイザーが励ましやアドバイスをする機会を増やし、想いをかたちにするサポートを行っていく。また、TF L関係者コミュニティによる、想いの後押しや取り組みへの相互協力など、多賀城に合った、活動をはじめめるためのスタイルをつくり出していく。
対象	・「何かをしたい！」と思っているが、その「何か」がまだ定まっていない方。 ・やりたいことは見えているが、具体的な実現の方法が分からないという方。 ・地域をより良くするため、自分自身が何とかしたいと考えている方。
成果目標	・受講生の半数が発表会で地域の人たちに想いを発信する。 ・受講生の中の1割が自分の想いを達成するため、活動を継続する。 ・受講生同士及びOB、ゲスト・アドバイザーとのつながりが講座後も何らかの形で続いている。
成果	・受講生8名中、6名がマイアプローチ発表会で想いやプランを発表できた。また、1名は欠席だったものの提出資料をスタッフが代読するかたちで想いを知ってもらうことができた。 ・受講生8名中、7名が何らかの形でアクションを継続中。 ・受講生同士や受講生とOBのコラボレーション企画も生まれた。 ・スペシャルトークや発表会の一般聴講参加者が、活動に関する相談で来館したり、活動をバージョンアップさせるべく新たな行動を起こす場面も出てきた。
次年度に向けた課題	・基本的なプログラムは継続だが、関心はあるがこれまで参加の条件が整わなかった市民に参加してもらうために、開催日や時間等は引き続き検討していく。 ・受講生・OBのフォローを継続しながら、多賀城オリジナルの活動サイクルの構築に取り組んでいく。

実施概況 (3) 人材育成 ③TAGAJO Future Labo

●講座タイトル

TAGAJO Future Labo 4th season ～多賀城未来実験室～（全 6 回連続講座）

●実施概要

本事業は、平成 30 年度で 4 年目となる継続事業である。これまで同様、連続講座（今年度は 6 回）を通して、受講生の「何かしたい」「自分の特技を地域で活かしたい」などの想いをふくらませ、やりたいことを形にしていく。また、受講生同士及びＯＢや既活動者との交流を通して、「何かやりたい・やっている」人たちのつながりを強める。

具体的な内容は以下のとおり。

○講座の内容：下記の要素を、各回の講座に盛り込んでプログラムを組んだ。

- ・オリジナルのワークシートを用いた【想いを整理するワークショップ】
- ・既活動者の元に足を運び、現場の臨場感を受けながら活動の話を伺う【エクスカージョン（体験型見学）】
- ・既活動者から、自らの活動を含めたさまざまな事例・取り組みを伺う【ゲストトーク】
- ・さまざまな意見をもらい、想いを更に整理しながら、受講生同士で共感を得るための【ディスカッション】
- ・受講生の想いや考えを広く発信し、人や地域との新たなつながりをつくるための【マイアプローチ発表会】

○プログラムアドバイザー：

津川登昭さん（一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ 代表理事）

全 6 回の講座にて、受講生の想いや考え、プランを外部の目で見えてアドバイスをいただくとともに、自らの経験に基づいて想いのふくらませ方、プランの立て方、共感を得るプレゼンづくりなどについてもお話をいただいた。

○参加費：無料

○受講生：8 名（定員 10 名）

※その他、申し込みはしたが、日程の関係で参加できず辞退した方が 3 名いた。



受講生募集のチラシ

●各回の講座概要

○第 1 回「想いを整理するワークショップ&受講生同士のディスカッション」

- ・日 時：平成 30 年 7 月 1 日（日）10:00～15:00 ※昼食会をはさむ
- ・会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室
- ・ゲスト：津川登昭さん

（一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ 代表理事）

- ・参 加：受講生 7 名

・プログラム：

①ゲストトーク（津川さん）

ご自身の取り組みについて

②想いを整理するワークショップ

- ・「想いを整理するワークシート」への記入。（個人ワーク）
- ・インタビュー及びディスカッション。（グループワーク）

③全体ディスカッション（自己紹介、想いや考えの発表と質疑）

- ・記入したワークシートをもとに、現時点の想いを発表した。
- ・発表を通して、受講生同士およびアドバイザー、TSC スタッフが受講生を知る機会とした。



アドバイザーの津川さん



グループワークの様子

○第 2 回「OB・OGの話を聞こう」

- ・日 時：平成 30 年 8 月 5 日（日）13:00～15:30
- ・会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室
- ・参 加：受講生 8 名、OB 2 名
- ・プログラム：
 - ①アドバイザーのミニ講座
「共感のネットワークづくり」「活動の形態と段階」
 - ②OB トーク；T F L 受講時のこと、現在の取り組みについて
 - ・小畑恒子さん（T F L 2 期生）
 - ・渋谷千賀子さん（T F L 3 期生）
 - ③ディスカッション
 - ・今回初参加の方…ワークシートを元に想いや考えを発表した。
 - ・前回も参加した方…それ以降のアクションや近況を報告した。
 - ④課題ワークシート（Vol. 2）についての説明



OB の小畑さん（中央）



OB の渋谷さん（右）

○第 3 回「スペシャルトーク&ディスカッション」

■スペシャルトーク「新・地域づくりの方程式 自分× x ×地域＝未来」

- ・日 時：平成 30 年 9 月 2 日（日）10:00～12:00
- ・会 場：山王地区公民館（多賀城市）
- ・ゲスト：尾野寛明さん
（有限会社エコカレッジ 代表取締役／伊達ルネッサンス塾 塾長）
- ・参 加：受講生 6 名、OB 2 名、一般参加 19 名
- ・プログラム：
 - ①ゲストトーク（尾野さん）
 - ②ワークショップ
 - ・参加者それぞれの思いつく地域資源を可視化した。
 - ・自分または他の参加者の書いた資源を見比べて、掛け合わせして取り組めそうなことを考えた。



スペシャルトークのチラシ



ゲストの尾野さん

■ディスカッション

- ・日 時：平成 30 年 9 月 2 日（日）13:00～15:30
- ・会 場：山王地区公民館（多賀城市）
- ・ゲスト：尾野寛明さん
（有限会社エコカレッジ 代表取締役／伊達ルネッサンス塾 塾長）
- ・参 加：受講生 4 名
- ・主な内容：
 - ①ディスカッション
 - ・課題のワークシートをもとに、自分の想いや考え、プランを発表し、ゲスト、アドバイザーからアドバイスをいただいた。



ワークショップの様子

○第 4 回「一歩先行く地域のパイオニアへエクスカージョン」

- ・日 時：平成 30 年 10 月 8 日（月・祝）13:00～16:00
- ・会 場：Studio Feel、花薫る喫茶処 蕾（ともに塩釜市）
- ・ゲスト：保坂絵梨子さん（Studio Feel）
羽生裕二さん（花薫る喫茶処 蕾）
- ・参 加：受講生 6 名
- ・プログラム：
 - ①ゲストトーク（保坂さん、羽生さん）
活動をはじめたきっかけや、現在の取り組みについて
 - ②ディスカッション
 - ・ゲストトークの感想の共有、質疑。
 - ・受講生それぞれが、最近起こしたアクションについて発表した。
 - ③次回に向けた課題（発表原稿の仮作成）の説明



ゲストの保坂さん



ゲストの羽生さん

○第 5 回「自分の想いをまとめて、発表会への準備」

- ・日 時：平成 30 年 11 月 4 日（日）13:30～16:30
- ・会 場：市民活動サポートセンター 101 会議室
- ・ゲスト：石塚亜紀子さん（パープル・アイリス／T F L 1 期生）
- ・参 加：受講生 7 名、O B 1 名
- ・プログラム：
 - ①ゲストトーク（石塚さん）
T F L 受講時のこと、現在までの取り組みについて
 - ②アドバイザーのミニ講座「プレゼンテーションについて」
 - ③受講生の発表
 - ・課題として、3 分で自分の想いや考え、取り組みたいことを話す原稿をつくってきて、発表した。
 - ・その後、アドバイザーから内容及び発表のしかたに関してアドバイスをいただいた。
 - ④発表会についての説明



ゲストの石塚さん



受講生の発表の様子



津川さんからのアドバイス

○第 6 回「マイアプローチ発表会」

- ・日 時：平成 30 年 12 月 2 日（日）13:00～16:00
- ・会 場：市民活動サポートセンター 大会議室
- ・ゲスト：渡辺一馬さん（一般社団法人ワカツク 代表理事）
- ・参 加：受講生 6 名、OB 3 名、一般聴講 31 名
- ・発 表：6 名（その他、欠席だったが事前に資料を提出した受講生 1 名）
- ・プログラム：

①ゲストトーク（渡辺さん）；活動を始めたきっかけ、現在の団体の取り組みについて

②受講生のマイアプローチ発表

- ・発表時間は 5 分。
- ・当日欠席で事前に資料を提出した受講生の発表は、TSC スタッフが代理で行った。
- ・受講生それぞれの発表に対し、ゲストからコメントをいただいた。
- ・一般聴講参加者はコメントシートに感想や励まし、アドバイスを記入し、受講生に手渡した。

③受講生とのおしゃべりタイム

- ・受講生一人に対して一般聴講参加者数名でグループを形成し、発表の感想や今後の取り組みについてのアイディア出しなどを行った。

④ゲストとプログラムアドバイザーからの総評

⑤交流会

- ・発表会に参加した皆さんが、交流や情報交換を行った。
- ・軽食として、今回も TFL2 期生の長牛知可子さんが立ち上げた「RIKKA MARKET」のお菓子を出した。



発表会のチラシ



会場の様子



ゲストの渡辺さん



受講生の「マイアプローチ」発表



おしゃべりタイムの様子

●受講生の「マイアプローチ」（取り組みたいこと） タイトルと概要

- ・「外出支援サービス“おでかけヘルパー”」…高齢者や障がい者の外出の機会をつくり生活に楽しさをもたらしたい。
- ・「ワン・にゃんフェスタ」…ペットを飼っている人、飼いたい人、そしてペットが楽しめるイベントを行いたい。
- ・「ありのままの笑顔を」…とあるきっかけで出会い、取り組んできた「ボディトーク」をどう活かしていくか。
- ・「ベリーダンスでできた場を応援したい！」…講師として関わったサークルを、さらに充実したものになりたい。
- ・「香害を知ろう！」…まずは「化学物質過敏症」を知り、その上で暮らしやすくなるために必要なこととは。
- ・「津波に耐えた 700 歳のカヤの木を守るぞ！～居場所を求める男たち～」

…地域のシンボルであるカヤの木を守るために、地域の男たちが立ち上がった。

- ・「子育てママのコミュニティ支援団体“ゆるっとままのわ”」…ママたちがゆったり過ごせる場をつくりたい。

アンケート集計結果

○「TAGAJ0 Future Labo 4th season」受講者（8 名）の傾向

◆性 別

男 性	女 性	合 計
2 人	6 人	8 人

・例年と変わらず、女性の受講生の割合が高かった。

◆年 代

30 代	40 代	50 代	60 代
2 人	4 人	1 人	1 人

・今年度の特徴として、30 代・40 代の女性が多かったことがある。なお、50 代・60 代はともに男性である。

◆住 所

多賀城市	七ヶ浜町	塩釜市	仙台市	名取市
2 人	1 人	1 人	3 人	1 人

・多賀城市在住の受講生の割合は高くはないが、他の市町在住者が多賀城で活動しているケースも多くあった。

◆講座開始時点での地域での活動状況

活動している	活動したことがない
5 人	3 人

・今年度もすでに何らかの活動に取り組んでいる受講生が多かったが、活動をはじめて間もない方、他地域で活動していて新たに多賀城で活動をはじめたいという方もいた。

◆講座への出席状況

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回
7 人	8 人	6 人	6 人	7 人	6 人（+1 人）

・今年度は、例年以上に出席率が高かった。すべての回に参加した受講生は 1 名。

・第 6 回の「マイアプローチ発表会」では出席した 6 名の受講生が直接発表した。また、当日欠席の受講生 1 名が事前に資料を提出し、T S C スタッフが資料を代読する形で発表を行った。

◆講座終了後のアンケートより

○講座全体を通して、自分の考えや想いを少しでも整理することができましたか？

5（できた）	4	3	2	1（できなかった）	平均
5 名	2 名	0 名	1 名	0 名	4.4

○受講しての感想（抜粋）

- ・地域の問題、身近に感じる事、起きていることがこんなにいっぱいあるとは思ってなくて驚きの連続でした。
- ・毎回新しい発見と気づきがあり、どのように進めていくかが見えた貴重な機会となりました。友人にもおすすめしたいと思います。
- ・漠然としていた考えが整理でき、何がしたいのか、どのような具体的な行動が必要なのかが分かって良かった。
- ・自分の想いが発表できるまでにまとまったのはびっくりです。腰の重い私にとっては大変ありがたいです。もっと多くの人にこのような講座があることを知ってもらえたらいいですね。
- ・受講生、アドバイザーの津川さん、T S C スタッフのみなさんとの出会いはとても貴重でした。
- ・これからもお世話になりますのでよろしくお願いいたします！！

○第 3 回「スペシャルトーク」参加者の傾向 ※T F L 受講生、O B、一般聴講者計 27 名中アンケート回収 23 名

◆年 代

30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	無記入
8 人	8 人	2 人	2 人	1 人	2 人

- ・30～40 代の参加者が多くなっている傾向が見られる。

◆満足度（5 段階評価）

5（満足）	4	3	2	1（不満）	平均	無記入
12 人	9 人	0 人	0 人	0 人	4.6	2 人

- ・アンケートを提出いただいた、ほとんどの方から満足であるとの評価をいただいた。

◆参加しての感想（抜粋）

- ・すべての話も考え方も思いもやりたいこともしていることも、200%同感でした。「地域」の活動をする時に、「福祉」は敬遠されているように感じていたので、他分野の方に「福祉」の部分の話も聞いてもらえたとし、中心に地域があって、そのまわりの多分野の中に福祉があるというのを聞いてもらえてよかったと思います。
- ・起業のいない地域づくりについて、町内会役員などやらなきゃー！市が助成してー！って言っている方々に聞いてもらえるといいですね。
- ・異業種「A×B」の掛け合わせのおもしろいケースが聞けて良かったです。
- ・「A×B」の無理せず支え合う社会づくりの話、参考になりました。第一歩が大事ではないかと思います。
- ・地域のイベントへの参考にしたいと思います。ワークショップはもう少し時間がほしかったです。

○第 6 回「マイアプローチ発表会」一般聴講参加者の傾向 ※聴講参加者（O B 含む）34 名中アンケート回収 25 名

◆年 代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	無記入
2 人	6 人	8 人	3 人	3 人	1 人	2 人

- ・30～40 代の参加者が多くなっている傾向が見られる。

◆満足度（5 段階評価）

5（満足）	4	3	2	1（不満）	平均	無記入
13 人	4 人	5 人	0 人	0 人	4.4	3 人

- ・アンケートを提出いただいた、ほとんどの方から満足であるとの評価をいただいた。

◆参加しての感想（抜粋）

- ・地域・社会のために何かをしたいという思いをもった方の発表を聞くことができて大変有意義な会でした。今後もさまざまな方と交流する機会を増やしていきたいです。
- ・この取り組みの最大の価値はこの発表会における仲間集めにあるのかと思いました。
- ・大変興味深く、発表者の熱意を感じることができました。
- ・ひとりひとりが「前例」をつくる必要性を実感した次第です。
- ・ゲストの方のお話も大変参考になりました。発表者の皆さんの今後の活動が楽しみです。
- ・とてもよい刺激を頂きました。素敵な活動に関わらせていただきありがとうございました。
- ・みなさんのやりたい気持ちが伝わってきて私も何かはじめたい気持ちになりました。（それを見つけることからですが…）ありがとうございました。

* 添付資料

□チラシ

□各回当日配付資料

(4) 情報発信強化 ①月間フリーペーパー「tag」発行

目的	・より多くの市民が市民活動に関わるきっかけをつくる。 ・地域の取り組みを発信・蓄積することで、地域で活動する新たな人材・連携先の発掘を目指す。 ・企業、自治会・町内会、学校などの市民活動団体以外の地域づくりの取り組みや連携事例をモデルとして発信することで、これらの団体が地域づくりに関わるきっかけをつくる。
背景	・平成 25 年 1 月から発行してきた tag は、地域づくりに関するフリーペーパーとして定着を図りながら、状況の変化に応じてさまざまな視点を取り入れてきた。多賀城の人材や市内外の活動についての掲載を継続しつつ、地域や社会の現状をデータやグラフを用いて伝えたり（平成 27 年度～）、企業による C S R の事例も掲載（平成 29 年度～）してきた。 ・地域の魅力アップや課題解決のためには N P O だけでなく、他のセクター（企業・行政・学校等）の力も必要である。昨年度は、市民に C S R の情報を届けるとともに、企業に地域づくりの取り組みに関心を持ってもらうことができた。本年度も継続して、事業や相談対応で得た情報や関係性をもとに、N P O に限らない地域づくり情報、セクター同士の連携事例を発信していく。 ・こうした多様な人たちへ向けて多様な地域づくりの情報を届けることによって、地域づくりに関わる人材・資源を増やしていく。
対象	・無関心層（市民活動に対し興味・関心を持たない市民） ・潜在層（何か活動をはじめたいと考えているが、きっかけがつかめない市民） ・地域づくりに関心のある企業、新たな取り組みをはじめたい自治会・町内会、地域とさらに接点を深めたい学校
成果目標	tag を通して、T S C 事業への参加や市民活動相談、団体の活動に参加する、自身で活動を起こすといった何らかのアクションを起こす市民（あるいは団体）、または団体同士の連携例を計 15 件生み出す。【随時聞き取りで把握】
成果	●団体の情報発信支援 ・tag に記事が掲載された団体のいくつかからは、広報の媒体として使っているとの話があるなど、団体 P R の支援としての効果がある。 ・地域の方から tag を見て団体について詳しく知ったというお話をいただいた。 ●連携の促進 ・tag を通して団体が図書館で企画を行うこととなり、連携事例が 1 件生まれた。 ・N P O に限らず、町内会や企業、団体同士の連携の紹介もでき、広く地域づくりの情報紙となった。
次年度に向けた課題	・T S C で把握できた市民のアクションはなかった。内容や配架先を工夫する。 ・tag を手に取ったり目にする機会をさらに増やすことで、より多くの市民に市民活動について知る機会を増やしたい。そのために、他媒体（ウェブ、S N S など）との連動、配架先の開拓、記事テーマ選定の工夫等を行う。

実施概況 (4) 情報発信強化 ①月刊フリーペーパー「tag」発行

●発行形態

- ・様式 : A4×1 枚 全 2 ページ 両面カラー
- ・発行頻度 : 月 1 回 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)
- ・発行部数 : 2,000 部
- ・誌面デザイン、印刷は外注。
- ・64 号 (平成 30 年 4 月号) より、誌面をリニューアルした。

●内 容 (各号の詳細は別項を参照)

- ・多賀城の人・できごと・ものなどの地域資源を紹介。
- ・地域づくりや課題解決に取り組む団体を紹介。
- ・市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介。
- ・市民活動に T S C スタッフが参加し、その体験を紹介。
- ・多賀城を中心とした地域の N P O によるイベント・講座を紹介。
- ・T S C のブログ記事を簡単に紹介。
- ・T S C のサービスやイベント・講座などを紹介。

●配架先 (月別部数及び配架箇所数は別項を参照)

- ・多賀城市内及び周辺市町公共施設
- ・多賀城市内民間施設 (病院、福祉施設等)
- ・多賀城市内民間店舗 (スーパー、コンビニ、銀行、飲食店等)
- ・マスコミ
- ・多賀城市内外のイベント出展時に配布
- ・県内外 N P O 支援センター

●その他

○今年度は、「広報多賀城」の 3 回シリーズ特集記事「私たちが暮らす地域の未来を考えよう」に連動した記事を掲載した。

- ・tag 68 号 (平成 30 年 8 月号) —第 1 回「多賀城の自治会・町内会を考える」(「広報多賀城」平成 30 年 8 月号)
- ・tag 70 号 (平成 30 年 10 月号) —第 2 回「アンケート結果からみる、市内自治会の現状」
(「広報多賀城」平成 30 年 11 月号)
- ・tag 74 号 (平成 31 年 2 月号) —第 3 回「自治会の連携と一人ひとりの地域との関わり」
(「広報多賀城」平成 31 年 3 月号)

●各号の掲載内容

号数／発行日	内 容（目次）
64 号／平成 30 年 4 月 15 日	P 1 ○発見！ おしゃれスポットが意外な場所に！！ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・地域の大人も活躍する「校内居場所カフェ」 ・NPO法人の運営に役立つノート ・データで見る多賀城～気になる数：空き家編～ ○たがさぼからのお知らせ ・たがさぼのホームページが新しくなりました！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと～「たがじょうのミライ」に向けて①～ ・世代を超えたつながりづくりがもたらすもの
65 号／5 月 15 日	P 1 ○若い世代に多賀城を知ってほしい！ 高校生たちの一年の軌跡 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・ZINE（ジン）で発信！「まちの“楽しい”」 ・社会貢献をはじめたい方に「NPO運営のイロハ」 ・医療福祉エンターテインメント「Ubdone」 ○たがさぼからのお知らせ ・NPOいちから塾 参加者募集 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと～「たがじょうのミライ」に向けて②～ ・市民それぞれの小さな積み重ねが、まちをおもしろく
66 号／6 月 15 日	P 1 ○たがさぼ開館 10 周年記念イベント うれしい・たのしいから見つける未来のカギ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「まちのワクワク」のタネ、見つけましたか？ ・盛況御礼！＊たがさぼのクリスマス雑貨市 ・ブックレビュー「あそびの生まれる場所」 ○たがさぼからのお知らせ ・TAGAJ0 Future Labo 受講生募集！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・年表とエピソードでふりかえる「たがさぼストーリー」
67 号／7 月 15 日	P 1 ○となりの友達を理解することからはじまる国際交流 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・ESG投資とは ・人が集まる、まちの中の本のあるスペース・イベント ・マスキングテープで点字の理解を広げよう ○たがさぼからのお知らせ ・「たがさぼ文庫」新着図書のご案内 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと～「たがじょうのミライ」に向けて③～ ・一人ひとりを認めることが「やさしいまち」の第一歩

号数／発行日	内 容（目次）
68 号／8 月 15 日 	P 1 ○地域の顔が見える夏祭りの風景 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・夏祭りのネタを探している方へ。 他地区ではこんなことをしています。 ・町内会の夏祭りに行ってきました 2018 顔の見える地域編 ・町内会の夏祭りに行ってきました 2018 子どもの参加編 ○たがさぼからのお知らせ ・新・地域づくりの方程式 自分×✕×地域＝未来 参加者募集！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・夏祭りが地域活動への入り口に ※「広報多賀城」平成 30 年 8 月号とのテーマ連携号
69 号／9 月 15 日 	P 1 ○買って、あそんで感じる「うれしい」「たのしい」人とのつながり ○ヒント from “たがさぼ Press” ・たがさぼ開館 10 周年イベント開催情報 ・「トークイベント」レポート！ ・「たがさぼの七夕雑貨市」レポート！ ○たがさぼからのお知らせ ・NPO きっかけ塾「ひろってハッピー！ ごみひろいできれいなまちを」参加者募集！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・話して、聞いて生み出す「うれしい」「たのしい」人とのつながり
70 号／10 月 15 日 	P 1 ○地域で体感 文化の秋 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・地域の宝物を発掘！ 町内会文化祭レポート ・【町内会文化祭】見せ方・もてなし…さまざま ・地域の自慢が大集合！ 高橋地区合同文化祭に行ってきました ○たがさぼからのお知らせ ・NPO きっかけ塾「やってみようボランティア」参加者募集！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・文化祭で地域資源探し ※「広報多賀城」平成 30 年 11 月号とのテーマ連携号
71 号／11 月 15 日 	P 1 ○つくり手の想いがこもったぬくもりあるクリスマスプレゼント ○ヒント from “たがさぼ Press” ・1 日 1 通の「きずなメール」が「孤育て」を防ぐ ・エレベーターに乗っている 30 秒で活動を知ってもらう ・イベント・講座の広報～情報整理・文書作成編～ ○たがさぼからのお知らせ ・TAGAJ0 Future Labo 4th season マイアプローチ発表会 参加者募集 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・きれいな多賀城駅前で「おかえりなさい」企業の CSR 活動を知る

号数／発行日	内 容（目次）
72 号／12 月 15 日 	P 1 ○やってみようボランティア～学生の想いに迫る～ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・心に寄り添う傾聴 ・イベント・講座の広報～チラシデザイン編～ ・ちょっとだけ物事を論理的に考えてみる「三角ロジック」 ○たがさぼからのお知らせ ・TAGAJ0 Sustainable Relationship（T S R 会議）Vol.2 参加者募集 P 2 ○市民活動はじまりのはじまり ・地域に羽ばたくジュニアリーダー
73 号／平成 31 年 1 月 15 日 	P 1 ○音楽と読み聞かせのコラボレーション ○ヒント from “たがさぼ Press” ・イベント・講座の広報～SNS 編～ ・島の復興と社会的弱者の雇用・自立を応援「浦戸の花物語プロジェクト」 ・アイデアの整理をお手伝い「ひとりブレスト」 ○たがさぼからのお知らせ ・「たがさぼカフェ」オープン！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・知ってもらうことが活動の第一歩 みやぎ化学物質過敏症の会～ぴゅあい～
74 号／2 月 15 日 	P 1 ○地域の力の探し方 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・夏祭りのネタを探している方へ 他地区ではこんなことをしています。 ・地域の宝物を発掘！ 町内会文化祭レポート ・より楽しくアイスブレイクを。カードゲーム「ちょい知る」 ○たがさぼからのお知らせ ・出前NPOいちから塾 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・想いのある若い世代を地域へ ※「広報多賀城」平成 31 年 3 月号とのテーマ連携号
75 号／3 月 15 日 	P 1 ○ウクレレの音色にのせて つながる、広がる、みんなの笑顔 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・デザイン・発想の宝庫 フリーペーパー ・猫と犬の幸せを考える ・イベント主催者必見！ ろう×L G B T Q サポートブック ○たがさぼからのお知らせ ・たがさぼフリースペース 利用団体募集！ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・「支え合い」につながる「お宝」。新たな視点から発掘・活用を！

●配架部数

号数	館内	公共 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	民間施 設店舗	その他	配架部数 合計	発行 部数
64 号 (4 月号)	200	566	166	40	115	80	259	119	1,545	2,000
65 号 (5 月号)	200	586	166	40	115	80	259	119	1,565	2,000
66 号 (6 月号)	200	586	166	40	115	80	259	119	1,565	2,000
67 号 (7 月号)	200	586	166	40	115	80	259	119	1,565	2,000
68 号 (8 月号)	200	586	166	40	115	80	259	119	1,565	2,000
69 号 (9 月号)	200	586	166	40	115	80	259	119	1,565	2,000
70 号 (10 月号)	200	586	166	40	115	80	259	119	1,565	2,000
71 号 (11 月号)	200	586	166	40	120	80	259	119	1,570	2,000
72 号 (12 月号)	200	586	166	40	120	80	259	119	1,570	2,000
73 号 (1 月号)	200	586	166	40	120	80	259	126	1,577	2,000
74 号 (2 月号)	200	586	166	40	120	80	259	126	1,577	2,000
75 号 (3 月号)	200	586	166	40	120	80	259	126	1,577	2,000
配架部数計	2,400	7,012	1,992	480	1,405	960	3,108	1,449	18,806	24,000

配架個所・配架部数 前年度 3 月比

今年度 3 月号										
配架部数	200	586	166	40	120	80	259	126	1,577	2,000
配架個所数		64	52	21	20	6	32	18	213	
前年度 3 月号										
配架部数	200	588	191	40	120	85	289	131	1,644	2,000
配架個所数		61	52	21	19	6	33	17	209	
配架部数増減	±0	-2	-25	±0	±0	-5	-30	-5	-67	±0
配架個所数増減	±0	+3	±0	±0	+1	±0	-1	+1	+4	±0

* 添付資料 □ 「tag」 64 号～75 号

(4) 情報発信強化 ②市民の発信力強化

目的	市民が発信したい情報を、届けたい対象に届くように発信方法を選択して発信する力をつける。
背景	以前より、市民活動団体や町内会の方々から情報発信に関する悩みや新たに発信に取り組みたいという相談が多く寄せられていたことから、平成 29 年度には T S C で情報発信の知識や技術が学べる連続講座「伝わる広報」（文章術、チラシづくり、SNS 活用）を実施した。この講座は団体のビジョン・ミッションや強みなどを整理して、内容や対象に応じた発信方法を選択できることを目的とし、どの回も 20 名近い参加者があり関心の高さがうかがえた。講座後には、約半数の参加者が何らかの形で得たノウハウを活用して発信に取り組み、受け手からの反応があった団体もあった。 このような講座形式では、多くの人数に対して知識やノウハウを一度に提供できるが、日時が決まっているため参加したくても参加できない場合も多くある。また、団体の広報活動としての情報発信だけでなく多賀城の魅力や課題を発信したいと考える市民や団体も存在し、同じ情報発信でもその目的が多様になってきており、講座企画にあたっての絞りを絞りづらいついてきている。 そこで今年度は上記の課題を解消して、より多くの市民に関心を持ち、取り組んでもらうために講座形式での支援ではなく、各事業や日々の業務、利用者とのコミュニケーションの中で広く情報発信の支援をしていく。
対象	・市民活動団体、町内会・自治会・子ども会 ・地域の課題や魅力を日々感じている市民 ・情報発信に関心のある市民
成果目標	・設定なし。
成果	・平成 29 年度に開催した「伝わる広報」講座をもとに、分かりやすく使えるワークシートを作成した（9 月完成。ワークシートは添付資料を参照）。 ・活用件数は 5 件。市民活動団体のイベント広報に関する相談への対応、T S C スタッフが講師を依頼された外部研修の講座、「たがさぼカフェ」での相談対応、事務用ブース団体のインキュベート相談会で活用した。市民が自身の活動について整理し、伝えたい相手の視点に立って情報発信する力が身についた。
次年度に向けた課題	・ワークシートは完成したが、相談対応などでの活用が少なかったため、窓口など分かりやすい場所に掲示・配架することで相談対応につなげる。 ・地域の魅力発信に関しては、発信の実態（どんな媒体で、どんな発信を行っているか）や、市民が自分の住む所・関わりのある地域の魅力を知ることでもある。 ・T S C 利用者や団体より講座開催を希望する声が出ているなど、情報発信支援については一定のニーズが存在する。講座開催とワークシートの活用との相互作用で団体・市民の発信力を強化していく。

* 添付資料

□ワークシート

(5) 市職員研修

目的	・市職員がNPOの本質を理解し、協働のパートナーとしての認識をもつ。 ・市職員が日常の市民との対話で協働での課題解決を見出す意識が芽生える。 ・市職員が協働についての学びや考えを積み重ね、日常で協働を実践できるような仕組みが市の中でつくられる。
背景	多賀城市第五次総合計画の「市民協働実践のための職員育成」の項目において、「市民参画や協働を日常業務で実践している職員割合」は20.2%となっている。また、これまでの市職員研修のアンケートでは協働の実践について「実践の機会がない、思いつかない」「協働についての制度・仕組みが必要」「やらされ感で仕事をしている職員が増えている」という意見が挙がっていた。 これまでの市職員研修の成果・課題を受け、今年度は下記を重点とする。 ①現状の把握 ②さらなるNPOの本質の理解 ③市民とのよりよい対話を日常的に行う そして次年度は下記を重点とする。 ④協働についての研修の仕組み化 ⑤協働実践の仕組み化
対象	・各課より1名＋協働やNPOについて学びたい職員
成果目標	・参加者の90%以上が、改めて地域・社会課題について考え、その解決策としての協働の有用性を見出す。 ・参加者の90%以上が、協働のパートナーとしてのNPOの理解を深める。 ・参加者の30%以上が、協働の実践に向けてアクションを起こす。
成果	・今年度は「公務員の働き方」をテーマに参加者同士がコミュニケーションをとりながら「仕事」について問い直す機会となり、協働を実践するための前提の部分共有することができた。 ・各課から参加があったため、多様な視点で議論することができ、各々の参加者の視野が広がった。 ・受講者アンケートによると全2回の実施の内、第1回(34名参加)の研修理解度(1～5の5段階)の平均は4で、理解度4または5と答えた参加者は76%であった。第2回目(29名参加)の研修理解度の平均は4.1で、4または5と答えた参加者の割合は86%となった。参加者が、協働の実践に向けて「市職員が多賀城市の現状と今後」「現在の仕事の問い直し」「他者とのコミュニケーションの重要性」「NPOの本質」について理解を深めることができた。
次年度に向けた課題	・参加者アンケートによると「協働自体の理解もさらに深めたい(3件)」「NPOについての理解もさらに深めたい(3件)」という内容の記述もあり、少数ではあるが、より協働の実践に向けた研修も必要となる。 ・次年度以降は協働研修・実践の仕組み化を行っていく。市の人材育成像に関わるため、市職員自ら実践・仕組み化に必要なことを考え、研修と体制をつくっていく必要がある。

実施概況 (5) 市職員研修

※2 回連続講座

●第 1 回

日 時：平成 31 年 1 月 10 日(木)15:00～17:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

対 象：各課から 1 名

参加者：多賀城市職員 34 名

内 容：講義、個人・グループワークショップ

○働くことと地域の課題を考える

講師：東北学院大学地域共生推進機構特任准教授 菊池広人氏

- ・キョウドウ（共同、協同、協働）の意味、コミュニケーションの意味
- ・問題と課題の違い
- ・多賀城市、日本、世界の変化
- ・市職員としての仕事に対して「問い」

○NPO いちから塾

講師：多賀城市市民活動サポートセンター 櫛田洋一

- ・NPO について（役割、事例等）
- ・TSC の使い方

●第 2 回

日 時：平成 31 年 1 月 28 日(月)15:00～17:00

会 場：多賀城市役所 601・602 会議室

対 象：各課から 1 名

参加者：多賀城市職員 29 名

内 容：講義、個人・グループワークショップ

○公務員として働くを考える

講師：東北学院大学地域共生推進機構特任准教授 菊池広人氏

- ・「人口減少・少子高齢化」を前向きに考える
- ・公務員とは何か、市役所とは何か
- ・さいたま市の九条俳句訴訟について
- ・ワークライフバランスについて
- ・人間と AI の仕事について
- ・研修を受けて、「発見」「変化」「市職員として働くとは」「チャレンジしたいこと」を考える



第 1 回のグループワークの様子。他者と考えを共有することで新たな発見がある。



第 2 回のグループワークの様子。さまざまな問いをグループで繰り返し、公務員の仕事を改めて考えた。



市職員が地域づくりを進める上で NPO と連携できるよう、会場に NPO の情報コーナーを設置した。

アンケート集計結果

●第 1 回

①研修の理解度

理解度 5	理解度 4	理解度 3	理解度 2	理解度 1
9 人	17 人	8 人	0 人	0 人

②理解度の理由についての記述（抜粋）

【協働について】

- ・これからの日本の状況等と照らし合わせることで必要性を改めて理解できた。
- ・新発見と再確認できた部分があり有意義だった。
- ・協働事例、本気で取り組んでいる自治体の話をもっと知りたかった。
- ・官民とコミュニケーションを円滑に取りながら、より良いまちを作っていくことが重要と感じた。

【NPOについて】

- ・具体的な活動や目的を知ることができた。
- ・課題解決のためにもっと知りたい。

【働き方について】

- ・時代の変化とともに職員の働き方も変化していく。
- ・公務員の再定義ができた。
- ・目の前の仕事ばかり見ていたが、目的は何か考える機会を得られた。

【内容全般について】

- ・グループで情報共有することができて、他の人が考えたことを知ることができた。
- ・これまでの知見は必ずしも通用しない社会になる。やり方は一様ではなく多角的に見て色々な取り組み方を考えることができる。
- ・自分の内にあるものをアウトプットした。課題は何かを考えるきっかけになった。

●第 2 回

①研修の理解度

理解度 5	理解度 4	理解度 3	理解度 2	理解度 1
9 人	16 人	3 人	1 人	0 人

②理解度の理由についての主な記述

【協働について】

- ・大事なことなのでみんなで学ぶべきだと思う。
- ・協働を仕事の中で活かすにはハードルが高いと思っていたが、視点を変えると仕事に対する取り組み方が変わると思った。
- ・もっと具体例や経験話も聞きたい。

【公務員の仕事について】

- ・公務員や市役所のあり方等、日頃の業務で忘れがちなことを再度学ぶことができた。
- ・市役所とはどういうところか、公務員とはどういう職業か再発見することができた。

【内容全般について】

- ・グループワークで他の職員と話すことができて楽しかった。
- ・研修前に比べ、ポジティブな意見を出せるようになった。
- ・グループワークの中で様々な視点や考え方を共有することができ、視野が広がった。
- ・疑問や文句が、改善するにはどうしたらよいかという問いに変わった。

* 添付資料

☐ チラシ

☐ 当日配布資料

(6) その他事業 ①NPOの絵本展

目的	・絵本に関心がある市民（特に子育て世代の方やその子ども）を対象に、地域・社会課題にふれる場を設けることで、課題意識の向上につなげる。 ・絵本に関心がある市民（特に子育て世代の方やその子ども）を対象に、さまざまなNPOが発行した絵本や取り組みを紹介し、NPOの活動の多様さを知ってもらうきっかけとする。
背景	平成 27 年度に多賀城市で開催された「世界絵本フェスタ」に合わせ、TSCでも自主企画として、絵本を通して地域・社会課題あるいはその課題解決に取り組んでいるNPOを知る機会となる「NPOの絵本展」を実施し、NPO、地域・社会課題、TSC自体の認知向上を行なった。 平成 28 年度からは、TSCに来館しない方に向けて、NPO、地域・社会課題、TSCを知ってもらうきっかけとして、他団体主催の子どもや絵本に関するイベントに出向き、絵本の展示や読み聞かせを行っている。
対象	・幼稚園～小学校低学年 ・子育て世代 ・絵本に関心のある市民
成果目標	・設定なし。
成果	・多賀城市内外のイベントに 6 回出展し、絵本の閲覧、読み聞かせ、NPOの紹介で合わせて 192 名がNPOにふれる機会となった。絵本を通して、地域・社会課題やNPOの活動の多様さを知る市民が増えた。 ・今年度は、市内の公民館、図書館の企画でも出展し、広く市民がNPOやTSCを知る機会となった。 ・図書館で絵本展を実施した際は、TSCの蔵書その他、図書館の蔵書も展示し、市民が通常のNPOの絵本展よりも多くのNPOの情報に触れることができた。 ・特に点字の絵本に関して興味を寄せる参加者が多く見られ、市民の視覚障がいへの理解が進んだ。 ・多賀城跡あやめ祭りに出展した際、来場していた音楽活動を行う団体より、音楽と絵本のコラボレーション企画の提案を受け、音楽活動を行う団体、図書館、読み聞かせボランティア、TSCの 4 者連携企画を実施することができた。
次年度に向けた課題	・NPOの絵本展は、成果部分の 4 者連携企画のように、より市民が企画段階から関われる事業であることが分かった。絵本の発行団体と一緒に企画をする等、連携のツールとしても活用していく。 ・絵本の蔵書を増やして多様なNPOを発信していく、出展する機会を増やして多くの市民がNPOに触れる機会を設けていくといったさらなる広がりをつくっていく。

実施概況 (6) その他事業 ①NPOの絵本展

●NPOの絵本展の内容

- ・NPOが発行、制作に携わる絵本の展示
- ・読み聞かせ
- ・発行、制作に携わる団体の紹介

●展示する絵本

- ・減災絵本「リオン」(NPO法人防災士会みやぎ/防災)
- ・「えほん 障害者権利条約」(NPO法人日本障害者協議会/福祉)
- ・「そのこ」(認定NPO法人ACE/国際協力)
- ・千代田いまむかし(まちなびや/まちづくり)
- ・てんてん 他3冊(点字絵本)(NPO法人UD絵本センター/福祉)
- ・森のハロウィン(森林環境ネットワーク/環境)
- ・ちょこっと・ねっとのおはなし(NPO法人アフタースクールぱるけ/福祉)
- ・ボクのせいかも・・・ーお母さんがうつ病になったのー 他2冊(プルスアルハ/子ども・医療)
- ・ぼくは海になった 東日本大震災で消えた小さな命の物語(震災で消えた小さな命展/動物・震災)

鶴ヶ谷児童館 第44回こどもまつり

日 時：平成30年5月19日(土) 9:30~11:30

会 場：鶴ヶ谷児童館

人 数：子ども21名 大人8名

主 催：多賀城市

運 営：特定非営利活動法人 MIYAGI 子どもネットワーク

参加イベントについて：

お話サークル、児童クラブ、老人クラブ、高校生等がボランティアとして参加する児童館のイベント。読み聞かせ、縁日といったメニューが用意されている。



車を使って屋外で展示を行った。子どもの多くは点字絵本に関心があった。

第30回多賀城跡あやめまつり

日 時：平成30年6月24日(日) 10:00~16:00

会 場：多賀城跡あやめ園

人 数：子ども16名 大人38名

主 催：多賀城跡あやめまつり実行委員会

参加イベントについて：

多賀城の市花である、あやめにちなんだイベント。さまざまなステージ企画の他、物産、飲食、ワークショップのブースが並ぶ。多賀城市民のみならず市外からも来場ある。



大きなイベントのため、その分、絵本展の来場者も多い。休憩も兼ねて立ち寄る方も多かった。

第 4 回シオーモ絵本まつり 日 時：平成 30 年 8 月 5 日（日）10:00～15:00 会 場：ふれあいエスプ塩竈 人 数：子ども 7 名 大人 27 名 主 催：多賀城跡あやめまつり実行委員会 参加イベントについて： 絵本についての企画が集まったイベント。読み聞かせ、展示、ワークショップ、ビブリオバトル等のさまざまな企画が用意されている。	 通路に展示したので他の企画に向かう途中に足を留める方も多かった。子どもよりも絵本が好きな大人が多く見ていった。
第 30 回山王地区公民館まつり 日 時：平成 30 年 9 月 30 日（日）9:00～15:00 会 場：山王地区公民館 人 数：子ども 6 名 大人 12 名 ※スタッフ常駐ではないため気付いた範囲で計測。 主 催：多賀城市 参加イベントについて： 公民館を利用している団体の発表の場。今年度は第 30 回という節目でもあり、幅広い年代の来場を促すため、子ども向けの企画も用意された。	 休憩スペースに面していたため、休憩も兼ねて立ち寄る方も多かった。隣室でスタッフが別企画を実施したため絵本展の誘導ができた。
多賀城市立図書館 NPO の絵本展 期 間：平成 30 年 12 月 1 日（土）～31 日（月） 会 場：多賀城市立図書館 A 棟 2F 共有スペース 人 数：不明 ※スタッフ常駐ではないため計測していない。 配架した NPO の絵本展チラシは 13 枚が減っていた。 主 催：多賀城市立図書館 参加イベントについて： 図書館を会場に NPO の絵本展を実施。NPO や点字に関する図書館の蔵書も一緒に展示した。 初日には関連企画として「音と絵本のおはなし会」も開催した。	 付近のベンチを利用する高校生も見ている様子だった。図書館は親子だけでなく若い世代へアプローチできる。

音と絵本のおはなし会

日 時：平成 30 年 12 月 1 日（土）14:00～14:40

会 場：多賀城市立図書館 こどもの家

人 数：子ども 36 名 大人 21 名

主 催：多賀城市立図書館

参加イベントについて：

図書館を会場に定例で実施しているおはなし会の特別版。ライブを聴こう in 多賀城、読み聞かせボランティアよつばのクローバー、多賀城市立図書館、T S C の 4 者による連携企画。読み聞かせにあわせて音楽の生演奏を行うというもの。N P O の絵本の読み聞かせ、N P O の絵本展の紹介も行った。



ライブを聴こう in 多賀城による演奏とよつばのクローバーによる読み聞かせのコラボレーション。より情景を感じたり、音楽で子どもが盛り上がった。

* 添付資料

☐ チラシ

☐ 当日配布資料

(6) その他事業 ②たがさぼカフェ

目的	・市民がT S Cに来館するきっかけをつくる。 ・T S Cスタッフや来館者といろいろな話をすることや、T S Cの機能について知ってもらうことで、今後の市民の来館や活用を促す。
背景	平成 29 年度の「T S C利用者アンケート」によると、T S Cの主な設備・サービスにおける「利用なし」の割合は、貸室 6%、交流サロン 17%、印刷機・コピー機 29%、チラシラック 27%、たがさぼ文庫 41%であった。このことから、T S Cの「5つの機能」のうち、市民の多くが認知して活用されているのは「場の提供（会議室や印刷機の利用）」であり、逆にたがさぼ文庫などの「情報の収集・発信」の認知度はそれほど高くないことが分かる。 また、利用者からは「T S Cスタッフに相談をしたりいろいろ話しをしたいが、窓口だと話しづらい」という声もあがってきていた。 これらのことから、T S Cスタッフ自らがフリースペースに場をつくり、来館者と話をしたりT S Cの機能の紹介・相談対応などを行うことで、来館者とのより深いコミュニケーションや機能の周知につながるのではないかと考え、本事業を企画した。 なお、今年度はT S Cのフリースペースを会場とするが、将来的にはT S C館外での開催も念頭に置いて実施する。
対象	・市民活動に関心のない市民 ・T S Cの利用は会議室のみという団体のメンバー ・T S Cスタッフと話をしたい・相談をしたいという市民・団体メンバー
成果目標	・設定なし。
成果	・T S Cに初めて来館したり、市民活動について知らなかった来館者に、市民活動やT S Cについて知ってもらうことができた。 ・普段の窓口での対応よりもゆとりをもって相談でき、相談者の次のステップにつながった。 ・たがさぼ文庫の展示とともに、利用登録の受付も行ったところ、新規で登録をする方がいた。 ・来館者同士、またT S Cスタッフとのコミュニケーションが深まった。
次年度に向けた課題	・T S Cの機能の周知に関してはその時々々のテーマや内容を踏まえ、主に取り上げる事項を設定し、対象者に合った方法を考えていく必要がある。

実施概況 (6) その他事業 ②たがさぼカフェ

■「たがさぼカフェ」全体概要

○実施時期…1月、2月、3月に各1回ずつ実施。

○会場…T S C フリースペース ※内容や主な対象、開催日の会議室利用状況により、利用する階を決定する。

○主な内容…来館者同士やT S C スタッフとで自由に話をする。

- ・T S C の機能の紹介、活用（たがさぼ文庫、チラシや各種資料の配架、相談対応など）。
- ・その他、テーマに沿って随時プログラムを実施する。

■各回の概要

○Vol.1「新春！たがさぼカフェ」



●日 時：平成 31 年 1 月 14 日（月）10:00～11:00、14:00～15:00

●会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3F 交流サロン

●参 加：13 名（大人 7 名、子ども 6 名）

●プログラム：

- ・「世界がもし 100 人の村だったら」をもとにした意見交換やクイズなど
- ・NPO の絵本展

●参加者の声

- ・明るい雰囲気でした。
- ・貧困地域の教育について、わかりやすく説明して頂き、学びになりました。
- ・フェアトレード等、自分にも出来る事は取り組んでいきたいです。



お茶を飲みつつ、話をしました

○Vol.2「みなさんの相談のります。」



●日 時：平成 31 年 2 月 14 日（木）11:00～14:00

●会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2F ギャラリー

●参 加：6 名（市民活動団体 2 団体・2 名、生涯学習団体 1 団体・2 名、個人 2 名）

●プログラム：

- ・活動に関する相談対応
- ・たがさぼ文庫の書籍展示、利用登録の受付

●今回対応した主な相談内容：

- ・団体の運営、メンバー募集について
- ・助成金について
- ・団体立ち上げについて
- ・団体の問い合わせ
- ・地域の魅力発信について



相談の様子

○Vol.3「たがさぽゲームセンター」



●日 時：平成 31 年 3 月 16 日（土） 11:00～14:00

●会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 1F エントランス

●参 加：16 名（大人 10 名、子ども 6 名）

●プログラム：

- ・ T S C 館内を巡って妖精を探すゲーム
- ・ 視覚を使わず楽しめるゲーム
- ・ 手話のカルタ
- ・ カタログを使って互いの好きなものを考えるゲーム
- ・ 多様性に関する書籍の展示

●参加者の声

- ・ 案外頭脳を使うゲームが多くて退屈しませんでした。
- ・ 視覚を使わず楽しめるゲームがおもしろかったです。小さい子どもたちの発想が豊かでした。



ゲームと会話を楽しみました

* 添付資料 □チラシ

Ⅱ

平成 31 年度事業計画

1 平成 29～31 年度多賀城市市民活動サポートセンターロードマップ修正版（平成 31 年 3 月更新）

平成 30 年度の取り組みを踏まえ、平成 31 年度末にめざす姿への具体的なステップを修正した。

	現状と課題	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018)	平成 31 年度 (2019)	3 年後の姿
重点的な取り組み①	・下記事業を実施していくにあたり、企業、高校・大学と連携できる下地づくりが必要。	●企業との関係構築 ○地元企業の CSR 調査 ●高校・大学との関係構築 ○学生向け NPO きっかけ塾の実施 ○相談対応	○多様な主体で課題に向かう場づくり ○出前いちから塾 ○相談対応	○多様な主体で課題に向かう場づくり ○出前いちから塾 ○相談対応 ○相談対応	・企業、高校・大学が地域づくりの主体として活躍している。
重点的な取り組み② 開館 10 周年記念事業	・多賀城のまちについて集まって話したり考えたりする場が少ない。	○プレイベントの実施 ・Vol.1「世代を超えて集う場」 - Vol.2「まちをもっとおもしろくするかぎ」 →キーワードの収集	○記念イベントの実施 ○イベントの内容を元に 10 周年記念誌を発行 →この 10 年をふりかえるとともに、これからの地域づくりのヒントになるものを発信する。	●多様な主体で課題に向かう場づくり ○セクター同士の取り組み発表会 ○TSR 会議テーマで集まる場 ●連携の有効性と事例の発信 ○リーフレット作成	・多賀城のまちについてさまざまな主体による対話の機会が増えている。
課題解決に向けた取り組み	・課題解決のためにはさまざまな主体が力を発揮する必要がある。（協働から総動へ）	●課題の把握 ○地元企業の CSR 調査 ○自治会・町内会の課題・取り組み事例調査	●多様な主体で課題に向かう場づくり ○多様な主体が集まる場 (TSR) ○企業の CSR の取り組みを発信 ○企業からの相談	●多様な主体で課題に向かう場づくり ○セクター同士の取り組み発表会 ○TSR 会議テーマで集まる場 ●連携の有効性と事例の発信 ○リーフレット作成	・TSC に課題が持ち込まれ、TSC がコーディネーター役となり、さまざまな主体が連携して解決していく道筋ができる。
地域づくりに関わる人材の育成	・少子高齢化が進む中で、地域づくりの担い手育成が必要である。 ・既活動者が活動を継続していくために段階に応じた支援が必要である。	●地域づくりの新たな担い手育成 ○雑貨市 ○NPO きっかけ塾 ・NPO いちから塾 ・対象者別(学生、シニア、現役層) ・出前いちから塾 ○TAGAJO Future Labo ●既活動者の育成 ○伴走型相談対応をベースとする。	○雑貨市 ・ボランティア体験の場の提供 ○NPO きっかけ塾 ・NPO いちから塾 ・対象者別(学生対象、ごみ拾い) ・出前いちから塾 ○TAGAJO Future Labo	○雑貨市 ・ボランティア体験の場の提供 ○NPO きっかけ塾 ・NPO いちから塾 ・出前いちから塾 ・たがさばカフェ ○TAGAJO Future Labo	・市民活動・地域活動への多様な関わり方をしている人が増えている。 ・市民による課題解決の取り組みが増えている。
情報発信強化	・上記の事業の成果を地域に広めていくためには情報発信強化は欠かせない。	●地域づくり活動の発信強化 ○「tag」の発行 ○ウェブサイトにニュースアル ●市民の発信力強化 ○伝わる広報講座(文章術、チラシデザイン、SNS) →既存団体がノウハウを得て発信力強化	○「tag」の発行 ○市民活動情報発信機会創出 →市民が情報発信できる場／市民活動の情報が得られる場が増える ○「tag」の発行 ○市民活動情報発信機会創出 →市民が情報発信できる場／市民活動の情報が得られる場が増える	○「tag」の発行 ○市民活動情報発信機会創出 →市民が情報発信できる場／市民活動の情報が得られる場が増える ○「tag」の発行 ○市民活動情報発信機会創出 →市民が情報発信できる場／市民活動の情報が得られる場が増える	・地域づくりに関する情報によりアクセスしやすくなっている。 ・市民による情報発信がより活発になっている。
市職員研修事業			○市職員研修	○市職員研修	○市職員研修

2 多賀城市民活動サポートセンター平成31年度事業計画

見直しを行ったロードマップに基づき、平成31年度の事業計画を立案した。

大事業	大事業 目的	小事業	主な目的	概要	主な対象	当年度の 到達目標	本数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域内の多様な資源をつなぐ活動、包括的な課題解決に向けた活動、連携モデルづくりを行う。	1	多様な主体で課題に取り組む	●各セクターが互いの取り組みを知り、企業・NPOが取り組む事業の企画・実施・評価の支援を行う。 ●企業・NPOが互いの取り組みを知り、企業・NPOが取り組む事業の企画・実施・評価の支援を行う。 ●企業・NPOが互いの取り組みを知り、企業・NPOが取り組む事業の企画・実施・評価の支援を行う。	●セクター間・市民・NPOの取り組みの企画・実施・評価の支援を行う。 ●企業・NPOが互いの取り組みを知り、企業・NPOが取り組む事業の企画・実施・評価の支援を行う。 ●企業・NPOが互いの取り組みを知り、企業・NPOが取り組む事業の企画・実施・評価の支援を行う。	企業・NPO 自治会・町内会 市民 など	●対象者同士の小さなつながりができている。 ●対象者が互いのことを知っている。 ●テーマについて市長が自発的に考え取り組んでいる。	3												
		※	区長制度の廃止に伴い、自治会・町内会の役割に変化が生じる。その変化に対応し、よりよく自治会・町内会が機能する。	地域コミュニティ課と連携して、具体的な方法は地域コミュニティ課と検討する。	自治会・町内会														
		2	市民活動や、障がい者市民の活動について知る市民を増やす。	●メインのクリスマス障がい者市民活動や、障がい者市民の活動について知る市民を増やす。 ●障がい者市民の活動について知る市民を増やす。 ●障がい者市民の活動について知る市民を増やす。	無関心層 何か活動したいけど、何をしたらよいかわからない層	●市民活動や、障がい者市民の活動について知っている市民が増えている。 ●障がい者市民の活動について知る市民が増えている。	4												
新卒・中途採用者の抱える課題の解決	3	きっかけ	●市民活動やNPO、その活動について知る市民を増やす。 ●障がい者市民の活動について知る市民を増やす。 ●障がい者市民の活動について知る市民を増やす。	●NPOから参加する市民を増やす。 ●障がい者市民の活動について知る市民を増やす。 ●障がい者市民の活動について知る市民を増やす。	何か活動したいけど、何をしたらよいかわからない層 取り組みたいことはあるけど、まだ一歩目を踏み出せない層	●市民活動やNPO、その活動について知っている市民が増えている。 ●障がい者市民の活動について知る市民が増えている。 ●障がい者市民の活動について知る市民が増えている。	3					●23・24 出勤 遅刻 イベント							
		4	TAGAO Future Labo	自分の抱える課題、実践者の話を聞く、想いを抱いたもの同士の話を通して、想いをかきとる。 1回目を公開講座とし、すでに活動している人やOGOBの話を聞く機会を設ける。	何か活動したいけど、何をしたらよいかわからない層 取り組みたいことはあるけど、まだ一歩目を踏み出せない層 すでに活動している層	●自分なりの方法で、活動に取り組む人が増えている。 ●自分の抱えかたからして実践している。 ●自分の抱えかたからして実践している。 ●自分の抱えかたからして実践している。	1												
情報発信強化	5	ローカルグッドの発信	月刊フリーページ「tag」発行	●4・1月・10月・2020年 ●tagの配布先を刷新するとともに、団体の情報発信できる機会を増やす。 ●tagの配布先を刷新するとともに、団体の情報発信できる機会を増やす。	無関心層 潜在的活動者 企業・自治会・学校	●多くの人の目にふれる場が増える。	12	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		6	市民の発信力強化	●プレゼン講座の実施 ●ターゲットを定め、相手が必要とするプレゼンを考える内容とし、さまざまな媒体での発信の基盤を整える。	既活動者 (ケース入居団、PT・受講者等)	●市民の情報発信能力が強化され、必要とする人のために情報が届く。	1												
市職員研修	7	市職員研修	市民活動の必要性の理解を深め、市民活動の基盤をつくる。	※地域コミュニティ課と協議の上決定する。 市民活動、市民活動に関する講義、実践に向けたワークショップの実施を決定。	市職員	●市民の情報発信能力が強化され、必要とする人のために情報が届く。	1												